

都営地下鉄6号線芝園橋工区でアーマー工法を採用



東京都営地下鉄6号線芝園橋工区
の古川下横断に伴う工法は当初全面
凍結工法で計画されていたが、
近接している幹線下水道（4 121 ×
3 300）やガス管（φ950）の関係
に加えて、首都高速道路の橋脚・
橋台への凍上の影響が相当量（直
上で 120 mm）予想されたため、他の
工法に切りかえることとなりました。

本計画地点は、① 河川幅が 18 m
であること、② トンネルの長さが
29.8 m であること、③ 駅部である
こと、④ 表層が傾斜している
ことなどの理由から、河口部のトン
ネル断面が幅 18.14 m、高さ 12.
98 m、掘削断面 235.5 m² と大き
なり、加えて上床は河床から約 4.6
m の土盛りという悪条件であります。
そして、地質は礫出りの砂層で、施
工をいっそう困難なものにしており
ます。

以上のような条件のもとに種々の
工法を比較検討した結果、本計画地
点にはアーマー工法を採用すること
となりました。本工法は鋼管（φ
267.4）を水平に連続圧入し、図や
写真にみられるように掘削時の支保

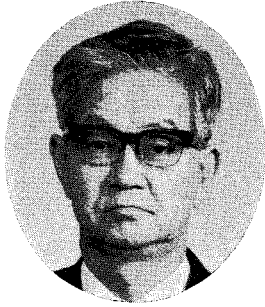


鋼管外径 φ267.4 × 12.7 80kg/m

工とするように考案されたものであります。実用化に先立って、精度・安全面などが
検討され、所期の目標が達せられましたので実際に古川下横断工事に採用されたも
のであります。ただし、本地点では一部凍結工法の併用で施工されました。本メ
ス欄参照のこと。

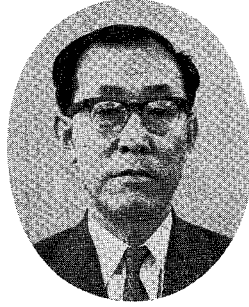
土木学会 昭和 47 年度役員紹介

会 長

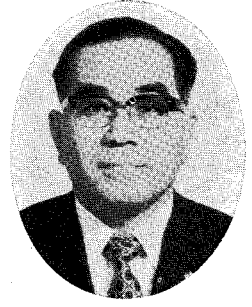


岡本 舜三
埼玉大学 教授

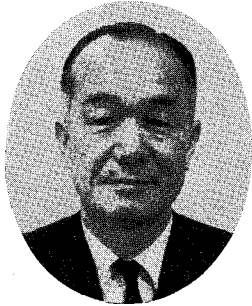
副会長



石川 豊
日本鉄道建設公団理事



坂野 重信
建設省建設事務次官

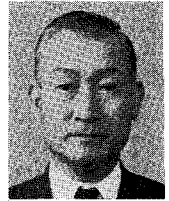


篠原 謹爾
九州大学 教授



横道 英雄
北海道大学 教授

専務理事



下村 肇

理 事



足立 力
（株）大林組取締役



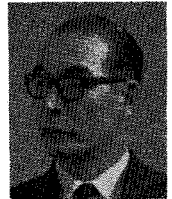
浅間 隆
建設省東北地方建設局企画部長



荒木 謙一
徳島大学 教授



市田 洋
清水建設組取締役



小山内了介
（株）地崎組副社長



大塚 勝美
日本道路公団企画調査部長



岡田 政三
大成建設組専務取締役



金子喜太郎
東京電力公舎総合本部副部長



叶 清
大阪市港湾局長



後藤 尚男
京都大学 教授



鈴木 立夫
（株）鴻池組常務取締役



竹内良夫
運輸省第三港湾建設局長



田辺義亮
広島県住宅供給公社常務理事



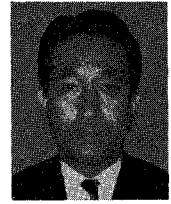
長尾義三
京都大学教授



難波隼象
東京都建設局道路監



林正道
北海道開発局土木試験所長



半谷哲夫
日本国有鉄道建設局計画課長



平嶋政治
早稲田大学教授



福岡正巳
東京大学教授



細井正延
名古屋工業大学教授



松本順一郎
東北大学教授



三浦孝雄
建設省計画局技術調査官



吉田寛市
日本道路公団福岡支社長



米田啓一
名古屋下水道局長

監事



奥田教朝
三井共同建設コンサルタント専務取締役



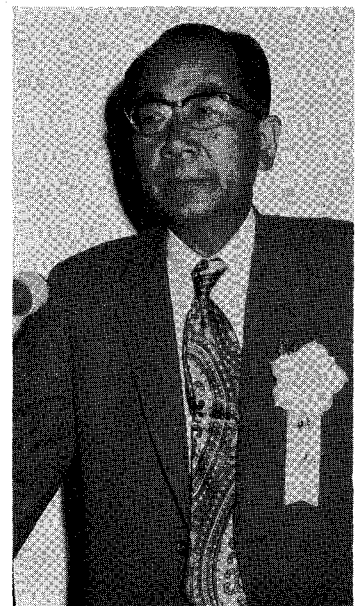
渡辺豊
前田建設工業㈱取締役

**第58回通常総会
会挙行さる**

昭和47年5月29日、東京都新宿区市ヶ谷にある私学会館で第58回土木学会通常総会が挙行された。総会と年次学術講演会などの行事が分離・挙行されるようになってから本年は第5回目であるが、前年にもましての多くの参加者を集め盛会であった。

写真説明

- (左) 高野第59代会長から土木学会賞を受ける原田実会員
- (右) 特別講演をする長浜正雄会員



土木学会名誉 会員推挙報告

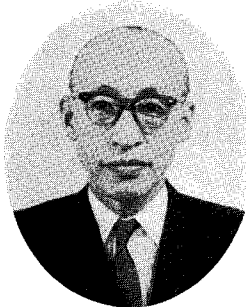
(五十音順・敬称略)

土木学会第 58 回通常総会において、下記 3 名の方々が土木学会名誉会員に推挙されま
したのでご報告申し上げます。ここに、土木学会名誉会員は 73 名(昭和 47 年 6 月現在)
をかぞえることになりましたことを、あわせてご報告申し上げます。

あまこういち 安芸皎一

現 在：関東学院大学教授
拓殖大学教授
首都圏整備委員会委員
日本ユネスコ国内委員会調査委員
工学博士
生年月日：明治 35 年 4 月 9 日(満 70 才)
大正 15 年：東京大学工学部土木工学科卒
大正 15 年：内務省奉職
昭和 19 年：東京大学教授兼任
昭和 21 年：建設省土木研究所長
昭和 23 年：経済安定本部資源委員会事務局長
昭和 26 年：経済安定本部資源調査会副会長
昭和 26 年：東京大学生産技術研究所教授兼任
昭和 31 年：原子力研究所参与
昭和 31 年：科学技術庁科学審議官
昭和 35 年：国連アジア極東経済委員会治水水資源開発局長
昭和 39 年：関東学院大学教授
昭和 45 年：拓殖大学教授
昭和 46 年：首都圏整備委員会委員
昭和 20 年度：土木学会理事
昭和 21 年～ 35 年：土木学会水理委員会委員長

しのほらたけし 篠原武司



現 在：日本鉄道建設公団総裁
工学博士
生年月日：明治 39 年 4 月 16 日(満 66 才)
昭和 5 年：東京大学工学部土木工学科卒
昭和 5 年：鉄道省奉職
昭和 25 年：四国鉄道管理局長
昭和 29 年：臨時財産監理部長
昭和 30 年：西部総支配人兼門司鉄道管理局長
昭和 32 年：鉄道技術研究所長
昭和 36 年：八幡製鉄(株) 参与
昭和 39 年：日本鉄道建設公団副総裁
昭和 45 年：日本鉄道建設公団総裁
昭和 21 ～ 22 年度：土木学会理事
昭和 32 ～ 33 年度：土木学会副会長
昭和 41 年度：土木学会会長(第 54 代)

ひらいやのまけ 平井弥之助



現 在：財団法人 電力中央研究所理事
社団法人 発電水力協会会長
電源開発調整審議会委員
生年月日：明治 35 年 5 月 16 日(満 70 才)
大正 15 年：東京大学工学部土木工学科卒
大正 15 年：東邦電力(株) 奉職
昭和 16 年：日本発送電(株) 理事
昭和 23 年：日本発送電(株) 理事
昭和 26 年：東北電力(株) 常務取締役建設局長兼土木部長
昭和 35 年：東北電力(株) 取締役副社長
昭和 37 年：東北電力(株) 辞任
昭和 38 年：電力中央研究所理事
昭和 38 年：東北電気工事(株) 取締役会長
昭和 45 年：発電水力協会会長
昭和 46 年：東北電気工事(株) 辞任
昭和 28 年度～ 32 年度：土木学会常議員
昭和 34 年度：土木学会東北支部長
昭和 35 年度～：土木学会東北支部顧問

土木学会昭和47年度全国大会

講演概要集・見学会・懇親会申込書

黒インクまたは黒鉛筆ではっきりお書き下さい

◎申込期限：8月31日（木）（期限厳守して下さい）1人1枚として不足の時はこの用紙をコピーして下さい。

氏名	フリガナ		年齢	才		
勤務先		電	勤務先	自宅		
連絡先	郵便番号	（	話			
勤務先						
自宅						
概要集	I	応用力学，構造力学，構造工学，橋梁一般，鋼橋など	2000円×	部＝	円	
	II	水理学，水文学，河川工学，港湾工学，海岸工学，発電水力，衛生工学など	1900円×	部＝	円	
	III	土質工学，基礎工学，岩盤力学など	1300円×	部＝	円	
	IV	道路工学，鉄道工学，交通計画，都市計画，国土計画，測量など	1000円×	部＝	円	
	V	土木材料，土木施工法，コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など	1100円×	部＝	円	
	期限内申込みに関り送料は学会が負担します。 概要集は予約制としますので前納金を添えて申込下さい。			①	小計	円
	なお本年度は概要集の会場渡もいたしますので，送本，会場渡のどちらかに○印をご記入下さい。			○印をご記入下さい		
				送本		
				会場渡		
見学会	定員になり次第締切ります。				○印をご記入下さい。	
					第1希望	第2希望
	関門橋 新幹線関門トンネル コース	10月23日（月）	定員 90名	参加費 1000円前納		
玄海原子力発電所 コース	〃	〃	〃			
	② 参加費前納金				円	
懇親会	10月21日（土）参加費 2000円前納 満員になり次第締切ります。			③ 参加費前納金	円	
	送金合計 ①+②+③				円	

◎必要事項を記入のうえ代金前納金を添えて現金書留で下記あてお送り下さい。（現金持参前納も可）

◎締切期限後の取消しによる返金はいたしません。

申込先 郵便番号 810 福岡市中央区薬院2丁目14番21号

土木学会西部支部全国大会係あて TEL 福岡 (092) 78-3716

土木学会誌

内容紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってカードにはりつけて整理に供して下さい。

土木学会昭和47年度全国大会

土木学会誌 第57巻 第8号(7月号), pp. 前付(9)~(42), 昭和47年7月(July 1972)

土木学会昭和47年度全国大会は、昭和47年10月20日より22日まで西部支部の所在地である福岡市の九州大学で開催される。大会は、特別講演会、第27回年次学術講演会、研究討論会、映画会、懇親会などが主軸となっているが、本文では、それら行事の内容を紹介し、特別講演3題および年次学術講演1043題の総目次を掲載するとともに研究討論8テーマの要約を掲載、参加者へのガイドとしている。

超高速鉄道——第二東海道新幹線——

長 浜 正 雄

土木学会誌 第57巻 第8号(7月号), pp. 3~10, 昭和47年7月(July, 1972)

昭和47年5月29日、東京市ケ谷の私学会館で举行された土木学会第58回通常総会の特別講演の速記録を中心にとりまとめたものが、本論文である。本論文では東海道新幹線の成功が今日の鉄道輸送の大きな転換点であったことを指摘するとともに、近い将来、第二東海道新幹線が必要とされることを明示する。そして、次にくる輸送方式がリニアモーターを中核とするまったく新しい形態をとることを予測し、そのためにとられている世界の研究現況を述べ、あわせてわが国の現況を伝えている。

土木学会第58回通常総会報告

土木学会誌 第57巻 第8号(7月号), pp. 23~35, 昭和47年7月(July 1972)

土木学会第58回通常総会は昭和47年5月29日、東京市ケ谷の私学会館で開催され、昭和46年度事業報告、決算報告、名誉会員の推挙、土木学会賞の授与、吉田研究奨励金の授与、新任役員の紹介、などのほか、昭和47年度事業計画案、予算案、などが報告された。

本文は、総会議事の収録および土木賞の授賞経過、受賞論文要旨など、通常総会に関係した記事を掲載している。

創造に参加する喜びを

広域的な月水文量の解析とそのシミュレーション

室 田 明 (大阪大学)
江 藤 剛 治 (大阪大学)
角 湯 正 剛 (電力中央研究所)

[土木学会論文報告集 第 203 号, pp. 1~11, 1972 年 7 月]

広域的な水資源開発という見地からは、水文量の変動の空間的構造に関する基礎的な特性の解明が必須であるにもかかわらず、現在のところこれに関する調査研究は十分に行なわれているとは言いがたい。また実際に広域的な水資源開発計画を立てる場合に、必要十分な長さの同時記録が存在していることはまれであり、これが計画の策定をより困難にしていることが多い。

本論文では、北海道・東北地方を除くわが国の代表的気候区が隣接している近畿圏をモデル・ケースに選び、まず、水文量の空間構造の平均的特性を調べるために、代表的な観測点の月雨量資料について成因分析を行なった。次に、水資源計画上もっとも重要な渇水時の相互相関特性を知るために、同じ資料に対して筆者らの提案した層別相関分析を適用した。これにより、次のようなことが明らかになった。1) 近畿圏の各月降水量に関与し

ている因子の種類と関与の程度、2) 低水や高水のみ相互相関特性を調べる手法として、相別相関分析が有効であること、3) 低水や高水の層別相互相関特性は、全標本を用いて計算される通常の相互相関特性とかなり異なった性状を示す場合がある。

一方、計画に必要な同時記録の不足に対しては、Fiering らにより始められた水文量の simulation の手法が有用な資料を提供すると考えられる。多地点で同時に水文量を simulate するモデルについては、Matalas の研究と、それを発展させて水文量の分布が年周期変動を伴う場合について適用した Young-Pisano の研究が有名である。しかし Young らの研究においても、各月の相関行列は年を通じて一定であると仮定されている。ところがわが国のように水文量の季節的変動の激しい国では、空間的相関構造・時系列的相関構造ともに年を通じて一定であるとみなすことはできないので、筆者らはそれぞれが月ごとに異なる場合について式を誘導し、近畿圏の主要な河川の月流量と、代表的観測点の月雨量について simulation を行なって、実測データより得られた結果と比較した。これにより、本論文に示したモデルによって、各月各地点に対して分布・相関構造ともに十分な精度で simulate できることがわかった。

盛土の設計安全率決定に関する研究

長 尾 義 三 (京都大学)
松 尾 稔 (名古屋大学)
黒 田 勝 彦 (京都大学)

[土木学会論文報告集 第 203 号, pp. 13~27, 1972 年 7 月]

土木構造物を設計する場合、その安全率のとり方はきわめて重要な問題である。本論文では、具体的な対象として粘土地盤上の盛土の設計安全率を取り上げ、主として、破壊確率を考慮した経済的な評価モデルの提案と、これに関する試算や実際例による種々の検討を行なっている。

第 1 章は序文であり、論文の内容と筆者らの基本的な立場を説明してある。

第 2 章では、この研究が調査、設計、施工の流れの中のどの位置に位するかを述べ、経済的な評価と調査や設計との相互関係を明らかにした。そして、設計安全率を決定する場合の最も基本的なインデックスである破壊確

率としては、盛土施工直後のそれを採用するのが妥当であることを説明した。

第 3 章においては、経済的な側面から適正な盛土の破壊確率を求めるための評価モデルを提案している。すなわち、地盤調査費 C_E 、建設費 C_C 、破壊損失費 C_F 、ある基準状態（無処理状態）からの破壊確率の減少率 ζ としたとき、盛土建設に際する期待総費用 C_T を

$$C_T(\zeta) = C_E(\zeta) + C_C(\zeta) + \zeta C_F(\zeta)$$

で与え、膨大な安定計算の結果をもとにして、上式右辺各項の関数形を求めた。本論文における費用関数の決定において特徴的、かつ基本的に重要なことは、それらの関数が土質力学的な諸条件を十分考慮したうえで決定されていることである。

第 4 章においては、一、二の試算例の後に、上述の評価モデルを実際の盛土に適用し、種々の代替案の中で実際に行なわれた設計がどの程度の適正さを有していたかを検討している。

第 5 章では、得られた成果を簡単にまとめてある。

土中土圧計四種の作動に関する研究

松 沢 宏 (名古屋大学)
石 井 恒 久 (日本道路公団)

[土木学会論文報告集 第203号, pp. 29~44, 1972年7月]

土圧計の受圧板に関する諸外国の研究を参考にして、大きさや形状が異なった偏平で軽量のダイヤフレーム型の土中土圧計を4種類試作した。計器は安定性と確実性をもたせるために間接作動型とした。4種類のうち1つの計器には受圧板に耐久性をもたせるために補強板を取り付けたが、この程度の補強板の存在は計器の作動に支障をきたさなかった。

これらの計器が土中で示す作動を綿密に調べるために、土の密度をかえて数多くの検定を行なった。その結果、土圧計の作動に影響する要素が定量的にわかってきた。すなわち、土の密度、繰返し載荷回数、計器周辺の土中に生じている応力の大きさ、ならびに計器の硬さや形状によって土圧計の計測誤差がどのように変化するか定量的にわかってきた。さらに、すぐれた作動を示す土中土圧計においても応力集中はさげられなく、土の密

度によって応力集中係数 (p_e/p_0) は数パーセントから25%にも達しうることがわかった。しかしながら、すぐれた計器の p_e/p_0 の値は土の密度または土と計器との相対剛度 (E_s/E_g) の変化に対してある法則性をもって変化することが確認できた。本研究ではこの法則性として Tsitovitch らが示した式

$$\frac{p_e}{p_0} = \frac{\frac{B}{D} \cdot \frac{E_g}{E_s} - 1}{\frac{\pi(1-\nu_s^2)}{4} \cdot \frac{B}{H} \cdot \frac{E_g}{E_s} + 1}$$

を用いたが、この式は実測値をかなりによく満足した。また、Taylor が考え出した土圧計の作動係数の値は試作した計器で実験を行なった範囲内で $-0.5 \sim 3.0$ の間にあった。

土圧計の断面を皿型にすると応力集中による計測誤差の軽減にかなりの効果があることも見出した。

応力集中係数ならびに作動係数の値を計算で求めるために必要な計器の変形係数 E_g は各計器に対する圧縮試験から決定した。また、土の変形係数 E_s は検定土槽内の砂の沈下量から決定した。 E_g の値を圧縮試験を行なって求めたのは本研究がはじめてである。

高い等方圧力を受ける砂の 圧縮特性について

三 浦 哲 彦 (工業技術院九州
工業技術試験所)
山 内 豊 聡 (九州大学)

[土木学会論文報告集 第203号, pp. 45~52, 1972年7月]

高い圧力のもとで、砂が高圧縮性を示すことはすでに知られているが、圧縮の時間依存性については、これまであまり検討されていない。本研究は、豊浦標準砂に 500 kg/cm^2 までの等方的圧縮圧力を加え、圧縮の時間依存性におよぼす、圧縮圧力、初期間げき比ならびに間げき水の存在の影響などを明らかにした。

本研究によって得られたおもな知見は次のとおりである。

(1) ある圧力範囲において、圧縮度と時間の間に特異な関係のあることを見出し、圧縮度、圧縮圧力、初期間げき比、および経過時間の関係を表わす実験式を与えた。いくつかの変数を実験的に求めておけば、関係式を用いて圧縮度が100%に達するに要するおおよその時間を推定できる。

(2) 砂の圧縮過程は、三段階に分けて考えることができる。一次圧縮過程は、圧力付加後数分間に終わりこの間に、圧縮全過程において生じる粒子破碎の大部分が終了する。これに続く二次圧縮過程は、主として粒子間すべりに基づいて進行するもので、数時間を要する。高い圧力を受けた砂が、間げき水の存在のもとに、数百時間にわたって徐々に圧縮される過程を三次圧縮過程と呼び、前二者と区別した。

(3) 圧縮による試料の粒子破碎量は、初期間げき比 e_0 と最終間げき比 e_f との差 ($e_0 - e_f$) と密接な関係にあり、最終間げき比とは無関係である。

(4) 圧縮圧力の対数と間げき比の関係は、圧力が数十 kg/cm^2 に達するまでは直線的に緩やかに変化し、その勾配は初期の大きさにかかわらずほぼ一定である。高圧域における実験試料の圧縮指数は、二次圧縮に対して0.25、三次圧縮に対しては0.52にもおよぶ。

以上の実験結果をもとに、高圧三軸試験による砂の力学的性質を調べるための、実験上重要な一指針を与えた。また、フィルダムを築造する際に考慮すべき、一、二の事項について言及した。また、この種の研究を行なう際見逃すことのできない測定上の問題についても検討した。

コンクリート道床軌道の振動および レールの波状摩耗について

小野 一良 (金沢大学)
伊藤 義男 (金沢大学)

[土木学会論文報告集 第203号, pp. 53~65, 1972年7月]

北陸線深坂トンネルは全延長に木短まくらぎを埋込んだコンクリート道床となっているが、開通後数年でレールに波状摩耗を発生し、またコンクリート道床より離れて浮きを生じたまくらぎが多数発生した。開通後9年経過したときには波状摩耗の波長が30~50cmとなり、深さが0.6mmに達する箇所を生じた。またレール交換後5年で0.4mmの深さに達した場合もある。このような箇所で列車通過中にレールに生ずる曲げ応力を測定したが、客車および空の2軸ボギー貨車通過中に大きな衝撃が発生し、その大きさは静荷重の100%に達していた。また道床上において振動速度を測定したが、特に空の2軸ボギー貨車の通過時においてコンクリート道床に波状摩耗の波長に一致した約50Hzの振動を生ずることが認められた。

コンクリート道床を有する延長6mの試験軌道の上に振動発生機を置いて軌道に各種の振動数の振動力を加えたが、振動数が22.5Hzのときに最大振幅となった。この振動数を共振振動数と呼ぶことにすれば理論的解析によって共振振動数は路盤土の圧縮に対する弾性係数の平方根にほぼ比例することを知った。トンネル内においては路盤の弾性係数が高か高いことが推定されるので波状摩耗レールを列車が走行するときの振動は軌道の共振振動数に一致すると考えることができる。

以上に述べたところによっていったん波状摩耗が発生すればこの上を通過する車輪の上下動によってますます波状摩耗の進行するであろうことは容易に推定できるが、波状摩耗の端緒については不明のところが多い。レール溶接部における硬度の変化、タイプレート下におけるまくらぎ面の摩滅、浮きまくらぎの発生またはまくらぎの劣化によってレール、車輪走行面に凹凸を生じ、わずかでも落込み箇所を生ずればこれにより次第に波状摩耗がレールの長さの方向にも深さの方向にも発展すると想像される。

砕石・細砂コンクリートにおける 混和剤の影響について

加場 重正 (金沢大学)
川村 満紀 (金沢大学)
斉藤 満 (金沢工業大学)

[土木学会論文報告集 第203号, pp. 67~77, 1972年7月]

コンクリート用天然骨材不足の傾向が伝えられる今日、砕石と海岸砂丘砂がコンクリート用骨材として使用できるならば、非常に好都合であるという考えのもとに、著者らは過去において一連の実験研究を行ってきた。

その結果、斉粒子かつ細粒子である海岸砂丘砂と砕石を組合わせたコンクリートの最も不利な点と考えられるワーカビリティに関しても適当な細骨材率を選定することにより、ワーカブルでプラスチックなコンクリートが得られ、十分使用可能という結果を得た。

これらの結果をもとにして、本実験は一步進めて砕石

・細砂コンクリートに混和剤を添加した場合のコンクリートの諸性質を知り、また凍結融解試験を行ない実際上コンクリートを使用するにあたってきわめて重要な性質である耐久性を知り、その結果を報告するものである。

プレーンコンクリートの配合をそのままにしてAE剤を添加した場合は、空気量1%の増加により、スランプ1.5~2.0cmの増加がみられ、4週圧縮強度の減少は25kg/cm²程度となり、普通コンクリートに比較してかなり大きい値となる。

減水剤、AE剤を添加しプレーンコンクリートと同様のスランプを得るようにした場合においては、分散効果により減少できる単位セメント量は、砕石・細砂コンクリートも普通コンクリートと大差なく、空気連行による単位水量減少率に関してもほとんど同様である。耐久性に関しては、コンクリートに混和剤を添加しない場合、砕石・細砂コンクリートは普通コンクリートに比較して耐久性指数がきわめて大であり、また混和剤を使用し空気を連行することにより普通コンクリートと同程度まで耐久性が改善される。

不規則波自身による拡散について (英文)

玉井 信行 (東京大学)

[土木学会論文報告集 第 203 号, pp. 79~91, 1972 年 7 月]

海域に放出された流体塊が初期運動量を有しない場合に、不規則波によってどのように拡散するかが論じられた。放水口から遠くへたった領域での冷却用廃水の運動、海域での物質拡散などが考察の対象である。従来の海洋拡散の理論および実測資料においては、種々の要因の総合された結果としての濃度分布が考察されているが、本論文は不規則波自身による寄与を分離して把握することを目的としている。

ラグランジュ流に記述された波において、相互干渉を考慮した三次までの振動解が一様波に対して求められた。解はまず二つの波群について相互干渉解が求められ、その後、無数の波群に対して拡張された。

拡散係数は水面変位のパワースペクトルの関数として与えられ、拡散性が存在するのは三次以上の相互干渉解であることが判明した。高次の非線型項を取扱う場合には通常の意味でのスペクトルでは不十分で、水面変位の

三次成分までに対するパワースペクトルを、日野の方法に従って求めた。

テイラーの拡散理論と同様に、二つの領域が与えられ、領域を分かち指標は、時間に比例してその振幅が増大する三次干渉波の波高が一次波高と同一のオーダに達するに要する干渉時間である。干渉時間より小さな時間スケールに対しては、拡散係数は時間は比例し、それより非常に大きな時間スケールに対しては、拡散係数は一定である。実際の海域では相対拡散が支配的であり、前者はこの特性を示すものと考えられる。一方、実験水路では全体のスケールに制限があり、絶対拡散が生じ、後者の場合に対応すると考えられる。

平衡状態における水面変位のパワースペクトルを利用して算定された拡散係数を、海洋での観測値、実験室での結果と比較してみると、染料および浮遊粒子を用いた実験とはオーダが異なる。しかし、理論の構成と同じく変動速度の相関から得られた値は、関数形とオーダとも一致する観測例の報告もある。理論値と観測値との差は、理論が不規則波のみを対象としているのに、観測値は他の要因をすべて含んでいることにも原因がある。成分波の相互干渉の実態、拡散におよぼす個々の要因の寄与の分離などは、なお残された今後の課題である。

公共投資配分に基づく地域所得格差に関する基礎的研究 (英文)

山村 悦夫 (北海道大学)

[土木学会論文報告集 第 203 号, pp. 93~102, 1972 年 7 月]

現在、国土計画、地域計画において地域所得格差に関する問題は一つの基本問題になっている。特に、土木施設は公共性が強く、施設を計画する土木計画者にとって、これらの問題は一つの重要な問題となってきている。

本論文においては、特に、各地域への公共投資の最低投資配分率と各地域の貯蓄率に注目して、生産所得と地域所得格差との関係について理論的なモデルを用いてシミュレーション分析を行なうものである。このモデルの解析にあたっては、シミュレーション分析による電子計算機の利用より、最適解の解析として離散型最大原理に基づいて分析をする。このモデルは次のとおりである。

S_j^i : i 期間の j 地域の貯蓄率, P_j^i : i 期間の j 地域

の投資生産力係数, U_j^i : i 期間の j 地域への投資配分率, $(\sum_j U_j^i = 1)$ D^i : i 期間の最低投資配分率。

X_j^i : i 期間の j 地域の所得。 ($X_j^i - X_j^{i-1} \geq 0$)

Z^i : i 期間の国民生産所得。 ($Z^i = \sum_j X_j^i$)

毎期の国内投資と貯蓄との均等関係より次の式を考える。

$$X_j^i - X_j^{i-1} = P_j^i \cdot U_j^i \cdot (\sum_j S_j^i \cdot X_j^i)$$

境界条件は次のとおりである。

$X_j^0 = C_j$ (初期所得), $D^i \leq U_j^i \leq 1 - D^i$, 目的関数は $J = Z^N \rightarrow \text{Max}$ 。

ハミルトニアン, 補助変数は次のとおりである。

$$H^i = \sum_j \psi_j^i \{ P_j^i \cdot U_j^i (\sum_j S_j^i \cdot X_j^i) + X_j^i \} + \psi_{M+i}^i \{ \sum_j (P_j^i \cdot U_j^i \cdot (\sum_j S_j^i \cdot X_j^i) + X_j^{i-1}) \},$$

$$\psi_j^i = \partial H^i / \partial \psi_j^{i-1}.$$

ここで, $\psi_{M+i}^i = 1 (i=1, \dots, N)$, $\psi_j^N = 0 (j=1, \dots, M)$

このモデルより、各地域の最低投資配分率と貯蓄率の変化による数種類のシミュレーション分析を行なう。

アスファルト混合物の動的特性 (英文)

大町 達夫 (東京大学)
渡辺 隆 (東京工業大学)

[土木学会論文報告集 第203号, pp. 103~112, 1972年7月]

アスファルト混合物で片持ばり (40 cm × 10 cm × 4 cm) を作り、曲げ振動実験を行なった。この実験結果から混合物は、Voigt 型や Maxwell 型のような線型粘弾性体的特性を示さぬことが判明した。すなわち、図-1 のように動的弾性率と動的損失率を縦横軸にとり、混合物の複素弾性率 $E^*(i\omega)$ のベクトル軌跡を求めると翼形となり、Voigt 型の半直線、Maxwell 型の半円とは異なっていた。

この種の複雑な特性を示すために特性線分なる指標を提案した。これは図-2 の線分 PQ で示されるもので、混合物の $|E^*(i\omega)|$ と振動数との曲線において、応力とひずみとの位相差が 45° になる振動数での混合物の周波数特性曲線とその漸近線への垂直距離、およびその線分の上下端の位置とで決定される。この振動数 (位相差 45°) では弾性および粘性による変形抵抗が等しく、またこの線分の長さにより低振動数での粘性的特性から高

振動数での弾性的特性への変化の度合いが示され、長さが長いほどこの変化が緩慢である。

特性線分により単純な混合物の振動特性を検討した結果、アスファルト膜厚が大体 5 ミクロン以下に薄くなると、厚いものとはかなり異なった動的特性を示すこと、またアスファルトに鉱物粒子を混合すると弾性的領域が広くなることが判明した。

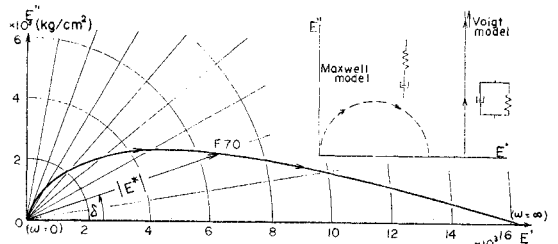


図-1 複素弾性率 $E^*(i\omega)$ のベクトル軌跡

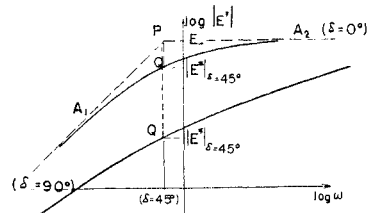


図-2 特性線分

土木学会刊行物

- | | | |
|----------------------|----------|----------------|
| 土木計画学講習会テキスト | 1 | 800 円 (〒 100) |
| 土木計画学講習会テキスト | 2 | 1200 円 (〒 100) |
| 土木計画学講習会テキスト | 3 | 1200 円 (〒 100) |
| 土木計画学講習会テキスト | 4 | 1200 円 (〒 100) |
| 1 土木計画学シンポジウム | | 700 円 (〒 100) |
| 2 土木計画学シンポジウム | | 700 円 (〒 100) |
| 3 土木計画学シンポジウム | | 700 円 (〒 100) |
| 4 土木計画学シンポジウム | | 700 円 (〒 100) |
| 5 土木計画学シンポジウム | | 900 円 (〒 100) |

国際会議ニュース

(1) IABSE Symposium on Resistance and Deformability of Structures Acted on by Well Defined Repeated Loads

(繰返し荷重をうける構造物の耐荷性状と変形能力に関するシンポジウム)

期 日: 1973年9月13日, 14日

開催地: リスボン (ポルトガル)

テーマ: 標題の内容を主テーマとし, 次のサブテーマに分類される.

- I. Theorization of structural behaviour with a view to defining resistance and ultimate deformability
- II. Studies on damping and energy absorption of structures
- III. Experimental studies concerning steel structures, their elements and their connections
- IV. Experimental studies concerning reinforced, prestressed, and partially prestressed concrete structures and their elements
- V. Rules for structural design. Safety concepts

会議用語: 英, 独, 仏

論 文: 本年秋に公刊予定の一般報告に対する討議論文の形式をとり, 申込みは本年(1972年)12月31日締切.

申込先: 至急下記宛 Final Invitation の送付方を申込む.

Secretariat of IABSE
Swiss Federal Institute of Technology
Haldeneggsteig 4
CH-8006 Zurich, Switzerland

(2) International Colloquium on Integrated Systems in Civil Engineering

上記の Colloquium が 1972年8月30日~9月1日の3日間, ベルギー国の Liege 大学で開かれます. Integrated System とは, ICES (アメリカ), GEN-

ESYS (イギリス), SYSFAP (ベルギー) のようなものを言います. くわしくは, 名古屋大学工学部成岡昌夫教授あておたずね下さい.

(3) 8th Canadian Symposium on Rock Mechanics

期 日: 1972年11月30日~12月1日

開催地: トロント大学

テーマ: Tunnelling in Rock

論 文: 1972年6月30日まで Summary を提出

参加費: 25ドル (学生5ドル)

申込先: c/o The Mining Association of Canada 20
Toronto St., Toronto 210 Canada

国内問合せ先: 土木学会岩盤力学委員会宛

(4) International Symposium on Uncertainties in Hydrologic and Water Resource Systems

期 日: 1972年12月11日~14日

開催地: アメリカのアリゾナ大学

主催: University of Arizona

論 文: 本論文を 1972年9月30日まで

参加費: 30ドル

連絡先: Dr. Chester C. Kisiel, Chairman,
Organizing Committee International
Symposium on Uncertainties in Hydrologic
and Water Resources 208 East-Old
Psychology Building University of
Arizona Tucson, Arizona 85721, U.S.A.

(5) First International Congress on Construction Communications

期 日: 1972年9月24日~28日

開催地: オランダのロッテルダム

主催: The Construction Specifications Institute
The Construction Sciences Research
Foundation, Washington, D.C., U.S.A.

会議用語: 英語, 仏語

申込先: The Secretariat P.O. Box 9058,
The Hague The Netherlands



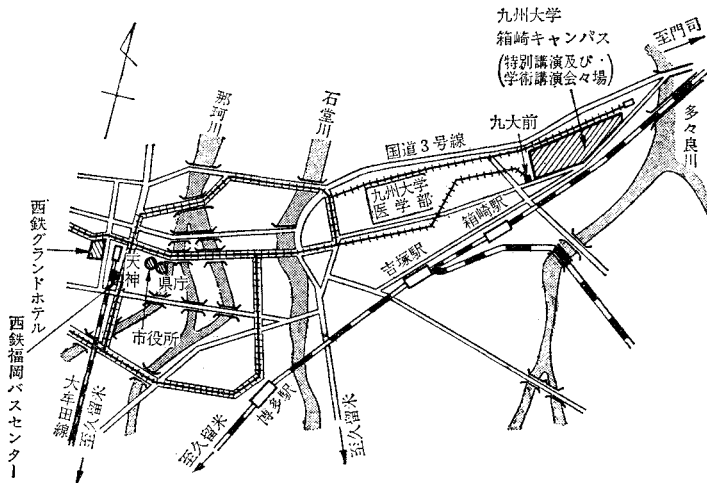
土木学会昭和47年度全国大会



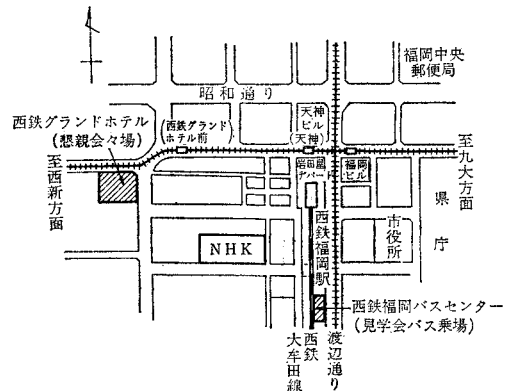
行事・会場案内

行 事	日 時	会 場	会 場 経 路	
特別講演会	10月20日(金) 9.00~12.00	九州大学 箱崎キャンパス	◎九州大学箱崎キャンパス 福岡市東区箱崎町 電話 福岡 092-64-1101 博多駅前より 市内電車 10番(九大前行, 16分間隔)…九大前下車 16番(貝塚行, 16分間隔)…箱崎松原または九大中門前下車 西鉄バス, 45番(香椎行, 不便)……箱崎松原または九大北門下車 国鉄バス(不便)………米山町	
第27回年次 学術講演会	10月20日(金) 13.00~16.00			
	10月21日(土) 9.00~16.00			
	10月22日(日) 9.00~17.00			
研究討論会	10月20日(金) 16.00~17.30			◎西鉄グランドホテル 福岡市中央区大名2丁目6番60号 電話 福岡 092-77-7171 九大構内より 貸切バス………西鉄グランドホテル (21日 17.45 運行)
	10月21日(土) 16.00~17.30			
映 画 会	10月20日(金) 13.00~16.00		九大前より 市内電車 1番………西鉄グランドホテル前下車 箱崎松原または九大中門前より 市内電車 5番………西鉄グランドホテル前下車	
	10月21日(土) 9.00~16.00			
	10月22日(日) 9.00~16.00			
懇 親 会	10月21日(土) 18.30~20.00	西鉄グランドホテル	箱崎松原または九大北門より 西鉄バス………天神町三丁目または天神町	

会場案内図

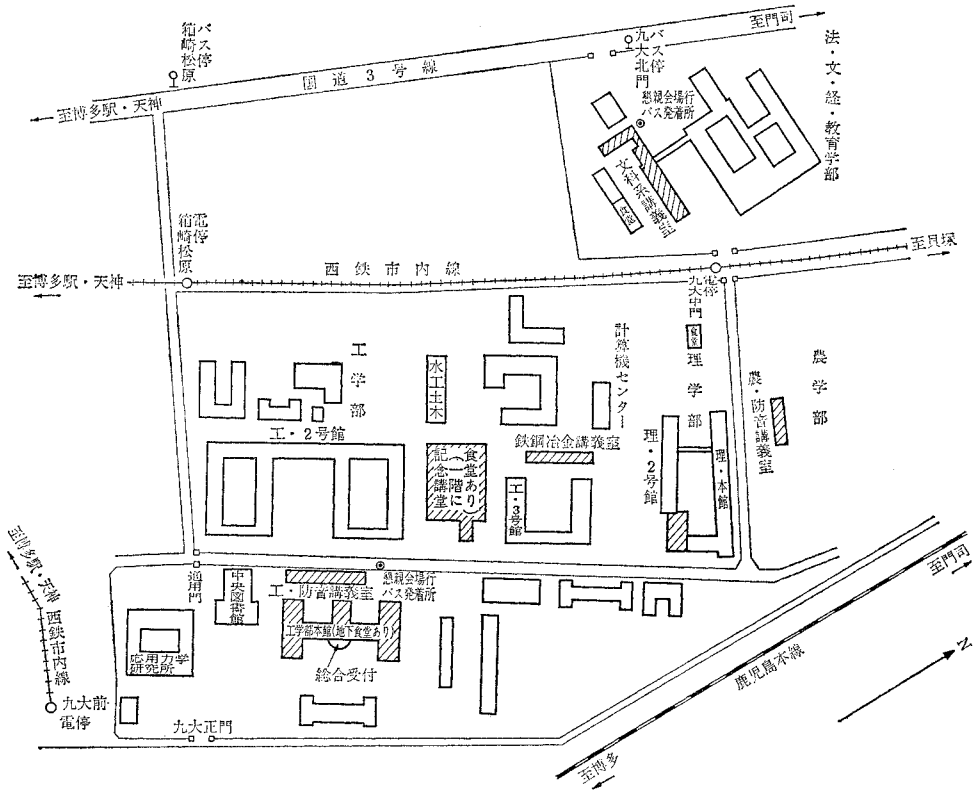


福岡市内略図

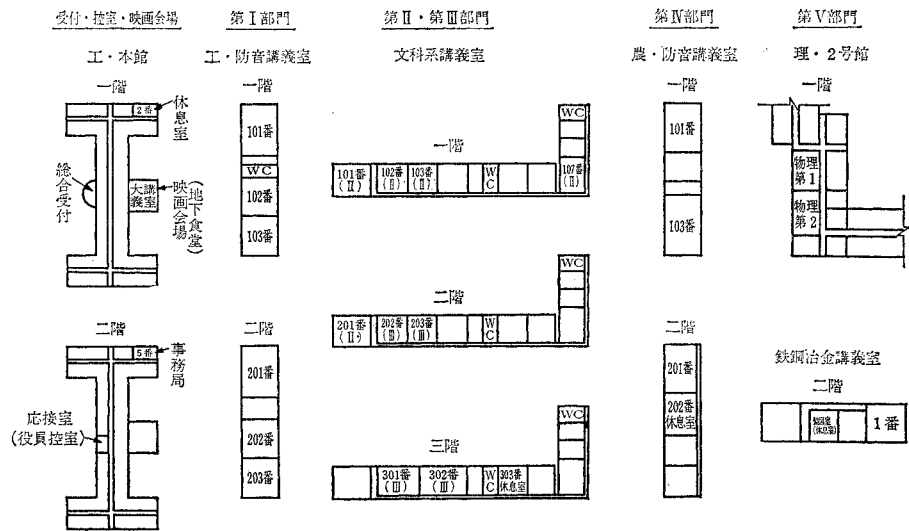


懇親会場および見学会バス乗場案内

九州大学箱崎キャンパス建物配置図



学術講演会・映写会場配置図



1 特別講演会 (3題)

会場：九州大学記念講堂

月 日	時 刻	講 演 題 目	講 演 者
10月20日(金)	9.00~10.00	地震工学の現況	土木学会会長 岡本舜三
	10.00~11.00	九州の経済動向	九州・山口経済連合会専務理事 浜正雄
	11.00~12.00	筑紫路の大宰府	福岡県文化財専門委員 筑紫豊

2 第27回 年次学術講演会

研究発表 (1048題)

会場：九州大学箱崎キャンパス内各学部

月 日	時 刻	部 門 別 講 演 数				
10月20日(金)	13.00~16.00	第I部門	第II部門	第III部門	第IV部門	第V部門
10月21日(土)	9.00~16.00					
10月22日(日)	9.00~17.00	293題	274題	190題	145題	146題

3 研究討論会

本年は、各部門から1~2テーマを選定し、座長および話題提供者を中心に、一般会員に自由に参加していただき討論を行ないます。

会場：九州大学箱崎キャンパス

月日・時刻	会 場	研究討論会題目	座長及び話題提供者
10月20日(金) 16.00~17.30	工学部 防音教室 201	構造用鋼板の選定とその設計,施工 (HT 70, HT 80 キロ鋼を含む)	座長：笹戸 松二 (阪神高速道路公団) 話題提供者： 明石 重雄 (横河橋梁) 阿部 英彦 (国鉄) 酒井 利一 (新日本製鉄)
		主旨：鋼構造物の設計に際して、要求性能を満たし、経済的な設計を行なうためには、設計ディティールの問題とともに、鋼板の板厚に応じた、機械的性質、施工性などの材料の特性を考慮した、最適な鋼種の選定が重要な問題となる。	
10月21日(土) 16.00~17.30	工学部 防音教室 201	構造計算における電子計算機的作用	座長：大地 羊三 (法政大学) 話題提供者： 飯田 隆一 (建設省) 宮田 尚彦 (国鉄) 大坂 憲司 (三菱重工)
		主旨：構造計算における電子計算機の現状をふまえ、その功罪、反省、批判、展望等と種々の面から討論を進める。	
10月20日(金) 16.00~17.30	文科系講義室 201	都市産業廃棄物の処理	座長：岩井 重久 (京都大学) 話題提供者： 森下 忠幸 (厚生省) 平岡 正勝 (京都大学) 高月 紘 (京都大学) 花島 正孝 (福岡大学) 岩下 彰郎 (福岡市)
		主旨：都市・産業廃棄物の収集運搬、破碎、圧縮、焼却、中和、脱水等の処理および埋立や海洋還元に関する研究討論会を、関連技術者、研究者の話題提供によって行なう。	

10月21日(土) 16.00~17.30	文科系講義室 201	水工学における資料解析について	座長：岩垣 雄一（京都大学） 話題提供者： 角屋 睦（京都大学） 日野 幹雄（東京工業大学） 堀川 清司（東京大学）
		主旨：電子機器の進歩による観測実験装置の自動化や多様化，各種資料の急増，データ処理の迅速化，解析理論および新概念・新手法の導入など，最近の資料解析法の変革は著しい。ここでは，とくに水文学，河川水理学，海岸工学の各分野におけるこの方面の問題点をとり上げて討論する。	
10月20日(金) 16.00~17.30	文科系講義室 101	シラス切土斜面の崩壊とその設計	座長：山内 豊聡（九州大学） 話題提供者： 上田 通夫（鹿児島大学） 露木 利貞（鹿児島大学） 藤本 広（宮崎大学） 持永竜一郎（道路公団）
		主旨：シラスの防災上の諸問題のうち，もっとも論議の多い，切土斜面の崩壊とその設計法に問題を絞って討議し，とくに設計法について基礎的な方向づけをしようとするものである。	
10月21日(土) 16.00~17.30	文科系講義室 101	トンネル工事における岩盤調査	座長：小野寺 透（埼玉大学） 話題提供者： 今西 誠也（建設省） 高橋 彦治（国鉄） 御牧 陽一（東京電力）
		主旨：岩石トンネルまたは大規模な地下掘削のためにルート選定時における調査・計画の段階から，設計・施工の段階を通じて，どのような調査を行ない，その結果をどのように施工に適用したかという問題について，意見交換をしようとするものである。	
10月21日(土) 16.00~17.30	工学部 防音教室 101	幹線交通体系と九州	座長：内田 一郎（九州大学） 副座長：天野 光三（京都大学） 話題提供者： 山根 孟（建設省） 大塚 友則（運輸省） 町田富士夫（国鉄）
		主旨：九州を中心として国土の幹線の交通体系の将来の方について考察する。すなわち，高速道路，新幹線鉄道，港湾，空港などの交通施設が，将来の九州の総合開発との関連において，いかに整備されるべきであるかについて討議する。	
10月20日(金) 16.00~17.30	工学部 防音教室 101	海洋とコンクリート	座長：樋口 芳朗（国鉄） 話題提供者： 小林 一輔（東京大学） 杉田 透夫（本四公団） 西沢 紀昭（中央大学）
		主旨：わが国の土木界の将来において重大なウェイトを占められる海洋土木をコンクリート技術者の立場からとり上げ，海水海砂使用の問題，水中施工における問題点，海水構造物においてコンクリートの占める役割等を中心として議論を進める。	

4 懇 親 会

会場：西鉄グランドホテル

月 日	時 刻	参 加 費	方 式
10月21日(土)	18.30~20.00	2000円	立食パーティ

参加申込：本号添付の申込書に参加費2000円を添えて8月31日（木）までにお申込み下さい。満員になり次第締切ります。
貸切バス：当日研究討論会終了後九大構内—西鉄グランドホテル間に貸切バスを運行いたします。ご利用下さい。

5 映 画 会

会場：九州大学工学部本館大講義室

月 日	時 刻	上 映 映 画
10月20日(金)	13.00~16.00	・筑紫の国文化財・松原下釜ダム建設記録(総集編)・グラベルに挑む・大山潭水路トンネル・未来をひらく東名高速道路・三井鉱山第三人工島築造工事・OCW 工法
10月21日(土)	9.00~16.00	・新日本紀行はかた・海底に結ぶ・新熊本空港・MCS(マックス)工法・羽田水底トンネル・川の上を走る高速道路 ・戦火の中のダム建設・建設への参加(東名高速道路)・東京一福岡6時間への挑戦・アスファルト遮水式ロックフィルダム・天草五橋・80万トンドックの誕生・ゆるぎなき基礎
10月22日(日)	9.00~16.00	・ふるさとを守る九州の河・SSS 工法・アルプスにダムが出来た(総集編)・多摩川をわたる沈埋トンネル ・拓けゆくインドネシア・原子力とともに・加古川PCプレキャストブロック工法・津波との闘い・巨大なニューマチックケーソンの記録・世界の道路と都市(高速道路)

注：都合により内容の一部に変更があるかも知れません。

6 見 学 会

コ ー ス 名	期 日	定 員	参 加 費	見 学 コ ー ス
関門橋及び新幹線関門トンネルコース	10月23日(月)	90名	1000円	8.30 福岡バスセンター—関門橋—関門トンネル—門司 ・小倉駅前通過—福岡着 17.00
玄海原子力発電所コース		90名	1000円	9.00 福岡バスセンター—玄海原子力発電所—外津橋— 唐津駅前通過—福岡着 17.00

参加申込：本号添付の申込書を添えて8月31日(木)までにお申込み下さい。満員になり次第締切ります。

7 宿 泊 及 び 乗 車 券

宿泊及び乗車券のお世話はいたしません。各自でお手配下さい。

8 第27回 年次学術講演概要集

B5判にオフセット印刷した講演概要を、部門別分冊として頒布いたします(9月下旬土木学会本部内全国大会講演概要集係より送本予定)。頒布は原則として予約制です。

部 門	部 門 別 内 容	頒 価
第 I 部	応用力学, 構造力学, 構造工学, 橋梁一般, 鋼橋など 293 題 約 910 頁	2000 円
第 II 部	水理学, 水文学, 河川工学, 港湾工学, 海岸工学, 発電水力, 衛生工学など 274 題 約 840 頁	1900 円
第 III 部	土質力学, 基礎工学, 岩盤力学など 190 題 約 554 頁	1300 円
第 IV 部	道路工学, 鉄道工学, 交通計画, 都市計画, 国土計画, 測量など 144 題 約 384 頁	1000 円
第 V 部	土木材料, 土木施工法, コンクリート及び鉄筋コンクリートなど 145 題 約 424 頁	1100 円

購入申込：本号添付の申込書に代金を添えて8月31日(木)までにお申込み下さい。

9 申 込 先

〒 810 福岡市中央区薬院 2-14-21

土木学会 西部支部内 全国大会係 TEL 福岡 (092)-78-3716

10 第 27 回年次学術講演会プログラム

第 I 部門 (応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋など)

注: 勤務先 C はコンサルタントを示す。

▶工学部防音教室 2 階 201 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (構造解析—演算子法) 13.00~14.30

- (I-1) 演算子法の発展 信州大正〇谷夏 勉之助 正太郎
- (I-2) 演算子法による連続梁の高次振動の解析 信州大正〇谷夏 勉之助 正太郎
- (I-3) 骨組橋脚と一体になった格子—演算子法による一本目沢 勉之助 正太郎
- (I-4) 演算子法による弾性床の上の曲り梁について 信州大正〇谷夏 勉之助 正太郎
- (I-5) 堤防下の挿管の解析—演算子法による一〇佐谷夏 勉之助 正太郎
- (I-6) 弾性床の上の円板—演算子法による一〇谷夏 勉之助 正太郎

(休憩 10 分)

個人発表 (構造解析—演算子法) 14.40~15.40

- (I-7) 二次元骨組の汎用プログラム (演算子法) 建設技研正〇小谷夏 勉之助 正太郎
- (I-8) 任意立体トラスの汎用プログラム (演算子法による) 信州大正〇谷夏 勉之助 正太郎
- (I-9) 演算子法による剛性のあるワーレントラスの立解 信州大正〇谷夏 勉之助 正太郎
- (I-10) 巨大なトラス橋 (演算子法) 信州大正〇谷夏 勉之助 正太郎

▶工学部防音教室 2 階 201 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (構造解析—有限要素法) 9.00~10.30

- (I-11) 有限要素法の基礎としての変分原理に関する一考察 東工大正 吉田 裕
- (I-12) 有限要素法と数値誤差について (その II) C R C 正 〇新 武田 洋
- (I-13) 有限要素法に対するトポロジ的的手法の応用 東北大学 〇新 武田 正 雄 茂
- (I-14) 有限要素法による時間依存の場の解析に対する一考察 C R C 正 武田 洋
- (I-15) 有限要素法による非定常温度分布解析—直接法と差分法の比較 鹿島建設 正 佐々木 貫 猛 明
- (I-16) 有限要素法による粘性非定常流の定式化に関する考察 秋田大学 〇工藤 三 二

(休憩 10 分)

個人発表 (構造解析—有限要素法) 10.40~11.55

- (I-17) 有限要素法による立体構造解析 東工大正 〇吉田 田 裕 一 紀
- (I-18) 三次元解析の有限要素法について C R C 正 〇久保 久 洋 弥
- (I-19) 有限要素法による埋設管の応力解析 清水建設研 正 〇相川 京 博 幸 一 宏
- (I-20) 有限要素法によるパイプビームシェル構造物の解析について 電研 正 〇岩 岩 博 一 広
- (I-21) 有限要素法によるマイクロボラ体の解析について 中大正 〇川原 睦 人

(休憩 65 分)

個人発表 (構造解析—有限要素法) 13.00~14.30

- (I-22) 有限要素法による有孔ばりの弾塑性解析 大野村 裕 一 勇
- (I-23) 断面変形をゆるす長方形ばりの剛性マトリックス法 政大正 〇板橋 啓 治 三 健 一 郎
- (I-24) 平板曲げの解析法に関する一考察 川田工大正 〇橋本 啓 治 一 郎
- (I-25) 有限要素法による板の大たわみ曲げ解析 建大土木研 正 〇川成 島 一 彦 夫
- (I-26) 有限要素法による板振動固有値解析 京大正 〇山島 田 善 一 信
- (I-27) 有限要素法による動的解析の一考察 C R C 正 〇竹中 中 裕 一 行 洋 一

(休憩 10 分)

個人発表 (構造解析—一般) 14.40~15.40

- (I-28) ガセットプレートを介するパイプ継手部の構造解析 日立造船正 〇近藤 節 淳 雄
- (I-29) 構造模型自動解析装置について 阪工大正 〇赤栗 尾 親 助 一 一
- (I-30) Hermite 階差法による平板 (等方性, 異方性) の解析 岐阜大正 〇上井 上 肇
- (I-31) 対稱構の変形を考慮した箱型トラスの立体解析 阪大正 〇西村 山 定 宣 夫 一 男

▶工学部防音教室 2 階 201 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (構造解析—一般) 9.00~10.30

- (I-32) 非線形構造物の解析に関する二, 三の考察 京大正 〇山田 善 一
- (I-33) 非線形解析における荷重増分法の加速計算法 阪大正 〇前田 幸 雄 正 守

- (I-34) 梁・柱の有限変形法 本四公団正林 有一郎
- (I-35) 有限変形法によるケーブル系構造物の立体解析 東工大正吉田 裕生
- (I-36) アーチ系橋梁の有限変位について 本四公団正藤井 郁夫
- (I-37) 初期変形を考慮した曲げ部材の大変形法における剛性マトリックス 宮地鉄工正藤井 隆夫

(休憩 10 分)

個人発表 (構造解析—一般)
10.40~11.55

- (I-38) マトリックス法による骨組解析の考察 C R C 正武田 洋之
- (I-39) マトリックス法による構造計算の汎用プログラムについて 法政大正山下 三明
- (I-40) 伝達マトリックス法による曲線構造物の基本式 九州工大正山本 宏
- (I-41) ブロック遷移マトリックス法における特異の問題 熊大正池田 亮次
- (I-42) トランスファー・マトリックス法による任意形状格子桁の解法 宮地鉄工正藤井 隆夫

(休憩 65 分)

個人発表 (構造解析—一般)
13.00~14.00

- (I-43) らせん梁の剛性法による解析について 北清大正芳村 仁啓
- (I-44) 曲げねじりを考慮した部材のねじり剛性 法政大正大田 羊三
- (I-45) ねじり剛性を考慮した格子桁および鋼床版のアフィン荷重群による解法について 北清大正渡辺 界徳
- (I-46) 影響線載荷による任意格子 三交総合研正原直 裁

▶工学部防音教室 2 階 202 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (三次元弾性解析)
13.00~14.30

- (I-47) 斜交パイプ構造継手近傍における応力の解析 豊田高専正桜井 孝昌
- (I-48) 円筒座屈に関する非軸対称三次元応力解析について 室蘭工大正能町 純雄
- (I-49) 直方体の応力解析について 北清大正奥村 勇
- (I-50) 方形フーチングの三次元弾性解析 阪工大正岡村 宏
- (I-51) 部分的に剛性の異なる三次元弾性体の数値解析 阪工大正岡村 宏
- (I-52) 三次元弾塑性非軸対称問題の数値解析 阪工大正岡村 宏

(休憩 10 分)

個人発表 (弾性論・応力集中)
14.40~15.40

- (I-53) キャステレーテッド・ビームに関する二次元弾性論的研究 九大正後藤 忠之輔

- (I-54) 複数の任意形状孔を有する弾性体内の応力、変形状態 山梨大正平島 健一
- (I-55) 基本解の重ね合せによる弾性境界問題の解法 京大正丹羽 次一
- (I-56) 切欠きを有する弾性体の縦せん断応力 名工大正長谷部 宣男

▶工学部防音教室 2 階 202 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (耐力力と崩壊)
9.00~10.30

- (I-57) 剛節トラスの耐力力に関する研究 名工大正菊池 洋一
- (I-58) トラス構造物の非線型挙動に関する実験的研究 信州大正吉沢 孝和
- (I-59) 平面棒構造物の弾塑性安定解析について 近畿大正星児 治弘
- (I-60) 吊橋ケーブルソケットの弾塑性解析 北岩手大正渡辺 昇裕
- (I-61) RC 橋の耐力力推定に対する簡便法 橋本大正渡辺 良義
- (I-62) 繰返し荷重をうける構造物の荷重・変形関係について 信州大正草間 志文

(休憩 10 分)

個人発表 (耐力力と崩壊)
10.40~11.55

- (I-63) I 形断面曲りばりの非弾性座屈 関西大正三上 市蔵
- (I-64) 基礎杭のたわみに関する弾塑性解析 信州大正草間 志弥
- (I-65) 円孔を有する H 形ばりの耐力力 広島大正大野 裕実
- (I-66) 箱形変断面鋼柱の終局耐力 東国鉄構設大正奥村 敏彦
- (I-67) 補剛材を有する板要素の圧縮強度に関する実験的研究 阪神高速大正小北河吉 夫

(休憩 65 分)

個人発表 (座屈)
13.00~14.30

- (I-68) 補剛された中空円形断面柱の危険荷重について 名工大正松浦 聖正
- (I-69) 座屈を考慮した柱の最適設計 (株)長大橋正下林 憲和
- (I-70) 鋼柱座屈強度の統計的解析 名工大正青木 徹彦
- (I-71) 変断面鋼柱の強度と変形 沢大正西田 進博
- (I-72) 初期不整を有する変断面圧縮材の弾塑性座屈について 阪明石高専大正小松山 夫孝

(I-73)⑤ 矢板の側方座屈について
室蘭工大 正 能町純雄
苫小牧高専 〇沢岡田健一之

(休憩 10 分)

個人発表 (座席)
14.40~15.40

(I-74) 分割法による剛節骨組の一定定解析法
徳島大 正 〇児嶋弘行
川崎重工 〇平尾伯 深尚
(I-75)⑤ 連続ばりの非弾性横倒れ座屈
金沢大 正 〇吉井田博宏
沢葉大 〇本芳
(I-76) アーチ系橋梁の座屈について
本四国計 正 〇藤井郁夫
大和設 〇藤江 森治 哲好
(I-77) 3 ヒンジアーチの座屈特性について
長崎大 正 崎山 毅

▶工学部防音教室 2 階 202 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (座席)
9.00~10.30

(I-78)⑤ ラーメン直線形隅角部の後座屈挙動について
関西大 正 〇米沢博
〇福武 田八利 郎彦
(I-79)⑤ ラーメン隅角部の腹板の座屈値について
北大 正 〇渡川辺昇
〇川上 圭 洵司
(I-80)⑤ 扇形平板の座屈値について
北大 正 〇渡川辺昇
〇川上 圭 洵司
(I-81)⑤ 中間柱を有する平板の柱座屈に関する研究
九大 正 〇梶木周武
長崎大 〇井高 福介
(I-82)⑤ 変厚補剛板の圧縮座屈
関西大 正 〇米沢博
〇三上 市 誠純
(I-83)⑤ 差分法によるリブ付板の弾塑性座屈解析
東大 正 〇奥村敏
〇長谷川 彰 正 恵夫
国鉄 〇長 正 敏

(休憩 10 分)

個人発表 (プレートガーダーの耐荷力)
10.40~11.55

(I-84)⑤ フランジ曲げ剛性を考慮した腹板のせん断強度に関する研究
東洋大 正 〇高田孝信
〇新延 泰
(I-85)⑤ プレートガーダーの初期不整合耐荷力に及ぼす影響に関する実験的研究
神戸製鋼 正 〇藤森良一
〇藤野 真
(I-86)⑤ 水平補剛材をもつプレートガーダーの横倒れ座屈強度
名城大 正 〇久保山士弘
〇城大 〇久保山 全
(I-87)⑤ アルミ合金桁の終局強度に関する研究 (第 1 報)
大阪府高専 正 〇前田幸雄
神戸製鋼 〇三宮 本 和政 彦良
(I-88)⑤ 大たわみ、およびリブの補剛を考慮した長方形鋼板の弾塑性曲げ座屈
阪工大 正 〇岡村宏
東洋技研 〇吉 田 意

(休憩 65 分)

個人発表 (弾塑性解析)
13.00~14.45

(I-89)⑤ 梁の動的粘弾塑性解析
宮崎大 正 〇大田俊昭
〇中 沢 隆

(I-90)⑤ 残留応力およびひずみ硬化の影響を考慮した I 形断面
はりの弾塑性安定解析
九日大 正 〇櫻木武雄
新大 〇海江田 紀光
九 〇大津留 昭矢

(I-91)⑤ 残留応力を有する鋼構造部材の圧縮一振り実験について
一電縫鋼管の場合一
阪大 正 〇小松定夫
〇崎元 太郎

(I-92) 歪硬化現象を考慮した鋼材の弾塑性振り挙動について
宮崎大 正 〇大津留昭矢

(I-93)⑤ 軸対称地盤の弾塑性解析
田大 正 〇色部誠之
〇伊藤 知 洋

(I-94)⑤ 応力空間における距離の概念と降伏条件に関する考察
東北大 正 〇佐武正雄

(I-95) 微視的な自由度を考慮した材料の性質に関する考察
東北大 正 〇佐野正佑
〇岸 雄 次

▶工学部防音教室 2 階 203 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (薄肉構造)
13.00~14.30

(I-96)⑤ 薄肉断面曲線ばりの応力解析 (曲率が変化する場合)
長崎大 正 〇梁恒律
〇神代 夫子
(I-97)⑤ 曲げねじれを考慮した曲線桁の剛性マトリックスの解法
北大 正 〇藤井徳司
〇藤 裕
(I-98)⑤ 桁の振れに及ぼす横構の効果に関する研究
東大 正 〇奥村敏
〇山 善 恵
空港公団 〇山 善 恵
(I-99) 下横構で補剛された薄肉断面ばりのねじり特性
山東大 正 〇深谷泰悦
〇名真 誠 武
鹿島建設 〇名真 誠 武
(I-100)⑤ コンクリート連続箱桁橋のねじり応力特性について
北高正 〇佐伯昇一
〇新堂 誠
(I-101) Die Berücksichtigung der Querschnittsverformungen bei der Wölbkrafttorsion von dünnwandigen Trägern mit offenem Profil
早大 正 〇平嶋政治
〇白木 恒 雄

(休憩 10 分)

個人発表 (細部構造)
14.40~15.55

(I-102)⑤ 箱断面を有するラーメン隅角部の応力状態
中部工大 正 〇塩城見朝恭
〇塩 弘 幸
(I-103)⑤ 板桁端部切欠部の応力分布 (その 3)
首都高 正 〇加藤正
〇小三 敏 尚
川田工業 〇三 敏 尚
(I-104)⑤ 引張りをうける T 型パイプ継手の応力解析
東大 正 〇奥村敏
〇秋 村 永 興
本四公団 〇秋 村 永 興
埼玉大 〇秋 村 永 興
(I-105) 経合わせ鋼板溶接部の強度計算法について
川崎製鉄 正 〇原井道彦
〇横 上 智 也
〇横 上 智 也
(I-106) 異形棒鋼を用いたずれ止め基礎的研究
阪大 正 〇前田幸雄
〇井 田 幸 雄
〇井 田 幸 雄
〇倉 田 幸 雄

▶工学部防音教室 2 階 203 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (疲労)
9.00~10.30

(I-107)⑤ 高力ボルト摩擦接合のボルト軸力が疲労強度に及ぼす影響
東工大 正 〇西村俊夫
〇三 俊 夫
(I-108)⑤ プレートガーダーの疲れ挙動に関する研究 (第 1 報)
神戸製鋼 正 〇藤森良一
〇藤野 真 一 之
〇添 田 良 真 弘 基

- (I-109)◎ 合成桁の両振れ曲げ疲労試験について
室蘭工大 正 ○志 村 作太郎
政 大 正
- (I-110)◎ スタッドジベルを溶植した SMA 58 鋼板の曲げ引張
疲労強度について 北海大 正 ○大 鋼板の曲げ引張
佐々木 秀 久男
- (I-111)◎ コンクリートサンドウィッチ鋼板の疲労試験
阪大 正 ○松 田 幸雄之
前 田 幸
- (I-112)◎ 疲労試験データの電算ファイルと自動化
名大 正 須山 池 洋一
学 正 山 健太郎
○神 谷 周

(休憩 10 分)

個人発表 (疲労)
10.40~11.10

- (I-113)◎ 繰り返し荷重を受ける切欠部材の応力一歪挙動
東大 正 ○奥 村 敏志
学 正 ○奥 村 敏志
- (I-114)◎ 杭式海中構造物の波浪による疲労損傷性状
鹿島建設 正 野村 陽一
〇三村 長二郎
中 山 三 雄生

個人発表 (クリープ)
11.10~11.55

- (I-115)◎ PC 合成連続桁のクリープおよび収縮応力解析
九大 正 彦 坂 照順
学 正 ○田 康
- (I-116)◎ プレストレストコンクリート構造物の結弾性解析
秋田大 正 ○赤 木 誠之
〇赤 木 知
- (I-117)◎ 結弾性材料における緩和関数の決定について
秋田大 正 ○色 木 誠之
〇色 木 知

(休憩 65 分)

個人発表 (板)
13.00~14.30

- (I-118)◎ 上下床板と縦横リブによるサンドウィッチプレートの解
析 室蘭工大 正 能 町 雄之
北見工大 〇大 島 俊
- (I-119)◎ 任意境界条件を有するフラットスラブ構造の影響面解
法 清水建設 正 ○博 木 武一
中 村 竜
- (I-120)◎ 円形曲りばりて弾性支持される扇形板の影響面解法
川崎製鉄 正 ○金 山 忠徳
〇金 山 男也
- (I-121)◎ 一方向連続扇形平板の解法 九川 大 学 ○大金 塚 久
川崎製鉄 正 金子 忠男
- (I-122)◎ 方眼マルチセル構造物の応力解析について 室蘭工大 正 能 町 雄一
学 正 ○佐 藤 純健
〇佐 藤 純健
- (I-123)◎ コンクリート橋の折板理論による展開 (第 1 報)
首都高速 正 ○小 村 邦
住友建設 〇小 村 邦

(休憩 10 分)

個人発表 (板)
14.40~15.40

- (I-124)◎ 補剛材を有する板要素の溶接残留応力に関する研究
阪大 正 小 松 典夫
〇小 松 典夫
神 速 正 吉 牛 正利
日 立 達 船 〇植 田 正利
- (I-125)◎ 3次元弾性体上の平板の曲げについて 阪市大 正 倉 田 宗
明石高専 〇高 谷 宏
阪市大 〇高 谷 章直勉
- (I-126)◎ 弾性基礎上の板 (STELCON) の実験的研究 (第 2 報)
神戸製鋼 正 肥 春 生郎剛
ステルコン(株) 〇堤 崎 三
神戸製鋼 〇堤 崎 三
- (I-127)◎ 鉄筋コンクリート床板の非弾性変形解析 阪市大 正 倉 田 宗
〇倉 田 宗
大 阪 市 〇堀 田 章
〇堀 田 章

工学部防音教室 2 階 203 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (設計法)
9.00~10.30

- (I-128)◎ プレテンション補剛桁を有するアーチ橋について
(第 3 報) 神戸製鋼 正 波 田 凱
〇波 田 凱 夫
〇波 田 凱 夫
- (I-129)◎ アーチ橋に対する許容応力について 東北大 正 倉 西 茂
〇倉 西 茂
- (I-130) 実働荷重による橋梁の疲労寿命について 金沢大 正 〇小 堀 為
三菱重工 〇小 堀 為 雄夫
大 本 建 大 〇小 堀 為 雄夫
- (I-131) 骨組構造解析における相似則とその応用 瓶本 大 正 三 池 亮
大 瓶 本 大 〇三 池 亮 次
〇三 池 亮 次 一美司
- (I-132) 道路橋基本設計手法に関する一考察 日 大 正 設計 木 田 哲
阪神高速 〇吉 岩 川 津 量
〇吉 岩 川 津 量
- (I-133)◎ 高架道路橋における路面排水実験と適用について 阪神高速 正 設計 木 田 哲
〇吉 岩 川 津 量
〇吉 岩 川 津 量

(休憩 10 分)

個人発表 (設計法)
10.40~11.55

- (I-134) 信頼性にもとづく道路橋の荷重係数に対する一考察 東 城 大 正 〇伊 藤 博
次 城 大 〇伊 藤 博 学昭
- (I-135)◎ 信頼性を条件にしたラーメンの最小重量設計 信 州 大 正 〇長 小 尚
京 州 大 〇長 小 尚 健
- (I-136) 連続桁の最適設計法に関する研究 愛媛大 正 大久保 領 二
- (I-137)◎ 骨組構造物の最適設計 (第 2 報) 北 大 学 杉 本 博 之
- (I-138) 連続桁の自動設計について 石 播 重 工 正 〇吉 松 永 俊一郎
〇吉 松 永 俊一郎 義

(休憩 65 分)

個人発表 (板)
13.00~14.30

- (I-139) 固有関数法による矩形板の曲げ解析 信 州 大 正 〇石 川 清
〇石 川 清 勉之助
〇石 川 清 正太郎
- (I-140) 固有関数法による平行四辺形板の解析 信 州 大 正 〇谷 本 勉
〇谷 本 勉 之助
〇鳥 田 正太郎
- (I-141) Point Matching Method による有孔扇形板の解析と
その応用について 北 大 正 〇小 村 間 憲 仁彦
日本鋼管 〇小 村 間 憲 仁彦
- (I-142)◎ 積分方程式による平板の解析 京 大 正 丹 羽 義
〇丹 羽 義 次
〇丹 羽 義 次 一雄
- (I-143)◎ 凹角部を有する平板の曲げについて 阪市大 正 倉 田 宗
〇倉 田 宗 章
〇倉 田 宗 章 勉
- (I-144)◎ L 形平板の 2, 3 の解法について 阪市大 正 倉 田 宗
〇倉 田 宗 章 俊

工学部防音教室 1 階 101 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (耐震)
13.00~14.30

- (I-145)◎ 地中構造物および周辺地盤の振動特性について 京 大 正 後 藤 尚
〇後 藤 尚 至
〇後 藤 尚 至 男郎明
- (I-146)◎ 多層地盤中基礎の振動性状 熊 本 大 正 秋 吉 卓

- (I-147)◎ 軟弱地盤中の杭基礎構造物の振動性状について
九工大 正学 ○小島高坪 坪野西根 清照 眞清彦雄
- (I-148)◎ 砂液中の構造物基礎模型の動的挙動について
京大 正学 ○後吉北宮松 藤原浦脇井 尚 男 延勝郎夫
- (I-149) 有限要素法による地中構造物の振動解析
東大 正学 ○藤野 野陽 陽元 三彦
- (I-150) 有限要素法による構造物一地震系の弾塑性地震応答
鹿島建設 正学 ○佐成 木田 知 猛明喬

(休憩 10 分)

個人発表 (耐震)
14.40~15.40

- (I-151) 地震応答解析における地盤のパネ効果
法政大 正学 ○梅地 地 羊 三
川田工業 〇梅地 地 羊 三
- (I-152)◎ 履歴復元力を有するケーソン基礎の振動特性
京大 正学 ○藤原 尚 男 進
- (I-153)◎ 多柱基礎の動的特性に関する実験的研究 (その2)
東洋大 正学 ○高田 田 幸 清 信美誠
- (I-154)◎ 多柱基礎の地震時応答について
九佐賀 大大 正学 ○小坪 坪 清 眞
九 大大 〇荒吉 牧 軍 治
九 大大 〇荒吉 牧 軍 治

▶工学部防音教室 1 階 101 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (耐震)
9.00~10.30

- (I-155) 非線型応答における高次振動の影響について
都立大 正学 ○園井 隆 弘
京大 正学 ○亀田 弘 行 二
- (I-156)◎ 強震記録の継続時間と総形自由度系の応答特性について
京大 正学 ○泉山 井 隆 裕
- (I-157)◎ 周波数特性を考慮した強震記録の解析について
北海大 正学 ○井藤 昭 夫
- (I-158)◎ 道路橋の振動特性
建土研 正学 ○栗岩 林 一
土研 〇坂 崎 裕 一 男 裕
- (I-159)◎ 南港連絡橋 (長大カンテラートラス橋) の振動特性について
京大 正学 ○山田 善 忠
阪神高速 〇松本 見 池 一 夫 晋 宏
- (I-160)◎ 高橋脚三径間連続トラス橋の地震応答について
九工大 正学 ○坪野 清 眞
建設省 正学 ○鳥萩 野 尾 隆 清 眞

(休憩 10 分)

個人発表 (耐震)
10.40~11.55

- (I-161)◎ 高架橋の耐震性
建土研 正学 ○大久保 忠 良
土研 〇栗岩 林 一 男
土研 〇栗岩 林 一 男
- (I-162)◎ サンフェルナンド地震で被害を受けた高架橋等の地震応答解析
建土研 正学 ○栗岩 林 一 男
土研 〇栗岩 林 一 男
- (I-163)◎ サンフェルナンド地震で被害を受けた高架橋についての研究 (その1) 静的解析
東都高速 正学 ○福野 正 治
首都高速 〇福野 正 治
オリエンタルC 〇小忍 村 足 巳 光 脩 敏 正

- (I-164)◎ サンフェルナンド地震で被害を受けた高架橋についての研究 (その2) 動的解析
東都高速 正学 ○福野 正 治
首都高速 〇福野 正 治
〇福野 正 治
(株)長大橋 〇福野 正 治
- (I-165)◎ サンフェルナンド地震で被害を受けた高架橋についての研究 (その3) 太径鉄筋 #18 (D57) を用いた橋脚基礎の基礎的実験
東都高速 正学 ○福野 正 治
首都高速 〇福野 正 治
オリエンタルC 〇福野 正 治
住友金属 〇福野 正 治

(休憩 65 分)

個人発表 (耐震)
13.00~14.30

- (I-166)◎ ロックフィルダムの大型模型の振動破壊実験
東大 正学 ○岡村 重 四
東大 〇岡村 藤 三 行
東大 〇岡村 藤 三 行
- (I-167)◎ ロックフィルダムの地震時破壊に関する考察 (第1報)
東大 正学 ○大村 重 四
〇大村 重 四
- (I-168)◎ 三次元有限要素法によるフィルダムの動的解析
大成建設 正学 ○田島 政 則
〇田島 政 則
- (I-169)◎ 最大加速度応答値の分布に関する一考察
東大 正学 ○片山 恒 雄
- (I-170)◎ 地震動スペクトル密度の時間的変化が構造物の応答に及ぼす影響について
京大 正学 ○北田 弘 行 勝
- (I-171) 不規則振動理論による地震最大応答の検討 (株)長大橋
武蔵工大 正学 ○小友 川 泰 造
武蔵工大 〇小友 川 泰 造

(休憩 10 分)

個人発表 (耐震)
14.40~15.40

- (I-172)◎ 有限要素法による地盤の振動解析におけるモデル化の
一方法について
京大 正学 ○樂田 憲 三
〇樂田 憲 三
- (I-173)◎ 地盤上の Timoschenko type plate の動的解析
宮崎大 正学 ○橋野 憲 三
- (I-174)◎ 弾性率の急変部における地表層の震動
京大 正学 ○高田 憲 三
〇高田 憲 三
- (I-175)◎ 常時微動による構造物の下部組織の振動特性について
信州大 正学 ○笠原 光 坦 典

▶工学部防音教室 1 階 101 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (耐震)
9.00~10.30

- (I-176)◎ 沈埋管の振動解析
北大 正学 ○渡辺 昇 吉
〇渡辺 昇 吉
- (I-177) 地下埋設管の振動性状について
東大 正学 ○松本 嘉 司
〇松本 嘉 司
〇高木 隆 登
- (I-178)◎ 沈埋トンネルの地震応答に関する研究
大林組 正学 ○後藤 洋 三
東洋情報S 〇藤田 順 男
〇藤田 順 男
- (I-179)◎ ブロック工法によるトンネルの模型振動実験について
前田建設 正学 ○原田 力 朗
〇原田 力 朗
- (I-180)◎ 逸散減衰に関する研究
九工大 正学 ○坪田 清 眞
〇坪田 清 眞
- (I-181) 桁端の耐震性に対する検討 (株)長大橋
〇友田 武 昭
〇友田 武 昭

(休憩 10 分)

個人発表（波動）
10.40~11.55

- (I-182)◎ 有限要素法による応力波の解析について
東北工大 正 秋 田 宏
- (I-183) 二相混合体中における加速度波の性質
京大 正 土 岐 憲 三信
- (I-184)◎ 骨組を伝播する曲げ波動の数値解析について
東北学院大 正 榑 渡 滋
- (I-185)◎ 2次元弾性波伝播問題の数値解析について
広島大 正 佐中 藤 誠新
- (I-186)◎ 動的解析に対する光弾性実験方法の応用—地盤内の波
動の伝播について—
埼玉大 正 森田 三 曜郎

(休憩 65分)

個人発表（振動測定）
13.00~14.00

- (I-187) 橋梁上部構造の常時微動測定
日本鋼管大 正 辻 野 松元 雄彦
- (I-188) 非線形強制振動の実験的研究
明星大 正 奥 田 秋 夫弘夫
日立 〇植 隆 幹
- (I-189)◎ カセットレコーダーによる振動の簡易測定について
名大 正 島 内 静 雄男
〇大 蔵 博 明
- (I-190)◎ ジャイロコンパスによる振動測定
清水建設 正 長 九 三 重 工 〇高 橋 和 雄武弘
名大 正 馬 田 静 雄男
〇藤 小田切 俊 静

個人発表（振動感覚）
14.00~14.45

- (I-191) 橋梁の振動限度について
中央大 学 正 〇小 川 辰 策雄
東大 〇片 山 恒
- (I-192)◎ 道路橋の振動とその振動感覚について
金沢大 正 小 堀 為 雄男
〇梶 川 康
- (I-193)◎ 通行荷重による橋の振動の人体への感じについて
武蔵工大 正 西 脇 威 夫志清
〇嶋 中 嶋 清

▶工学部防音教室 1 階 102 番教室・10 月 20 日（金）

個人発表（振動）
13.00~14.30

- (I-194) ティモシェンコ梁としての薄肉曲線材における曲げねじり振動波の理論
山梨大 正 深 沢 泰 時
- (I-195)◎ 粘性支点を有する片持梁の強制振動
東北工大 正 倉 西 茂 夫将
東北大 〇松 橋 山 竜 正
- (I-196) 埋め込みばりの動的解析
早大 正 宮 原 玄
- (I-197) 衝撃を受けた地盤の塑性変形に関する一考察
山口大 正 巖 上 幸 夫
- (I-198) 曲げ荷重による構造物の弾塑性応答解析
川崎重工 正 〇河 野 昭 一 雄男
熊本大 〇平 井 雄
- (I-199)◎ 自然通風冷却塔の振動解析
電研 正 塚 尻 弘 雄

(休憩 10分)

個人発表（振動）
14.40~15.55

- (I-200) 結合法による中路的補剛アーチ橋の固有値解析とアーチの水平変位拘束効果
熊本大 正 吉 村 虎 誠男司
〇水 平 井 田 洋
- (I-201) 伝達マトリックス法による高架橋骨組の振動解析
国鉄鉄研 正 堀 江 篤

- (I-202) ランガートラス橋の立体的自由振動について
福岡大 正 村 上 田 正 義
山口大 〇会 正 忠
- (I-203) 海洋プラットフォームの曲げ振れ連成振動
三井建設 正 高 橋 豊 偉文
〇尾 川 形 宏
- (I-204)◎ 規則波をうける海中骨組構造物の非線形振動
鹿島建設 正 〇今 成 子 井 田 幹 貴知 雄勝明

▶工学部防音教室 1 階 102 番教室・10 月 21 日（土）

個人発表（振動）
9.00~10.30

- (I-205)◎ 不規則外力による多自由度系構造物の応答評価について
川崎製鉄 正 石 田 昌 弘
- (I-206)◎ 減衰を考慮した板の振動解析について
京大 正 山 田 善 一 一二
〇河 渡 野 辺 英 健
- (I-207) 局部修正を持つ振動系の固有値解析（局部的内部修正の場合）
佐世保工大 正 〇高 村 井 清 男 威
〇熊 本 平 吉 一 虎
- (I-208)◎ ランダム固有値問題の解析
武蔵工大 正 星 谷 勝
- (I-209)◎ 周辺固定矩形板の非線形自由振動
長崎大 正 高 橋 和 雄武弘
九三 〇菱 重 工 林 木 田 守
- (I-210)◎ 一方方向連続矩形板の振動解析
長崎大 正 〇高 橋 和 雄武
九三 〇高 橋 木

(休憩 10分)

個人発表（施工・実験）
10.40~11.55

- (I-211)◎ プレブーム橋の載荷実験について
金沢大 正 小 堀 川 為 雄武弘
〇渡 城 戸 辺 隆 夫 流
- (I-212)◎ 小池橋（プレハブ格子床版合成桁）の施工と現場実験について
川田工業 正 〇坂 現場 敏 一 敏
兵衛 成 平 野 田 敏
神戸製鋼 正 〇山 田 敏
- (I-213) 橋梁架設用ケーブルクレーンの主ケーブルの計算
滝上工業 正 〇安 達 計 算 周 明 吉 浩
滝上建設 〇安 達 沢 藤 田 周 浩
- (I-214) 愛本橋（ニールセン橋）における斜材張力調整について
富山県 正 〇野 西 原 村 久 光 勝 信 宗 昌
川田工業 〇野 西 原 村 久 光 勝
- (I-215)◎ HT 80 を用いた大型トラスパイロットメンバーの試験結果について
阪神高速 正 〇松 水 林 二 夫 久 盛
〇松 水 林 元 秀

(休憩 65分)

個人発表（施工・実験）
13.00~14.30

- (I-216)◎ プレキャスト I-B 床版の施工と現場載荷試験についての考察
道路公園 正 佐 藤 治 一 伊
神戸製鋼 〇青 野 敏 信
- (I-217)◎ F・R・Pコンクリート合成床版の実験について
栗本鉄工 正 〇栗 村 田 義 郎 光 助
工大 〇栗 本 尾 義 章 規
- (I-218)◎ トラス格点構造の実験的研究
東大 正 〇奥 村 敏 一 恵 之 浩
〇山 石 正 崎 敏 一
- (I-219) 種々の合成桁ずれ止めの押抜実験
国鉄橋設 正 〇阿 部 野 部 野 英 陽 富 彦 郎 夫
〇中 安 野 間 富
- (I-220) 内圧と曲げを负荷したパイプの耐荷力試験について
川崎製鉄 正 〇藤 原 智 敏 也 介 彦
〇藤 原 智 敏 也 介 彦

(I-221) ⑨ リフトアップバージによる大ブロック橋桁架設について
石播重工 正 ○田大 忠 夫

(休憩 10 分)

個人発表 (施工・実験)
14.40~15.40

(I-222) 高張力鋼の広幅試験結果について
東都立大 正 ○奥村 敏治 恵甫二久
都立大 正 ○奥村 敏治 恵甫二久
阪高工 正 ○奥村 敏治 恵甫二久

(I-223) スタッドジベルの力学的性状
神戸大 正 ○西村 昭明也
建設工 正 ○西村 昭明也
大研組 正 ○西村 昭明也
大林 正 ○西村 昭明也

(I-224) ⑨ 大口径杭(φ 3000, リバースと P.C. ウェル)の水平載荷試験
首都高 正 ○前田 夫博三治
速高 正 ○前田 夫博三治
速高 正 ○前田 夫博三治

(I-225) ⑨ 移動吊支保工使用による P.C. 連続桁の施工について
首都高 正 ○前田 夫博三治
速高 正 ○前田 夫博三治
速高 正 ○前田 夫博三治

▶工学部防音教室 1 階 102 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (継手)
9.00~10.30

(I-226) ⑨ 高力ボルト摩擦継手接触面の状態がすべり強さを与える影響について
日立造船 正 ○尾正 之洋
南 正 ○尾正 之洋

(I-227) 高力ボルト摩擦接合の疲労強度について
神戸大 正 ○西村 昭好臣
阪山 正 ○西村 昭好臣
片山 正 ○西村 昭好臣

(I-228) ⑨ 高力ボルト継手の疲労強度におよぼす諸要因の影響
神戸大 正 ○西村 昭好臣
神戸大 正 ○西村 昭好臣
神戸大 正 ○西村 昭好臣

(I-229) ⑨ 高力ボルト継手の弾塑性挙動と耐力に関する研究
阪高工 正 ○菅原 二一悟詩
神高 正 ○菅原 二一悟詩
名大 正 ○菅原 二一悟詩

(I-230) ⑨ 高速荷重を受ける接合ボルトの力学的性質
防衛衛 正 ○藤田 仁博一
防衛衛 正 ○藤田 仁博一
防衛衛 正 ○藤田 仁博一

(I-231) HT 80 を用いた大径ボルトの大型継手の試験結果について
阪高工 正 ○中野 一好司
神高 正 ○中野 一好司
名大 正 ○中野 一好司

(休憩 10 分)

個人発表 (継手)
10.40~11.55

(I-232) ⑨ 軟質突合せ継手の引張試験
都立大 正 ○堀川 浩甫
都立大 正 ○堀川 浩甫
都立大 正 ○堀川 浩甫

(I-233) ⑨ 軟質継手に関する二・三の考察
都立大 正 ○堀川 浩甫
都立大 正 ○堀川 浩甫
都立大 正 ○堀川 浩甫

(I-234) ⑨ 円柱と箱型断面橋梁との接合部における応力集中に関する研究
東都高 正 ○西野 恵郎吉
都高 正 ○西野 恵郎吉
都高 正 ○西野 恵郎吉

(I-235) ダイヤフラムで補強されたパイプの応力解析
東都高 正 ○村山 敏成良
都高 正 ○村山 敏成良
都高 正 ○村山 敏成良

(I-236) セグメントリングの耐荷機構について
早大 正 ○村上 智淳
早大 正 ○村上 智淳
早大 正 ○村上 智淳

(休憩 65 分)

個人発表 (光弾性)
13.00~14.15

(I-237) ⑨ 弾性支承上の変断面アーチの光弾性実験
信州大 正 ○吉田 俊郎
信州大 正 ○吉田 俊郎
信州大 正 ○吉田 俊郎

(I-238) ⑨ 連続桁式逆ローゼ橋の応力分布と最適弦材分配率に関する光弾性模型実験による研究
室蘭工大 正 ○中村 作太郎
室蘭工大 正 ○中村 作太郎
室蘭工大 正 ○中村 作太郎

(I-239) P.C. 橋端部の応力分布に関する光弾性実験
中央大 正 ○竹間 弘明
中央大 正 ○竹間 弘明
中央大 正 ○竹間 弘明

(I-240) ⑨ 全塑性モーメントとせん断力の関係に関する一考察
金沢大 正 ○喜内 敏博英
石川高専 正 ○喜内 敏博英
石川高専 正 ○喜内 敏博英

(I-241) ⑨ 変形解析へのホログラフィの応用
京大 正 ○丹羽 次一宏
京大 正 ○丹羽 次一宏
京大 正 ○丹羽 次一宏

(I-242) ⑨ 折板理論による曲線桁構造の解析について (第 2 報)
北大 正 ○芳村 仁吉
北大 正 ○芳村 仁吉
北大 正 ○芳村 仁吉

(I-243) 変断面薄肉曲線桁について (第 2 報)
山梨大 正 ○深小 泰雄
山梨大 正 ○深小 泰雄
山梨大 正 ○深小 泰雄

(I-244) ⑨ 変形を考慮した曲線部材の力学的性状に関する基礎的研究
阪市大 正 ○中野 男博
阪市大 正 ○中野 男博
阪市大 正 ○中野 男博

(I-245) ⑨ 曲線格子桁の鋼製模型実験
信州大 正 ○吉田 俊郎
信州大 正 ○吉田 俊郎
信州大 正 ○吉田 俊郎

(I-246) ⑨ 斜張橋の構造特性に関する二・三の考察
信州大 正 ○北原 俊宏
信州大 正 ○北原 俊宏
信州大 正 ○北原 俊宏

(I-247) ⑨ 大径間斜張橋の非線形性状について
阪大 正 ○前田 幸雄
阪大 正 ○前田 幸雄
阪大 正 ○前田 幸雄

(休憩 10 分)

個人発表 (桁橋)
14.40~15.40

(I-248) 二主桁橋の横倒れ座屈実験
石播重工 正 ○結城 皓義三
石播重工 正 ○結城 皓義三
石播重工 正 ○結城 皓義三

(I-249) 水平スティフナーをもつプレートガーダーの耐力実験
石播重工 正 ○結城 皓義三
石播重工 正 ○結城 皓義三
石播重工 正 ○結城 皓義三

(I-250) ⑨ スタッド・ジベルを用いた合成桁に関する実験的研究
東都大 正 ○奥村 恵一勝
東都大 正 ○奥村 恵一勝
東都大 正 ○奥村 恵一勝

(I-251) ⑨ ずれ止めとして異形スタッドを用いた合成桁の載荷実験
阪大 正 ○前田 雄治男
阪大 正 ○前田 雄治男
阪大 正 ○前田 雄治男

(I-252) 連続 2 主桁版橋の振りモーメントと床板の固定端モーメントについて
新構造技術 正 ○黒野 浩誠
新構造技術 正 ○黒野 浩誠
新構造技術 正 ○黒野 浩誠

(I-253) 二主桁版橋における中間支点上横桁の荷重分配への寄与
新構造技術 正 ○須藤 誠
新構造技術 正 ○須藤 誠
新構造技術 正 ○須藤 誠

(I-254) 二主桁橋の設計上の諸問題—基本計画について—
石播重工 正 ○永上 大郎夫
石播重工 正 ○永上 大郎夫
石播重工 正 ○永上 大郎夫

(I-255) 二主桁橋の設計上の諸問題—フランジおよびウェブの座屈安定について—
石播重工 正 ○松城 義昭
石播重工 正 ○松城 義昭
石播重工 正 ○松城 義昭

(I-256) 横構を有する梁のねじり特性に関する研究
早大 正 ○堀井 健一郎
早大 正 ○堀井 健一郎
早大 正 ○堀井 健一郎

▶工学部防音教室 1 階 103 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (桁橋)
9.00~10.30

(I-252) 連続 2 主桁版橋の振りモーメントと床板の固定端モーメントについて
新構造技術 正 ○黒野 浩誠
新構造技術 正 ○黒野 浩誠
新構造技術 正 ○黒野 浩誠

(I-253) 二主桁版橋における中間支点上横桁の荷重分配への寄与
新構造技術 正 ○須藤 誠
新構造技術 正 ○須藤 誠
新構造技術 正 ○須藤 誠

(I-254) 二主桁橋の設計上の諸問題—基本計画について—
石播重工 正 ○永上 大郎夫
石播重工 正 ○永上 大郎夫
石播重工 正 ○永上 大郎夫

(I-255) 二主桁橋の設計上の諸問題—フランジおよびウェブの座屈安定について—
石播重工 正 ○松城 義昭
石播重工 正 ○松城 義昭
石播重工 正 ○松城 義昭

(I-256) 横構を有する梁のねじり特性に関する研究
早大 正 ○堀井 健一郎
早大 正 ○堀井 健一郎
早大 正 ○堀井 健一郎

(I-257) (欠番)

(休憩 10 分)

個人発表 (桁橋)
10.40~11.55

- (I-258) 2-主桁橋変断面床版の実験による応力分布に関する研究
日大正 若下 紀
- (I-259) PC桁における応力分布に関する一考察
日新構造技術大正 木須田 哲 量誠真
〇佐藤 藤
- (I-260) PC連続2主桁橋の実験
首都高速正 前田 邦夫
〇大内 雅敏
- (I-261) 2-箱主桁形式橋の実験研究 (第3報)
日大正 遠藤 篤 康
- (I-262) 波形軸線を有する連続合成桁について (Ⅲ)
阪工大正 尾田 親章 助光年
〇栗田 秀
近畿大正 〇栗田 秀

(休憩 65 分)

個人発表 (吊橋)
13.00~14.30

- (I-263) 副ケーブルを有する吊橋の解析 (株)長大橋正 〇青柳 史 郎哲
大 藤村 茂 夫南治
- (I-264) 多径間吊橋の一特性 宮地鉄工正 〇後藤 忠
〇新和 田
- (I-265) 斜めつり材をもつ吊橋の一解法
近畿大正 〇星本 治 雄繁
高松高専 〇星本 治 雄繁
- (I-266) エネルギー法によるケーブル構造の解析 (第2報)
神戸製鋼正 〇中野 邦 夫徹汎宏
〇中野 邦 夫徹汎宏
- (I-267) 和分変換による吊橋撓度理論の解法について
室蘭工大正 〇能松 町岡 純健 雄一司
函館ドック 〇小松 針
- (I-268) 長大橋の架設中の変形 (寅藻子法)
神戸製鋼正 〇新谷 家本 徹助 郎平
信州大正 〇新谷 家本 徹助 郎平
〇新谷 家本 徹助 郎平

(休憩 10 分)

個人発表 (吊橋)
14.40~15.55

- (I-269) 多径間吊橋の支点における角折れについて
北大正 佐藤 治 一
- (I-270) 長径間吊橋キャットウォークについて
神戸製鋼正 〇波新 田 凱 夫徹汎
〇波新 田 凱 夫徹汎
- (I-271) 吊橋主塔の弾塑性挙動について
名大正 福本 時和 士実
〇大森 森
- (I-272) 模型PCT橋の載荷試験
九成大正 〇出松 光 隆 訓光
大工建大正 〇出松 光 隆 訓光
大工建大正 〇出松 光 隆 訓光
- (I-273) PWS定着部の疲れ挙動に関する研究
本神四公鋼正 〇相原 良 正理 次 宙雄
〇相原 良 正理 次 宙雄

▶工学部防音教室 1 階 103 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (耐風)
9.00~10.30

- (I-274) 充腹断面に作用する定常空気力について
川崎重工正 小川 一 志

- (I-275) 充腹断面系の変動抗揚力
東大正 〇宮田 利章 雄章樹
建設大正 〇宮田 利章 雄章樹
〇宮田 利章 雄章樹

- (I-276) 非線形空気力の測定に関する一実験
秋田大正 〇色部 部田 孟 誠史
〇色部 部田 孟 誠史

- (I-277) 箱型断面に作用する非定常空気力の非線形性について
東大正 〇森伊 光藤 夫学

- (I-278) 円柱および流線形箱形における変動流体力
東大正 〇田中 敏 宏一
〇田中 敏 宏一

- (I-279) Simulation of a set of Correlated High Wind Velocity
武蔵工大正 〇星 昇 勝
V.P. Inst. 〇H.W. Tieleman

(休憩 10 分)

個人発表 (耐風)
10.40~11.55

- (I-280) 矩形断面の振りフラッタについて
九大正 〇中溝 村田 泰武 治人
〇中溝 村田 泰武 治人

- (I-281) 箱型建造物の振りフラッタについて
九大正 〇中溝 村田 泰武 治人
〇中溝 村田 泰武 治人

- (I-282) 円柱部材の風による振動
三菱重工正 〇岩田 展 宏弘 喜
〇岩田 展 宏弘 喜

- (I-283) 多円筒建造物の空気力についての一考察
日立造船正 〇巻与 幡口 敏正 秋敏

- (I-284) 一平面内ない耐風ケーブルの約合について
川田工業正 三品 吉 彦

(休憩 65 分)

個人発表 (耐風)
13.00~14.30

- (I-285) 鋼製タワーの耐風安全性に関する確率的な研究
阪大正 〇小松山 定隆 夫弘
〇小松山 定隆 夫弘

- (I-286) 細長いH型橋梁部材の風洞実験
熊本大正 〇吉水 村田 虎 藏健司
〇吉水 村田 虎 藏健司

- (I-287) ランガー橋におけるH形断面吊材の耐風設計
東大正 〇伊久 藤保 喜 学延
〇伊久 藤保 喜 学延

- (I-288) 強風スペクトルの分布力系としての評価について
秋田大正 薄木 征 三

- (I-289) 変動風による平板の応答に関する基礎的研究
徳島大正 〇宇田 都宮 英博 彦夫
〇宇田 都宮 英博 彦夫

- (I-290) 逆台形箱形断面に作用する風圧力の不規則性について
阪立命館大正 〇小林 定 夫士
〇小林 定 夫士

(休憩 10 分)

個人発表 (耐風)
14.40~15.25

- (I-291) 矩形断面の流体中における動的特性に関する実験的研究
京大正 〇小白松 西石本 辰 郎人勝均男
〇小白松 西石本 辰 郎人勝均男

- (I-292) 乱れを含む流れの中での平板断面とトラス補剛断面の
応答特性に関する実験的研究
京大正 〇小白松 西石本 辰 郎人勝均男
〇小白松 西石本 辰 郎人勝均男

- (I-293) 南港連絡橋の空気力学特性に関する実験的研究
京大正 〇小白松 西石本 辰 郎人勝均男
〇小白松 西石本 辰 郎人勝均男

第 II 部門 (水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学など)

▶文科系講義室 1 階 101 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (波動 1)
13.00~13.30

- (II-1) 不規則波の水粒子速度と水面変動との相互関係に関する研究 京大正 岩垣 雄哲 一郎啓
〇酒田
- (II-2)⑤ モアレ写真による水面波形の解析 京大正 堀川 清 司 晃五
〇渡辺

総括報告 (波動 2)
13.30~14.30

- (II-3) レーダー映像による波の方向スペクトル解析 大分高専正 上床 隆彦
- (II-4) 波動境界層に関する実験的研究 鳥取大正 〇岩佐 敏博 章明
〇石野 田
- (II-5) 風波の水位変動の統計的性質について 京大正 〇山 屋 義 人 隆
〇山
- (II-6) 孤立波の波速について 北大 大正 〇佐伯 浩 滋 男
大 林 組 〇佐藤

(休憩 10 分)

総括報告 (波動 3)
14.40~15.55

- (II-7) 恋ヶ浜海岸における波の変形に関する模型実験について 京大正 〇土屋 義 人 夫
〇芝野 照
- (II-8) 任意のスペクトル構造を持つ不規則波の造波の研究 京大正 〇岩垣 雄 一 晃
〇木村
- (II-9) 水深変化による不規則波の変形について (2) 京大正 〇岩垣 雄 哲 一郎
〇酒田
- (II-10) 海岸不規則波における水位一圧力変動の応答について 北戸田建設大正 〇浜中 建一郎 敏
〇浜土
- (II-11) 不規則波の反射によって発生する beat について 名工大正 石田 昭

▶文科系講義室 1 階 101 番教室・10 月 21 日 (土)

総括報告 (砕波・湾内振動)
9.00~10.15

- (II-12) 砕波機構に関する一考察 東北地建大正 〇堀川 清 司 治嗣
〇福西 村
- (II-13) 砕波後の波高変化に及ぼす乱れの効果について 阪大正 〇榎木 亨 好一明
〇岩田
- (II-14) 砕波後の波の諸特性について 北見工大正 〇佐藤 幸 雄 秀
〇藤島 邦
- (II-15) 防波堤開口部における波のエネルギー損失について 京大正 〇村上 雄 一 士
〇村
- (II-16)⑤ T 字類似形の泊地の水面振動について 官崎大正 吉 高 益 男

(休憩 10 分)

総括報告 (波の打上げ・越波)
10.25~11.55

- (II-17) 7123 号台風による土佐湾海岸堤防の災害原因 徳島大正 〇三井 茂 宏 明
〇筒井

- (II-18) 護岸の越波特性とその防災対策について 京大正 〇土屋 義 人 夫
〇芝野 照
- (II-19) 鉛直堤の越波機構に関する実験 関西大正 〇井上 雅 夫 敏
〇西
- (II-20) 越波量の近似計算法 中部工大正 高田 彰 影
〇大
- (II-21) 消波のりおいブロックのうちあげ高に関する考察 日成大正 〇久石 雅 史 久彦
〇建設 大
- (II-22) 不規則波の遡上について 阪運大正 〇横田 木 亨 徳
〇大 省 〇横田 木 亨 徳
〇竹千穂

(休憩 65 分)

個人発表 (波力および消波工 1)
13.00~13.15

- (II-23) 直立式消波岸壁について 北三井建設大正 〇尾崎 孝 晃 二
〇大 沼

総括報告 (波力および消波工 2)
13.15~14.45

- (II-24) カーテン・ウォール構造物に作用する波力に関する実験的検討 電研正 〇小加 森 修 正 蔵 進
〇小加
- (II-25) 複数円柱に働く波力の相互干渉 東大正 〇堀川 清 司 博
〇勝 井
- (II-26)⑤ 半透過構造物による波の反射と伝達 室蘭工大正 近藤 徹 郎 生
〇小 堀
- (II-27) 捨石堤背後への伝達波高について (特に越波量と伝達波高) 阪工大正 〇久保 一 三 夫
〇大阪府高専 〇井田
- (II-28) 3 列に配した浮防波堤の模型実験 日大正 〇久保 雅 史 雄 孝
〇竹中 川
- (II-29) 港堤による波の減衰について 琉球大正 〇津島山 正 繁 光 雄
〇伊良波

(休憩 10 分)

個人発表 (港湾計画)
14.55~15.10

- (II-30) 在来貨物を扱う公共碼頭より発生する貨物自動車交通量について 横浜市正 〇西脇 昭 悟 之
〇金 田

総括報告 (河口閉塞)
15.10~15.55

- (II-31) 河口付近における砂の堆積現象に関する実験的研究 早大正 〇純川 登 央
〇日港 C 浦 野 光
- (II-32) 河口 2 次元砂州に関する実験的考察 セントラル建設土研正 〇須賀 堯 圭 一 三 成
〇末 村
- (II-33) 河口 3 次元砂州に関する二、三の考察 建土研正 〇須賀 堯 三 隆
〇高 橋

▶文科系講義室 1 階 101 番教室・10 月 22 日 (日)

総括報告 (漂砂・海浜変形)
9.00~10.45

- (II-34) 波による砂れんの形状について 防衛大正 〇真池 嶋 恭 正 順 雄 幸 造
〇宮 内 武

- (II-35) 砂浜海岸の変形およびす岩堤の効果について
農 土 試 正 大 高 登
- (II-36) 海岸堤防堤脚部の洗掘
鳥 取 大 正 ○野 田 英 明
三 井 建 設 " " 岩 佐 敏 博
" " " " 松 本 二
- (II-37) 斜め入射波に対する海岸侵食防止工の効果について
高 知 大 正 ○上 森 千 秋
" " " " 玉 井 佐 一
- (II-38) 海浜変形に関する実験的研究 (第1報)
(波の Shoaling による水粒子運動について)
東 " 大 正 堀 川 清 司
" " " " 学 〇鬼 頭 平 三
- (II-39)◎ 海岸変形過程についての理論
東 運 大 省 正 ○日 野 幹 雄
東 工 輸 大 " " 林 野 直 樹
東 工 輸 大 " " 宇 字 多 高 明
- (II-40)◎ 海浜変形のスペクトル特性について
名 城 " 大 正 ○青 木 保 雄
" " " " 伊 藤 藤 政 博

(休憩 10 分)

個人発表 (噴流)
10.55~11.55

- (II-41)◎ 周囲水に密度勾配のある場合の重力拡散について
埼 玉 大 正 嶋 祐 之
- (II-42) 密度噴流における連行作用について
九 大 正 学 ○小 橋 東 一 郎
" " " " 松 利 光
- (II-43) 気泡噴流による2層流の混合について (IV)
九 大 正 〇粟 谷 陽 一
" " " " 〇北 野 義 一 則
- (II-44) 自由落下水による空気混入について
東 北 大 省 正 ○坂 本 龍 雄
運 輸 大 省 " " 村 上 和 男

個人発表 (密度流 1)
13.00~13.45

- (II-45) 沿岸海域における廃水拡散に及ぼす流れの影響
電 " 研 正 ○角 湯 正 剛
" " " " 〇和 田 明
- (II-46)◎ 河口2層流の海上での挙動
北 大 正 学 柏 村 正 和
- (II-47) 石狩川-旧川間運河における塩分の移動
北 大 正 〇福 島 久 雄
" " " " 〇八 高 大 橋 功 将 正
" " " " 谷 守 正

総括報告 (密度流・潮汐)
13.45~14.45

- (II-48)◎ 小川原湖への高瀬川よりの塩分侵入機構について
建 土 研 正 ○富 永 正 照
" " " " 〇白 波 瀬 道
- (II-49)◎ 貯水池における密度流に関する一考察
大 成 建 大 〇鎌 富 淳 一 夫
名 成 建 大 " " 西 畑 勇
- (II-50)◎ 潮汐による港内水の交換機構について
名 " 大 正 〇森 村 章 六 平
" " " " 〇中 足 立 俊 昭
- (II-51) 金武湾の潮流調査について
琉 球 大 正 ○河 野 二 夫
" " " " 〇津 嘉 山 正 光
" " " " 〇喜 納 正 政 修

(休憩 10 分)

総括報告 (密度流)
14.55~16.25

- (II-52)◎ 内部波の安定性に関する研究
東 工 大 正 椎 貝 博 美
" " " " 〇加 藤 本 正 一 樹
" " " " 〇加 藤 本 正 一 樹
- (II-53) 淡水境界面からの塩水の混入速度
建 土 研 正 ○須 賀 義 三 光
" " " " 〇高 橋 義 三 光
- (II-54) 断面急縮部における2成層流について (第2報)
京 大 正 〇岩 佐 義 朗 人 和
" " " " 〇野 早 野 正 博
- (II-55) インターナルジャンプの乱れの計測
東 北 大 大 正 ○岩 崎 敏 夫
東 北 大 東 北 学 院 大 " " 〇上 原 敏 夫

- (II-56) 揚水発電所の下部貯水池における水温変化について
京 大 正 〇岩 佐 義 朗
" " " " 〇井 井 上 東 正 司 夫
" " " " 〇寺 田 義 正 賢 二
- (II-57)◎ 静水への熱伝播について
京 大 正 〇岩 佐 義 朗
" " " " 〇八 〇八 フリドマン・イブ 東 正 司 夫

▶文科系講義室 1 階 102 番教室・10 月 20 日 (金)

総括報告 (土砂輸送)
13.00~14.30

- (II-58) 掃流砂の始動と量について
武 蔵 工 大 正 王 方 一
" " " " 京 大 正 学 〇土 屋 尾 田 義 人 昭
- (II-59) 掃流砂量・河床形態の二、三の次元解析的考察
京 大 正 学 〇土 屋 尾 田 義 人 昭
- (II-60)◎ レジム公式と砂流量との関係
徳 島 大 正 学 杉 尾 捨 三 郎
- (II-61) 流砂現象の数値実験について
神 水 神 大 正 学 〇松 梨 順 三 郎
" " " " 〇大 道 戸 大 川 藤 口 紀 恵 司
- (II-62) 掃流粒子を含む管路流れに関する研究
京 大 正 学 〇岩 佐 義 朗
" " " " 〇富 野 所 山 義 五 文 郎 治
- (II-63) 流れから一部露出したれきの移動限界について
大 阪 府 高 専 正 大 同 淳 之

(休憩 10 分)

総括報告 (山地崩壊・流動)
14.40~15.40

- (II-64)◎ 地盤安定に関する二、三の問題点
神 戸 大 正 学 〇田 中 村 茂 孝
" " " " 〇梅 田 真 三 郎
- (II-65) 人工降雨による砂斜面の浸食について
京 大 正 学 〇荻 田 和 男
" " " " 〇奥 田 村 中 武 健 信 二
- (II-66) 溪谷堆積土砂の流動 (第2報)
九 大 正 〇樺 野 東 一 郎
" " " " 〇内 村 宗 平 夫 好
- (II-67)◎ 土砂の集合運搬に関する二、三の実験
目 大 正 〇木 村 喜 代 治
" " " " 〇高 橋 喜 代 治 夫

▶文科系講義室 1 階 102 番教室・10 月 21 日 (土)

総括報告 (河床変動)
9.00~10.30

- (II-68) 砂防ダムの調節効果に関する水理学的検討
京 大 正 〇芦 田 和 男
" " " " 〇高 橋 保
- (II-69) 分級作用を伴う河床変動 (第3報)
九 大 正 平 野 宗 夫
- (II-70) 河口部洪水時の河床変動
建 土 研 正 山 本 晃 一
- (II-71) 河川合流部における河床変動
岐 大 正 〇河 村 三 郎
" " " " 〇早 野 三 郎
- (II-72) 橋脚の囲りの洗掘について (第3報)
日 本 大 正 〇栗 津 清 和 蔵
日 本 大 正 〇栗 津 清 和 蔵
日 本 大 正 〇栗 津 清 和 蔵
- (II-73) 水平噴流による洗掘機構について (第2報)
山 口 大 正 〇新 藤 隆

(休憩 10 分)

総括報告 (流路形態)
10.40~11.55

- (II-74) 河床波の性状について
九 大 正 〇橋 東 一 郎
佐 野 賀 大 大 正 〇渡 田 辺 訓 豊
奥 村 大 大 正 〇渡 田 辺 訓 豊
- (II-75)◎ 流速変動による河床波の初生について
電 研 正 白 砂 孝 夫

- (II-76) 河川蛇行の成因について (第3報) 中央大 正 林 泰 造
- (II-77) 蛇行流路の形成過程 京大 正 〇村 本 嘉 雄
- (II-78) 河川蛇行における曲率変化と河床変動との関係 北大 正 〇長 川 和 義

(休憩 65 分)

総括報告 (水路の抵抗)

- (II-79) 移動床水路の河床形状と抵抗則について 舞鶴高専 正 田 中 祐一朗
- (II-80) 移動床流れの抵抗について 京大 正 〇道 上 和 正 男 規
- (II-81) 移動床流れにおける抵抗と河床形状 北大 正 〇岸 水 幹 正 力 男 次
- (II-82) 長方形水路の抵抗法則について (その2) 日大 正 〇木 村 喜代治 夫
- (II-83) 粗面開水路における対数型平均流速式について 北見工大 正 〇内 島 考 邦 幸 秀 雄
- (II-84) ポリマー稀溶液の流体抵抗減少 (いわゆるトムス効果) に関する基礎研究 東工大 正 〇大 野 日 野 幹 秀 雄

(休憩 10 分)

個人発表 (局所流 1)

- (II-85) 水路縮小部の流れについて (III) 名工大 正 〇松 本 博 成 延
- (II-86) 複断面わん曲水路の水利特性 (その2) 建土研 正 〇土 屋 昭 彦 二
- (II-87) 彎曲水路の流れ 東工大 正 〇池 吉 川 夫 介
- (II-88) 平行流の混合についての実験研究 東洋大 正 〇本 間 仁 宏 孝
- (II-89) 開水路合流部における混合と拡散 北大 正 板 倉 忠 興

▶文科系講義室 1 階 102 番教室・10 月 22 日 (日)

総括報告 (局所流 2)

- (II-90) 開水路せん断流中におかれた角柱前面の渦機構について 京大 正 宇 民 正
- (II-91) 橋脚底部に発生する馬蹄形渦の特性について 京大 正 〇鈴 木 幸 一 康
- (II-92) 跳水式減勢工のエンドシルの高さ 建土研 正 〇田 村 正 信 秀 幸
- (II-93) 台形水路の潜り跳水について (2) 日大 正 〇栗 津 清 岩 藏 夫
- (II-94) 潜りゼキの流量の一計算法について 九大 正 〇上 田 年 比 古 昭
- (II-95) 流出渦について 山梨大 正 〇荻 原 能 彦 二

(休憩 10 分)

総括報告 (乱れ)

- (II-96) 開水路流れにおける乱れの非凍結性について 京大 正 今 本 博 健
- (II-97) 波状路床上の流れにおける乱れの特性について (2) 京大 正 〇上 野 博 健 男

- (II-98) 流量変化に伴う流れの乱れ 神戸大 正 〇徳 源 亮 浩
- (II-99) 滑面水路で見いだされた2次流に関する実験 北大 正 〇森 佐々木 明 哲 巨 郎
- (II-100) 管路内跳水の内部機構に関する研究 (第2報) 京大 正 〇中 川 博 家 次 久 寛

(休憩 65 分)

総括報告 (移流分散)

- (II-101) 移流分散現象における時定数 九大 正 〇栗 谷 陽 一 晋
- (II-102) 振動流中の拡散に関する解析的取扱い 東工大 正 〇日 野 須 幹 修 雄 二
- (II-103) 一次元拡散解析における概似分散について 阪大 正 〇村 岡 浩 啓 爾 二

(休憩 10 分)

総括報告 (定流・不定流 1)

- (II-104) 河道モデルの洪水伝達特性について 京大 正 〇岩 佐 義 方 朗 昭 夫
- (II-105) Implicit 差分法による洪水流の解析についての二、三の考察 北大 正 高 畑 征 三 郎
- (II-106) Muskingum 法の理論の基礎 九電 正 村 瀬 次 男
- (II-107) 水工学における数値シミュレーション結果のDisplay 法について 京大 正 〇岩 田 佐 義 朗 和

(休憩 10 分)

総括報告 (定流・不定流 2)

- (II-108) 内部境界層における質量輸送に関する研究 東工大 正 〇吉 川 秀 夫 一 男
- (II-109) セルフ・ブライミング現象について 奥村組 正 加 藤 真 樹
- (II-110) 矩形水路の不等流計算法についての一提案 日大 正 近 藤 勉
- (II-111) 管内自由振動流の減衰性に関する研究 都立大 正 安 川 浩

▶文科系講義室 1 階 107 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (水文統計 1)

- (II-112) 頻度係数の標本分布に関するコンピュータ・シミュレーション 中央大 正 春日屋 伸 昌

総括報告 (水文統計 2)

- (II-113) 降水量の流域特性とシミュレーションについて 北横浜大 正 〇星 風 清 亨
- (II-114) 水資源計画における時間単位に関する研究 (第1報) 一次文資料の確率分布との関係 阪大 正 〇室 田 明 治 剛
- (II-115) 連続最大降雨に関する確率的研究 京大 正 〇石 原 安 邦 雄 雄 基
- (II-116) 千葉県降水量について 日大 正 〇三 浦 晃 肇 勝 茂

- (II-117) 黒部川確率洪水流量の推定について
金沢大 正 高 瀨 信 忠
水資大 団 鈴 木 秀 利
金沢大 学 ○田 村 徳 郎
- (II-118) 羽東川流域水文資料の2,3の統計的特性について
神戸大 正 ○神 和 夫
" " " 松 梨 三 郎

(休憩 10 分)

総括報告 (災害特性)
14.55~15.55

- (II-119) ⑨ 内水問題の本質と対策
九州地建 正 石 崎 勝 義
- (II-120) 中小河川水害の特性
千葉県栗山川, 新川, 根木名川の場合
東大 正 高 橋 裕
" " " ○宮 村 忠 志
- (II-121) 利根川上流域大洪水の形態
一利根川治水理念の考察(その2)
東大 正 高 橋 裕
" " " ○大 熊 季 孝
- (II-122) 利根川上流域の水資源分布
一利根川治水理念の考察(その3)
東大 正 高 橋 裕
" " " ○虫 明 功 臣

▶文科系講義室 1 階 107 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (流出 1)
9.00~9.30

- (II-123) 相模試験地における山地河川の洪水流出機構の研究
新潟大 正 岡 本 芳 美
- (II-124) 内水地域に盛土をして都市化した場合の流出の変化
建土研 正 木 下 武 雄

総括報告 (流出 2)
9.30~10.30

- (II-125) 洪水流出モデルの構成とその精度について
京大 正 ○石 原 安
" " " 下 島 栄 一
- (II-126) 出水系の集中化スケールとその応答特性
京大 正 高 棹 琢 馬
" " " 学 椎 葉 充 晴
- (II-127) 雄物川流量における確率的シミュレーションの研究
秋田大 正 ○中 英 一
" " " 秋 田 高 専 学 長 谷 部 正 彦
- (II-128) 降雨シミュレータを用いた流出の実験的研究
阪大 正 田 明
" " " 学 ○佐 神 田 徹 仁
" " " 橋 義 仁

(休憩 10 分)

総括報告 (流出 3)
10.40~11.55

- (II-129) ⑨ 総合単位図による流出解析
道開発局 正 山 口 甲
- (II-130) 統計的単位図法の総合化
京大 正 ○池 淵 周
" " " 学 岡 田 知 一 巳
- (II-131) 貯留閾数による洪水流出予測の一手法
北陸地建 正 青 木 佑 久
- (II-132) ⑨ 裸地斜面域における雨水の浸入と地下水流出(1)
京大 正 ○岡 太 郎
" " " 学 角 屋 睦 睦
- (II-133) 火山性地震における雨水の浸透について
熊本大 正 ○下 津 昌
" " " 学 西 技 開 発 " 鬼 塚 司 諫

(休憩 65 分)

総括報告 (流出 4)
13.00~14.30

- (II-134) 山腹斜面からの雨水流出機構について
広島大 正 金 丸 昭 治
" " " " ○三 島 隆 明
- (II-135) 山地小流域の出水について
九 大 正 篠 原 謹 爾
" " " " ○小 川 川 滋

- (II-136) 花崗岩風化地帯における流出過程に関する一考察
京大 正 ○石 安 雄
" " " " 小 葉 原 竹 重 機
- (II-137) 甲府市梓川における流出について
山梨大 正 荻 原 能 男
" " " " 学 ○小 貝 砂 林 弘 憲 彦 智 丈 吾 郎 住

- (II-138) 裏筑波試験地の流出率
建土研 正 橋 本 健
- (II-139) 融雪流出に関する実験的研究
北道路大 正 ○藤 田 睦
" " " " 北 大 学 加 山 島 崎 哲 博 雄 誠

(休憩 10 分)

総括報告 (流出 5)
14.40~15.40

- (II-140) 都市域の流域モデルに関する一考察
愛媛大 正 ○豊 國 永 次
" " " " 清水 建設 敷 原 運 弘
- (II-141) 都市域の洪水処理に関する研究(その1)
建土研 正 ○山 口 高 志
" " " " 山 松 原 重 昭
- (II-142) 都市域の洪水処理に関する研究(その2)
一降雨波型とピーク流出量について
建土研 正 ○山 口 高 志
" " " " 山 松 原 重 昭
- (II-143) 流域の宅地開発に伴う流出特性変化に関する研究(1)
京大 正 ○角 陸 睦
" " " " 高 知 県 早 宮 瀬 崎 大 吉 利 雄 博

▶文科系講義室 1 階 107 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (計画 1)
9.20~9.50

- (II-144) 明治初期日本におけるオランダ工法による河川港湾工
事の研究
東大 正 高 橋 武 裕
" " " " 学 ○島 崎 崎 雄
- (II-145) ⑨ 決定理論による気象予報にもとづく防災対策の決定
東 建 工 大 正 中 花 英 夫
" " " " 東 建 工 大 学 ○鹿 嶋 島 村 寛 秀 秀 夫 輔 茂

総括報告 (計画 2)
9.50~10.50

- (II-146) 河川の洪水疎通能力の評価に関する2,3の考察
京和歌山県 正 高 棹 琢 馬
" " " " 学 ○鈴 木 藤 藤 一 郎
- (II-147) 水資源計画の信頼性について
阪大 正 室 田 明
" " " " 学 ○江 吉 藤 岡 剛 治 道 正
- (II-148) 貯水池による水供給の信頼性(第3報)
阪大 正 室 田 明
" " " " 学 ○神 福 田 田 明
" " " " 学 福 島 同 成 徹 悟
- (II-149) 多地点時間単位のモデル降雨とそのシミュレーション
徳島大 正 ○一 寛 夫
" " " " 学 端 野 道 夫

(休憩 10 分)

総括報告 (計画 3)
11.00~12.00

- (II-150) 等価線形貯水池システムについて
阪大 正 室 田 明
" " " " 学 ○江 吉 藤 岡 剛 治 道 正
- (II-151) 管路による水輸送システムの応答について
京大 正 岩 佐 義 朗
" " " " 学 ○常 綾 芳 史 明 昭 郎
- (II-152) 複数基準点システムのダム群利水操作について
京大 正 高 池 琢 馬
" " " " 学 ○小 淵 利 一 治
- (II-153) ダム群による洪水の最適制御について
北海土試 正 小 森 保 致

(休憩 60 分)

個人発表 (流力弾性)
13.00~14.00

- (II-154) 低温時における防眩材の挙動について
三井建設 C 正〇 前田 慶之助
〇 田川 宗正 生彦
- (II-155) 平板のフラッター振動に関する基礎研究
東工大 正学 日野 幹 雄健哲
〇 白高 野砂 让
- (II-156) 浮体けい留用アンカーの引抜き抵抗力
中央大 正学 服部 昌太郎
- (II-157) 水撃圧の負圧の処理について
山梨大 正学 荻原 能文 夫人
〇 近藤 杉村 淑

(休憩 10 分)

個人発表 (計測・模型実験)
14.10~14.40

- (II-158) 水中の浮遊砂の超音波反射特性
東工大 正学 奥島 基良 良雄之
〇 大橋 楓田 和
- (II-159) 河川大型水理模型実験の現況と問題点
建土研 正 須賀 堯 三

総括報告 (計測・模型実験)
14.40~15.55

- (II-160) 橋脚後流による河川の流速測定
信州大 正学 佐々木 八郎 一郎
〇 余賀 越良 夫
- (II-161) フルイディクスによる流量制御
信州大 正学 佐々木 八郎 一郎
〇 余賀 越良 夫
- (II-162) 河川水位計の波に対する応答について
東洋大 正学 本間 仁 広
〇 萩原 国
- (II-163) 河道水理模型実験における垂線尺の影響
建土研 正学 須賀 堯 三
〇 浜谷 飛武 治
- (II-164) 河道内波浪遡上模型実験の問題点
建土研 正学 須賀 堯 三
〇 佐久間 田 三

▶文科系講義室 2 階 201 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (上水 1)
13.00~14.30

- (II-165) 固液系流動層における粒子挙動の不安定性 (II)
九大 正学 栗谷 陽 一也
〇 楠田 圃
- (II-166) 固液系流動層における濁質除去機構
九大 正学 栗谷 陽 一也
〇 古賀 憲
- (II-167) フロックと乱流について
信州大 正学 佐々木 八郎 一郎
〇 松井 清
- (II-168) 流体素子を利用した液体混合装置に関する実験的研究
鴻池組 正学 藤光 威雄 昭
〇 南大 橋
- (II-169) 急速河過システムの主構成プロセスとしてのフロッキ
ャレーター
北宮 崎大 正学 丹保 憲 義 仁 公
〇 渡
- (II-170) 沈殿池の操作について
京大 正学 高井 松上 武 一郎 輝 孝
〇 芝 頼 定

(休憩 10 分)

個人発表 (上水 2)
14.40~15.25

- (II-171) 傾斜板沈殿池の水理
北ワセタセット 正学 〇 丹保 憲 仁 志
〇 庄 司 正

- (II-172) 活性炭層におけるエネルギー消費と水質分散について
京大 正学 〇 末住 石友 太郎 恒 生 一
〇 松阿 忠 清
- (II-173) 砂ろ過池の阻止率について
北見工大 正学 〇 海老江 邦 雄

個人発表 (混相流)
15.25~15.55

- (II-174) 下水汚泥のテクトロロビキ挙動について
阪工大 正学 〇 川島 晋 藏
- (II-175) 懸濁液の粘性係数と降伏応力
東大 正学 〇 大松 垣尾 真 一郎 矩

▶文科系講義室 2 階 201 番教室・10 月 21 日 (土)

総括報告 (三次処理 1)
9.00~10.30

- (II-176) オゾン処理に関する基礎的研究
京大 正学 〇 宗山 宮田 功 美 美
〇 河原 春 長
- (II-177) 弗素電解法による合成ゴム工場の廃水処理
日大 正学 〇 金岸 井 昌 勤 喜 宣 照
〇 小大 三 山 木 森 邦 治 久 章 彦
- (II-178) 弗素電解法による廃水中のマンガンを除去
日大 正学 〇 金坪 井 昌 邦 学 章
〇 大 坪 松 木 宣
- (II-179) 弗素電解法における島居漆の飲料水化
日大 正学 〇 金坪 井 昌 邦 学 行 治 幸 明 彦
〇 大 坪 松 木 宣 伸 勘 宣 泰 照
- (II-180) る過による二次処理水の高濃度浄化
京大 正学 〇 合宗 田 宮 健 功 夫 至 司
〇 横 濱 市 大 谷 沢 康 克
〇 谷 沢 村 (第 3 報) 重 高 正 欣 久 嶺 孝 也
- (II-181) 逆浸透法による汚水の高濃度処理に関する研究
京大 正学 〇 岩北 重 高 正 欣 久 嶺 孝 也
〇 北 重 高 正 欣 久 嶺 孝 也

(休憩 10 分)

個人発表 (三次処理 2)
10.40~11.55

- (II-182) 下水の用水化に関する研究
北大 正学 〇 丹龜 保 井 憲 仁 翼 晶
〇 湯 浅
- (II-183) 再利用を目的とした下水高度処理のパイロットプラ
ントの実績
三井建設大 正学 〇 丹龜 保 井 憲 仁 翼 晶
工業用水協会 水 部
- (II-184) 粒状活性炭吸着の長期間通水における特性
東大 正学 〇 綾 野 日 出 教
- (II-185) 水質保全の目的をもって開発された活性化石灰につい
て
日大 正学 〇 川島 茂 眸 東
〇 松川 副
- (II-186) ゼオライトの再生について
東北大 正学 〇 佐狩 藤 敦 仁 美 久 郎 雄
〇 八 野 水

(休憩 65 分)

総括報告 (汚泥 1)
13.00~14.30

- (II-187) 純酸素曝気による活性汚泥法の研究 (第 1 報)
日大 正学 〇 谷村 宗 吉 孝 敬
〇 西岡 康

(II-263)◎ 汚泥の管路流動における摩擦損失水頭について
 早大 正学 遠藤 配夫
 ” ” ” ” ” ” 成英 夫夫
 ” ” ” ” ” ” 〇全 成英 夫夫

(休憩 65 分)

個人発表 (都市産業廃棄物処理 1)
 13.00~14.30

(II-264)◎ 熱処理による汚泥の透過性の改善に関する研究
 京大 正学 岡上 勝生
 ” ” ” ” ” ” 武村 忠正
 ” ” ” ” ” ” 〇富戸 重広 幸明

(II-265) 焼却あるいは圧縮処理した固形廃棄物の性状について
 (その2) 三井建設 正学 前野 慶之助
 ” ” ” ” ” ” 〇岡田 藤田 和意

(II-266)◎ スラッジケーキの燃焼に関する研究
 京大 正学 平武 岡田 正勝
 ” ” ” ” ” ” 〇寺井 信洋 生一

(II-267)◎ 高含水スラッジの着火と燃焼に関する研究(その2)
 京大 正学 岩井 重久
 京立造 大船大 〇浦 春山 真二郎

(II-268)◎ 燃焼ガスからみたプラスチックおよびセルロースの燃
 焼特性に関する研究
 京大 正学 岩井 重久
 ” ” ” ” ” ” 〇八 月江 登志男

(II-269)◎ プラスチックと都市ゴミの混焼灰の開発
 京大 正学 岩井 井山 重久
 京立造 大船大 〇高 春月 月純

(休憩 10 分)

個人発表 (都市産業廃棄物処理 2)
 14.40~15.55

(II-270)◎ 大型ゴミ焼型槽による安定化の実験的研究(II)
 福岡大 正学 〇花吉 島田 正孝
 ” ” ” ” ” ” 〇松岩 藤下 千鶴
 ” ” ” ” ” ” ” ” 昌彰 郎寛

(II-271)◎ スラッジ処理の新方式(第1報)
 日大 正学 金井 井山 邦学
 ” ” ” ” ” ” 〇大坪 松木 昌昭
 ” ” ” ” ” ” ” ” 大森 宣彦

(II-272)◎ 汚泥焼却灰の焼結と重金属(銅)の溶出に関する研究
 京大 正学 〇岡田 井山 勝生
 ” ” ” ” ” ” ” ” 武向 井島 信明
 ” ” ” ” ” ” ” ” 中 島 信

(II-273)◎ 固型消化汚泥の溶出について(I)
 福岡大 正学 〇花吉 島田 正有
 ” ” ” ” ” ” ” ” 〇松岩 藤下 千鶴
 ” ” ” ” ” ” ” ” ” ” 昌彰 郎寛

(II-274)◎ 廃プラスチック廃油による消化汚泥の固型化について
 (I) 福岡大 正学 〇花吉 島田 正有
 ” ” ” ” ” ” ” ” ” ” 昌彰 郎寛

第2刷発売中

水理公式集 昭和46年改訂版

みずのばいぶる ————— 土木学会水理公式集改訂委員会編

● B5判・630ページ・8ポイント一段組・図版700個・上製箱入特製豪華本 ●

定価 4000円 会員特価 3600円(〒250円)

<第1刷の正誤訂正表ができましたので、ハガキでお申出下さい>

総目次

- 第1編 基礎編 1. 水理の基礎 2. 静水力学 3. 開水路水理の基礎 4. 管水路水理の基礎 5. 流水中におかれた物体の抵抗 6. 噴流・拡散 7. 波動 8. 密度流 9. 次元解析と相似律 10. 降水 11. 融雪・蒸発・蒸発散 12. 雨水の流出 13. 洪水流出(短期流出) 14. 長期流出(低水流出) 15. 土砂生産, 流出 16. データ処理 17. 水文量のひん度と減勢 6. 水撃作用 7. サージタンク 8. 水力機械 9. 地震時動水圧 10. 温度密度流
- 第2編 河川編 1. 平均流速 2. 流速および流量測定 3. 不等流 4. 不定流 5. 流砂 6. 河床の変動と局所洗掘 7. 堤防およびアースダムの浸透
- 第3編 発電編 1. 管路および開水路の流れ 2. せきと越流頂 3. ゲートおよびバルブ 4. 急勾配水路 5. 跳水
- 第4編 上下水・水質保全編 1. 地下水 2. 管水路と開水路 3. 流量計およびポンプ 4. 浄水 5. 市街地雨水流出量 6. 下水処理 7. 汚泥 8. 水域の水質分布
- 第5編 海岸・港湾編 1. 風波の発生・発達および伝播 2. 波の変形 3. 波圧および波のうちあげ 4. 漂砂 5. 潮汐・潮流およびその他の流れ 6. 津波および高潮 7. 河口密度流および海岸の地下水
- 人名索引・事項索引・数表・業界案内等

● 申込先・〒160 東京都新宿区四谷1丁目・土木学会刊行物係・TEL 351-4131

- (Ⅲ-153) フォールブーン法における先端角度の影響
函館高専正 〇清佐 水野 誠 一房
- (Ⅲ-154) 関東ロームの比重試験について
埼玉大正 風間 秀彦
- (Ⅲ-155) ⑤ ホプキンソン標法タイプの動的せん断試験
東海大正 〇冬近 都木 藤一 馬衛博
- (Ⅲ-156) 土中土圧計の形状の応力集中
名大正 〇松石 沢井 恒 宏久
- (Ⅲ-157) 地盤調査における電気検層の基礎的研究
日本開発正 藤原 忠一

個人発表 (試験法・調査法)
11.40~12.10

- (Ⅲ-158) ⑤ 或る花崗岩地域における物理検層の応用について
石油資源開発正 山下 武 男
- (Ⅲ-159) ⑤ インパルス音波による地下埋設管の探査実験
東工大正 〇本島 基 良一

▶文科系講義室 2階 203番教室・10月20日(金)

総括報告 (土質改良)
13.00~14.15

- (Ⅲ-160) 薬液注入固結砂の圧縮特性について
東大正 〇佐藤 剛 司
三今村 五郎 徳
- (Ⅲ-161) 薬液注入による砂の強度特性の劣化について
早大正 〇武田 安 麟敬
- (Ⅲ-162) 電気浸透応用のグラウチングによる砂の液化防止
九三信建設大正 〇田中 豊 聡一
- (Ⅲ-163) 水性ポリウレタン樹脂のり面防凍剤による凍上防止
に対する実験 大林組正 〇岡田 藤 二和 純 郎章 二
- (Ⅲ-164) グラスファイバー添加土の基礎的実験について
福岡大正 吉田 信 夫
- (Ⅲ-165) 地盤凍結工法における二、三の対策
都交通局正 〇千村 弥三郎
佐々木 道 浩
〇浅井 道 悌 作

(休憩 10分)

総括報告 (土質改良)
14.25~15.25

- (Ⅲ-166) 半透膜を用いた脱水作用について
広島工大正 〇鈴木 健 夫 重 章
- (Ⅲ-167) 半透膜を併用したペーパードレーンによる脱水について
広島工大正 鈴木 健 夫
- (Ⅲ-168) 地下水低下法による軟弱地盤改良の実験的研究
大林組正 〇新藤 藤 二 郎 清 茂
- (Ⅲ-169) 繰返し荷重による圧密の促進工法について
九大正 〇山井 内 豊 聡一 和 文
- (Ⅲ-170) サンドドレーンの適応性について
愛知工大正 〇大根 義 男
〇西奥 堀 高 哲 夫

▶文科系講義室 2階 203番教室・10月21日(土)

個人発表 (土質改良)
9.00~10.30

- (Ⅲ-171) 水位低下とペーパードレーンによる地盤改良
大阪市正 〇佐々木 伸 明
〇木山 正 明
- (Ⅲ-172) ⑤ 薬液注入圧に関する二、三の考察
鹿島建設 坪木 井 直 道
〇中池 上 島 詩 政
〇尾 上 雄 秀
- (Ⅲ-173) ④ 石灰系材料による関東ロームの安定処理 (1) セメント
添加による混合度と強度
日大正 〇今野 誠 利
〇岩佐 行 行
- (Ⅲ-174) ⑤ 補強土 (La Terre Armée) 工法における土と補強材
の摩擦について
テラルメ(株)正 〇鳥田 俊 介
武蔵工大 武 星 介 勝
- (Ⅲ-175) ⑤ 地すべり粘土の工学的性質に及ぼすKイオンの影響
京大正 〇松尾 新 一郎 清
〇富田 新 武 清
- (Ⅲ-176) ⑤ 走査電子顕微鏡による分散、凝集処理締め固め土の
造的研究
京大正 〇末松 新 一郎 焜

(休憩 10分)

総括報告 (土性・特殊土)
10.40~12.05

- (Ⅲ-177) 土質分類と工学的性質との対応について
名大正 〇桑植 山 下 忠 協
- (Ⅲ-178) ⑤ 土の乾燥状態変化による工学的特性の実験的研究
名城大正 〇河内 田 雄 夫
〇岡田 隆 士 夫
- (Ⅲ-179) 過圧密された砂と粘土の混合土の強度特性について
北見工大正 〇鈴木 輝 之 繁
〇北郷 北 郷 之 繁
- (Ⅲ-180) 圧縮成形した関東ロームの性質について
中央大正 〇久野 悟 郎 博
〇阿部 野 部 博
- (Ⅲ-181) ⑤ マサ土の土粒子破砕とせん断特性
関西大正 〇西田 一 彦 清
〇香山 川 一 彦 清
- (Ⅲ-182) シラスに含まれる粘土分について
九大正 〇山内 豊 聡 滋
- (Ⅲ-183) 砂質土の膠結作用に関する一実験
阪工大正 岡 巖

(休憩 55分)

個人発表 (土性・特殊土)
13.00~14.45

- (Ⅲ-184) 火成岩風化土の工学的性質について
京大正 〇松尾 新 一郎 彦 謙
〇西工大 〇福西 田 田 彦 謙
- (Ⅲ-185) 破砕しやすい火山レキ (摩周火山降下軽石) の二、三
の特性 東大正 〇齋藤 三 五 三 郎 夫
〇三木 藤 三 郎 夫
- (Ⅲ-186) ⑤ マサ土粒子表面の微視的特徴と粒子の破砕性の関係に
ついての考察 京大正 〇沢尾 新 一郎 平
- (Ⅲ-187) 土質材料構成方程式の一考察
京大正 足立 紀 尚
- (Ⅲ-188) 有機質火山灰土の圧縮強度に関する乾燥効果とねり返
り効果 熊本大正 〇鈴木 敦 已 昭 二 郎
〇荒牧 荒 牧 昭 二 郎
- (Ⅲ-189) 阿蘇火山灰土の化学的検討について
熊本大正 〇鈴木 敦 已 昭 二 郎
〇荒牧 荒 牧 昭 二 郎
- (Ⅲ-190) ⑤ 大山火山灰土の締め固め特性について (その2)
鳥取大正 〇久保田 敦 已 昭 一 尚
〇藤村 久 保 田 敦 一 尚

トンネル標準示方書解説
シールド工法指針

A5判 144ページ 800円 会員特価 700円 (120円)

A5判 138ページ 800円 会員特価 700円 (120円)

第 IV 部門 (道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量など)

▶農学部防音教室 1 階 103 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (計画論)

13.00~14.30

- (IV-1)⑤ 地域間連関分析に関する考察
北 大正 山村 祝 夫
- (IV-2) 多地域多段階の工業開発モデルについて
京 大正 長尾 義寿 三芳秋
建設省 〇佐藤 杉信
- (IV-3) デュアレーション見積りに関する一考察
清水 建設 正 〇高 戸崎 国英 夫邦
- (IV-4) 総合交通体系計画における代替案作成の方法論的研究
首都高速 〇山 野原 隆重 行昭真
建設省 〇山 野原 隆重
- (IV-5) 通勤通学交通の分布と地域構造に関する研究
北 大正 〇小笠原 博真 三理昭一
〇小笠原 博真 三理昭一
国土院 〇山 野原 隆重 信
- (IV-6) KJ法による家雪地の交通に関する問題点の探求
建設省 〇山 野原 隆重 俊 安郎

(休憩 10 分)

個人発表 (計画論)

14.40~15.10

- (IV-7) 下水道整備計画の時、空間サブシステムとその総合に関する基礎的研究
日本水道C 〇中大 門村 正良 久巳武
- (IV-8) 河川汚濁制御計画のための施設整備規模決定に関する研究
日本水道C 〇中大 門村 正良 武巳久

個人発表 (交通計画)

15.10~15.55

- (IV-9)⑤ 交通手段選択に際しての評価基準に関する分析
東工大 〇大 村村 英隆 夫地夫
〇大 村村 英隆
- (IV-10) 都市と交通体系に関する研究 (その1)
日 大正 〇岡 本田 但哲 夫量静
〇徐 木 湖
- (IV-11) 輸送機関の利用分担についての一考察
北 大正 〇加 来 照信 俊三

▶農学部防音教室 1 階 103 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (交通計画)

9.00~10.30

- (IV-12) 名古屋臨港地域における貨物輸送分担について
岐阜 〇大正 加藤 藤 晃二
〇河 昭
- (IV-13)⑤ 新都市交通機関の評価に関する一考察
東運工 〇大正 菅原 健 操治
〇白 取 健
- (IV-14)⑤ 交通におけるテクノロジー、アセスメントの一試案
東工大 〇大正 〇菅原 操治 雄史
〇星 原野 上 園 義史
〇小 井 上 園 義史
〇藤 井 上 園 義史
〇安 藤 井 上 園 義史
- (IV-15) 東北地方諸都市における通勤、通学圏について
秋田 大正 清水 浩志郎
- (IV-16) バスサービス評価に関する一考察
阪 大正 〇西 村 晃三
〇八 村 晃三
〇藤 村 晃三

- (IV-17) トリップ発生モデルの分析
東 大正 太田 勝敏

(休憩 10 分)

個人発表 (交通計画)

10.40~12.10

- (IV-18) 多車線交通情報に関する二、三の考察
信州大 〇大正 奥谷 敏
- (IV-19) 都市高速道路のアクセシビリティに関する研究
札幌市 〇大正 〇高谷 俊 清臣
- (IV-20) 料金徴収所の処理能力について
阪神高速 正 松尾 武
- (IV-21)⑤ 200 キロ超高速道路計画 (第2報)
日 大正 〇岡 本田 但哲 夫量透
〇大正 〇岡 本田 但哲 夫量透
- (IV-22) 航空旅客数のスペクトル解析について
福岡 〇大正 〇吉田 信 夫俊
五洋建設 〇大正 〇吉田 信 夫俊
- (IV-23) エレベータの運行に関する一考察
阪 大正 〇三 瀨村 貞鳥次
〇大正 〇三 瀨村 貞鳥次

(休憩 50 分)

総括報告 (交通網計画)

13.00~14.00

- (IV-24)⑤ 都市街路網の構成について (第2報)
鳥取大 〇大正 〇中 原 清志
〇大正 〇中 原 清志
- (IV-25) 道路網容量の増加方法に関する一考察
阪市大 〇大正 西村 昂
- (IV-26) 最適ネットワーク問題に関する一考察
阪市大 〇大正 〇西 村 昂一
〇大正 〇西 村 昂一
- (IV-27) 改良分割法による交通量配分
金大 〇大正 〇飯 田 恭夫 敬夫
〇大正 〇飯 田 恭夫 敬夫
- (IV-28) SUMT を用いた交通量配分
大正 〇大正 〇松 井 寛

個人発表 (交通網計画)

14.00~14.45

- (IV-29)⑤ 大規模ネットワークシステムのマルチレベル構造
東工大 〇大正 〇内 此 久恒 雄正
〇大正 〇内 此 久恒 雄正
- (IV-30) 都市内街路除雪順序に関する一考察
北 大正 〇加 来 俊三
〇大正 〇加 来 俊三
- (IV-31)⑤ 通勤鉄道網計画に関する研究
東工大 〇大正 〇菅 原 操治
〇大正 〇菅 原 操治

(休憩 10 分)

個人発表 (都市・地域計画)

14.55~15.55

- (IV-32) 通勤通学交通分析による都市論
国 鉄 正 鈴木 明
- (IV-33) 交通サービス水準と交通施設の利用度に関する研究
名 〇大正 〇山 竹 喜伝 義史
〇大正 〇山 竹 喜伝 義史
- (IV-34) 鉄道時間距離の短縮が関連地域に及ぼす影響について
北通産 〇大正 〇真山 川木村 三之夫
〇大正 〇真山 川木村 三之夫
- (IV-35) 高速度鉄道の延長に伴う郊外住宅地の形成
愛知 〇大正 〇所 辺 浩司 賀恵
〇大正 〇所 辺 浩司 賀恵

▶農学部防音教室 1 階 103 番教室・10 月 22 日(日)

個人発表(都市・地域計画)
9.00~10.30

- (IV-36)◎ 住区における街路パターンに関する一考察
京大正 天野 光 三
小西 柏谷 増道 男
- (IV-37) 大都市におけるビルディング間連絡橋構想
日大正 岡本 但 夫
村 尾 康 則
- (IV-38) 地域人口の予測方法に関する研究
金沢大正 松浦 義 満
米 田 秀 男
- (IV-39) ネットワーク手法による住民意識の分析
東工大正 永井 護 美
神奈川大正 川口 恒
- (IV-40) 市街地の地価形成メカニズムに関する研究
金沢大正 松浦 義 満
谷 口 義 明
- (IV-41) 組合施行による土地区画整理事業と土地利用計画について
東急電鉄正 松本 芳 彦

(休憩 10 分)

個人発表(都市・地域計画)
10.40~12.10

- (IV-42)◎ 濃度測定による都市計画要素の抽出法(その2)
和歌山高等正 星 仰
- (IV-43) 大気汚染を考慮した土地利用計画モデルについて
京大正 森 孝 信
建設省 佐 藤 芳 秋
- (IV-44) 因子分析法による都市機能集積と環境に関する研究
北大正 川島 博 三
住宅公団 小五十 出 夫
福 岡 英 昭
- (IV-45)◎ 住宅ストックの構成変化の推定法について
京大正 天野 光 三
学 齋 藤 増道 雄
- (IV-46) 都市のある水収支について
日大正 神谷 真 吉
- (IV-47)◎ 都市における給配水施設の拡張計画モデルについて
京大正 春名 攻 夫
岡 田 憲 夫

(休憩 50 分)

個人発表(都市・地域計画)
13.00~14.30

- (IV-48) 都市施設整備水準の評価に関する研究
九大正 小林 真 一
小 田 正 文 毅 児
- (IV-49)◎ 地震火災時の避難に関する考察
日本鋼管正 久松 嘉 彦
東大 伯 野 元 彦
- (IV-50) すぐれた自然・文化観光地域の保護と開発の考え方
一日光東照宮を例として一
東工大正 鈴木 忠 義
金沢大正 松浦 義 満
小 森 明 文
- (IV-52)◎ ローカル交通と観光に関する考察
東工大正 菅原 操 茂
学 西 原 地 田 起 広
邦 野 寿 邦
- (IV-53) 都市の防災
日大正 岡本 但 夫

▶農学部防音教室 1 階 101 番教室・10 月 20 日(金)

個人発表(需要予測)
13.00~14.30

- (IV-54)◎ オポチュニティモデルに関する二、三の考察
北大正 山形 耕 一
市 川 一 準

- (IV-55) 配分交通量推定に関する実証的研究
札幌建設省正 田場 治
大工大正 小五十 林 直 延
兵北 庫 大 日 出 夫
- (IV-56)◎ 高速道路の観光交通量予測とその特性に関する考察
東工大正 森 茂
- (IV-57) 都市における物資流動に関する若干の考察
東大正 新山 谷 洋
建設省 黒 川 川
- (IV-58) 2リング輸送系に関する一考察
京大正 長尾 義 三
学 則 武 通 彦
- (IV-59) コンテナふ頭におけるヤード規模決定に関する一考察
京大正 長尾 義 三
京浜外貿正 金 尾 武 彦
三 彦 寛

(休憩 10 分)

総括報告(需要予測)
14.40~15.40

- (IV-60) 通勤・通学交通の輸送手段別分担率に関する一考察
名大三 河上 省 正
井建大正 藤本 正 樹
三 名 大 学 岩 本 基 広
- (IV-61) 通勤・通学機関別分担率の方法について
セントラルC正 谷 藤 正
日大 小 平 耕 三
横 塚 芳 雄
- (IV-62) 郊外住宅地の形成と通勤交通の発生
阪大正 渡 辺 千 賀
愛知大 所 浩 司
- (IV-63) 通勤目的交通の駅勢力圏について
(特に、総武線駅における場合)
日大正 高山 田 邦 道
山 田 落 臣
- (IV-64) ゾーン優先順位による分布交通量推定
神戸山正 枝 村 俊 郎
岡 山 大 吉 井 節 夫

▶農学部防音教室 1 階 101 番教室・10 月 21 日(土)

総括報告(パーソントリップ)
9.00~10.00

- (IV-65) パーソントリップの発生要因の分析
建建研正 黒川 川 洗
大工大正 井上 木 準
井上 木 上 博 司
- (IV-66) 広域都市圏における分布交通量推計に関する一考察
京大正 佐々木 博 司
井上 木 上 博 司
- (IV-67) 都市交通における交通機関選択志向について
建建研 中 川 三 朗
- (IV-68) 住宅地における歩行者交通量の把握と地区特性について
の考察
名大正 竹内 文 史
- (IV-69) 高蔵寺ニュータウンの交通特性に関する一考察
名大正 上村 省 樹
川 野 鈴 河 鈴 裕
田 出 康 裕

個人発表(パーソントリップ)
10.00~10.30

- (IV-70) 交通機関選択の意識に関する調査研究
静岡岡正 渡 部 与 四
静岡大正 首高 野 野 光 郎
建土研 松 原 重 重 行 昭
- (IV-71) 連続トリップにおける Modal Split について
京大正 佐佐木 網
大 正 木 藤 直
近 藤 勝

(休憩 10 分)

個人発表(路線選定)
10.40~11.25

- (IV-72)◎ 競合路線の投資順位
東工大正 内藤 山 久
学 大 田 村 村 陽 雄
国 鉄 正 磯 野 陽 肇 治
- (IV-73)◎ 山地における高速道路選定例の検討
京大正 森 忠 次
大 正 六 塚 岩 男

(IV-74)⑤ アフリカ横断道路ナイジェリア側比較路線に関する二、三の考察
 新 潟 大 正 ○青 山 清 宏 道

個人発表 (交通流)
 11.25~12.10

(IV-75) 交通流の過渡現象に関する考察
 野 村 総 研 正 井 上 信
 (IV-76) 首都高速道路環状部における Acceleration Noise
 武 蔵 工 大 正 岩 崎 征 人 積 義
 東 電 大 〇大 小 沢 邦
 国 主 開 発
 (IV-77) 道路の運用水準についての一考察
 武 蔵 工 大 正 岩 崎 征 人

(休憩 50 分)

個人発表 (交通流)
 13.00~14.15

(IV-78) (欠 番)
 (IV-79) 区間交通量の予測計算について
 阪 神 高 速 正 中 原 繁 雄
 (IV-80) 交通量の車線分布に関する一考察
 京 大 正 井 上 拓 之
 (IV-81) 勾配部を含んだ地方部道路の交通流について
 北 大 正 板 加 忠 三
 " " " 〇福 来 照 俊
 " " " 〇福 吉 江 由
 (IV-82)⑤ 勾配部における交通現象について
 道 開 発 局 正 高 橋 毅 一
 " " " 〇佐 藤 隆 一

(休憩 10 分)

個人発表 (交通制御)
 14.25~15.55

(IV-83) DPによる系統信号の最適化とシミュレーションによる検討
 神 戸 大 正 枝 村 俊 郎
 神 戸 大 " " 〇藤 井 史 史
 神 戸 大 " " 〇藤 井 史 史
 (IV-84) マルコフ過程を用いた信号現示の最適化モデル
 京 大 正 佐 佐 木 潤
 (IV-85) 系統信号における二、三の解法例
 神 戸 大 正 藤 井 俊 史
 神 戸 大 " " 〇苗 村 正 三
 (IV-86) 都市高速道路の短時間交通量予測とその誤差について
 京 大 正 〇米 谷 栄 二
 " " " 〇明 神 谷 神 二 証
 (IV-87) パス優先車線の効果に関する一つの考察
 道 路 公 園 正 増 田 典 行
 (IV-88)⑤ 車の乗り入れ規制の効果に関する一考察
 京 大 正 天 野 光 三
 " " " 〇銭 谷 善 信

▶農学部防音教室 1 階 101 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (交通事故・交通公害)
 9.00~10.30

(IV-89) 交通事故解析に関する一考察
 阪 大 市 大 正 三 行 瀬 井 哲 夫
 大 阪 市 大 " " 〇川 崎 雅 夫
 (IV-90) 交通事故要因分析に関する一考察
 北 大 正 加 来 照 俊
 " " " 〇山 本 隆 幸
 (IV-91)⑤ 地区内交通事故に関する一考察
 愛 媛 大 正 〇藤 山 節 夫
 安 〇安 目 山 節 夫
 (IV-92) 路線における交通事故発生分布に関する研究
 室 蘭 工 大 正 齋 藤 和 夫
 (IV-93) 交通事故発生危険性評価に関する研究 (I)
 室 蘭 工 大 正 〇齋 藤 和 夫
 " " " 〇石 井 憲 夫
 (IV-94)⑤ 交差点の大きさと交通事故の関係
 東 工 大 正 片 倉 正 彦

(休憩 10 分)

個人発表 (交通事故・交通公害)
 10.40~11.55

(IV-95) 踏切事故の定型化と通行車の一般的暴進係数について
 大 阪 産 大 正 堀 川 健 六
 (IV-96) 交通安全施設の注視特性
 科 学 警 察 研 正 村 田 隆 裕
 (IV-97) 交通安全に関する地区分析について
 阪 大 正 三 星 昭 宏
 (IV-98)⑤ 自転車線の誘導に関する実験的研究
 岐 大 正 〇加 藤 晃 弘
 名 早 大 " " 〇高 橋 政 隆
 岐 名 大 " " 〇高 橋 政 隆
 (IV-99)⑤ 交差点における排気ガス濃度の要因分析
 東 工 大 正 〇中 村 英 夫
 科 学 警 察 研 " " 〇村 田 隆 裕
 大 成 建 設 " " 〇村 田 隆 裕

▶農学部防音教室 2 階 201 番教室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (鉄道線路・軌道)
 13.00~14.30

(IV-100) 高速鉄道の新線設計 (続)
 東 大 正 八 十 島 義 之 助
 (IV-101)⑤ 振動する軌道上の車輛運動 (続)
 大 正 〇八 十 島 義 之 助
 " " " 〇大 藤 孝 伸
 " " " 〇藤 澤 光
 (IV-102)⑤ 砂利道床軌道が衝撃を受けた場合の応答について
 金 沢 大 正 〇小 野 一 良
 " " " 〇伊 藤 義 男
 (IV-103)⑤ 複型道床における落錐実験について
 岐 早 高 専 正 〇渡 部 卓 郎
 " " " 〇渡 部 卓 郎
 (IV-104) 軌道パットの効果に関する研究
 東 大 正 西 岡 隆 二
 " " " 〇渡 部 卓 郎 孝 義
 (IV-105)⑤ 橋梁支承部に生じる角折れが鉄道車輛に与える影響
 國 鉄 正 岡 田 勝 也

(休憩 10 分)

個人発表 (景観工学)
 14.40~15.55

(IV-106)⑤ 自然地形の景観的解析
 東 大 学 〇樋 口 忠 彦
 " " " 〇樋 口 忠 彦 博 紀
 (IV-107)⑤ 自然景観計画のための情報処理とその応用
 東 大 正 学 〇佐 藤 長 博
 建 設 省 正 〇佐 藤 長 博 貴
 (IV-108)⑤ 都市内高架道路が歩行者に及ぼす視覚的影響に関する研究
 東 大 正 伊 藤 孝
 (IV-109)⑤ 橋梁構造物透視図の自動作製
 東 大 正 学 〇中 村 良 夫
 建 設 省 正 〇小 柳 村 武 俊 和 行
 (IV-110)⑤ 橋梁を主題とする休憩施設の景観計画
 アーバン Indus. 正 〇篠 原 村 幸 久
 道 路 公 園 " " 〇篠 原 村 幸 久

▶農学部防音教室 2 階 201 番教室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (管理計画)
 9.00~10.30

(IV-111) PERT 計算に関する一考察
 近 畿 大 正 小 川 康 彦
 (IV-112) インシデンスマトリックスによるトポロジカルオーダリングの一つの方法
 金 沢 大 正 飯 田 恭 敬
 (IV-113) 数理化理論による道路切り取りの面の崩壊について
 の研究 広 島 県 正 〇山 本 弘 俊
 " " " 〇山 本 弘 俊
 (IV-114)⑤ 機械・資材管理のシステム化について
 京 大 正 春 名 攻
 (IV-115)⑤ 造成工事における機械系選定に関する一考察
 京 大 正 学 〇山 本 幸 司

- (IV-116)◎ 工務部門における施工管理のシステム化に関する研究
鴻池組正川崎健次
 京池大組〇田坂隆一郎

(休憩 10 分)

個人発表 (管理計画)
 10.40~11.25

- (IV-117) 作業時間分布の特性 京大正 富太橋 昭治郎
国鉄大 学 〇中 田木恒 秀恒 樹邦春
- (IV-118) DPによる学生実習の管理名 大正 〇本郷 国吉
〇〇〇 〇山内 田岩 雄茂
- (IV-119)◎ 図書目録の電算索引について 大正 〇鳥田 静雅
〇〇〇 〇学 加藤 雅史

個人発表 (測量)
 11.25~12.10

- (IV-120)◎ 距離測定におけるカテナリー線分について (Ⅱ)
名城大正 〇橋田 正育
 〇〇〇 〇〇前 祐次 都喜春
- (IV-121) 割円の中心角, 半径, 円弧, 面積
東洋大正 浅井 貞重
- (IV-122)◎ 表面求積に関する試作ノモグラムについて
阪工大正 松井 啓之輔

(休憩 50 分)

個人発表 (測量)
 13.00~14.30

- (IV-123) 三辺測量による測角値の誤差の検討
日大正 〇亀田 積和 満昭
- (IV-124)◎ 平板測量の交会法による視準点の偏位について
名城大正 〇中井田 清次
 〇〇〇 〇〇前 祐次 都喜春
- (IV-125)◎ 球形容器を使用した水中写真測量について
京大正 〇岡本 忠次
 〇〇〇 〇〇〇 厚
- (IV-126) 航空写真解析の一方法
日大正 堺西川 毅
 〇〇〇 〇〇〇 井井 淳生
- (IV-127) 数値写真地図の紹介と利用について
東洋ソフトウェア 正上 谷 良吉
- (IV-128)◎ 自動製図におけるグラフィックディスプレイの応用
国鉄構設 正阿部 英彦
 〇〇〇 〇〇〇 田中 恭三

(休憩 10 分)

個人発表 (舗装・道路構造物)
 14.40~15.55

- (IV-129) 輪荷重と接置圧, 接置半径相互の関係について
都建設局 正〇秋山 政敬
 〇〇〇 〇〇〇 細田 昌男

- (IV-130) 試験車による振動と舗装供用指数との相関について
阪市大正 〇三瀬 眞一
 〇〇〇 〇〇〇 木村 賢
- (IV-131) 道路の舗装性状と振動伝播について
岩手大正 竹崎 忠雄
 都土技研 〇遠下 文一
- (IV-132)◎ コンクリート舗装の拘束圧縮力による曲げ破壊
日大正 〇川口 昌宏
 〇〇〇 〇〇〇 草刈 太一
- (IV-133) PCロッド埋込み式コンクリート舗装版の大型室内疲労実験
名都高速 正〇植下 秀公
 PSコング. 〇〇 〇〇〇 長友 野

▶農学部防音教室 2 階 201 番教室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (舗装・道路構造物)
 9.00~10.30

- (IV-134)◎ アスファルト混合物の締め固めに関する実験
名城大正 〇藤野 弘弘
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇 晃
- (IV-135) セメント安定処理路盤を用いたコンクリート舗装版の荷重応力
東北大正 福田 正
- (IV-136) Fe-石灰安定処理土の舗装構造とその施工管理
Fe-石灰研 正〇井井 能之
 〇〇〇 〇〇〇 井井 杉清
- (IV-137) 舗装構造の力学的調査
大正 植下 協
 〇〇〇 〇〇〇 学 玉野 富雄
- (IV-138) 乗鞍スカイラインの試験舗装に伴う調査結果について
岐阜県正 鈴木 治
- (IV-139)◎ 路面の凹凸その他の観察と測定について
京大正 森 忠次

(休憩 10 分)

個人発表 (舗装・道路構造物)
 10.40~12.10

- (IV-140)◎ 路面のすべりまさつ係数に関する一考察
道開発局 正高 橋谷 毅
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇 関佐 藤一
- (IV-141) 高速走行時のすべり摩擦係数について
一ハイドロプレーニングの実測
 建土研正 〇市原 光
 〇〇〇 〇〇〇 小野田 隆之
- (IV-142)◎ 横風を受ける高速自動車の走行安定性に関する研究
金沢大正 〇榎場 重太
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇 長久藤 江裕
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇 森 裕光
- (IV-143)◎ 軟弱地盤上低盛土処理基礎の設計施工について
熊本大正 〇程原 光祥
 〇〇〇 〇〇〇 西浦 久史
- (IV-144) 歩道設置規準に関する一考察
信州大正 〇奥谷 巖三
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇 福成 孝
- (IV-145)◎ 東京港海底トンネルの動的解析
首都高速 正津野 和男
 〇〇〇 〇〇〇 〇〇 松本 郁弘
 大成建設 〇〇 〇〇〇 木田 政

土木学会第 26 回年次学術講演会講演集残部頒布中 (46.10.1~3 仙台)

部 門	部 門 別 内 容	題数・ページ数	頒 価
第 1 部	応力・構力・構造・橋梁など	230 題 720 p.	1 600 円 (〒200 円)
第 2 部	水理・水文・河川・港湾・海岸・発電・衛生など	230 題 686 p.	1 500 円 (〒200 円)
第 3 部	土質・基礎・岩盤など	145 題 488 p.	1 000 円 (〒200 円)
第 4 部	道路・鉄道・交通・都市・国土・測量など	116 題 322 p.	700 円 (〒200 円)
第 5 部	土木材料・土木施工・コンクリートなど	126 題 348 p.	800 円 (〒200 円)

注: 第 1 部から第 5 部までのセットは残部僅少です。1 セットの場合は 5,600 円 (〒 600 円) です。

第 V 部門 (土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリートなど)

▶理学部 1 階物理教室第 1 講義室・10 月 20 日 (金)

個人発表 (吉田研究奨励金受領者報告)
13.00~15.00

- (V-1)⑤ ねじりを受けるコンクリート部材の挙動について
首都高速 正 泉 満 明
- (V-2)⑤ フレッシュコンクリートのレオロジーに関する基礎的研究
名城大 正 菊川 浩 治
- (V-3) コンクリート舗装の設計法の改善に関する実験的研究
建土研 正 飯島 尚
- (V-4) コンクリート施工継目におけるひびわれに関する研究
国 鉄 正 小森 博 輔
- (V-5)⑤ コンクリートの急速凍結融解試験による劣化と自然の気象作用における劣化との相関性に関する基礎的研究
福岡大 正 大和 竹 史
- (V-6) 直結軌道用軽量コンクリート高架橋の設計施工に関する研究
国 鉄 正 高津 朗 信
- (V-7)⑤ プレキャスト PC 部材と現場打コンクリートとの接合に関する基礎研究
東 大 学 松 本 進
- (V-8)⑤ コンクリートの引張強度試験方法に関する研究
埼玉大 正 町田 篤 彦

(休憩 10 分)

個人発表 (複合材料)
15.10~15.40

- (V-9)⑤ 二相材料モデルによるモルタルの破壊特性
京 大 正 学 〇小面 御 幸 治 男
- (V-10)⑤ 膨張コンクリートの複合材料的アプローチ
東 大 正 学 〇岡田 村島 正 彦 泰

▶理学部 1 階物理教室第 1 講義室・10 月 21 日 (土)

個人発表 (硬化コンクリート)
9.00~10.30

- (V-11)⑤ 三軸圧縮応力下のコンクリートの破壊強度
九 大 正 学 〇山 徳 光 善 治 治
- (V-12) $\phi 10 \times 20$ cm 供試体と $\phi 15 \times 30$ cm 供試体コンクリートの圧縮強度比較
小野田セメント 正 〇大加 垣 藤 明 穂
- (V-13)⑤ コンクリートの 28 日強度推定に関する一実験
阪工 大 正 学 〇鶴 飼 森 光 夫 登
- (V-14)⑤ コンクリートの圧縮疲労試験
九 大 正 学 〇松 下 博 通 治
- (V-15)⑤ コンクリートの支圧強度に対する補強効果
神戸大 正 学 〇嶋 藤 井 学 夫
- (V-16)⑤ くり返し荷重下におけるソイルセメントの力学的性質
金沢大 正 学 〇柳 堀 村 浦 重 隆

(休憩 10 分)

個人発表 (硬化コンクリート)
10.40~11.55

- (V-17)⑤ 硬化コンクリートの空隙と強度、変形特性との関係について
鳥 取 大 正 学 〇阪 田 憲 次 郎
- (V-18)⑤ 軸方向引張力と曲げモーメントを受ける鉄筋コンクリート部材の破壊
早 大 正 学 〇神 山 口 直 一 能
- (V-19)⑤ 鉄筋コンクリートはりのプラスチックヒンジの長さについて
早 大 正 学 〇神 山 一

- (V-20) 軸力と曲げを受ける RC 単純桁の破壊に関する研究
宮 崎 大 正 学 〇山 田 沢 隆 博
 - (V-21)⑤ 曲げと軸力を受ける RC 断面の極限強度理論設計について
北 大 正 学 〇横 角 道 雄
- (休憩 65 分)

個人発表 (フレッシュコンクリート)
13.00~14.30

- (V-22)⑤ 共振方法によるフレッシュコンクリートの物性測定に関する基礎的研究
明石高専 正 〇角 明 石 外 世 樹
- (V-23)⑤ まだ固まらないコンクリートのレオロジー的性質の活用と問題点
都 立 大 正 学 〇村 田 活 二 郎
- (V-24)⑤ フレッシュモルタルのレオロジー的性質に関する研究
一細骨材粒度の影響について
鳥 取 大 正 学 〇西 林 新 蔵 次 郎
- (V-25) セメントペーストの初期性状について
関 組 正 上 田 勝 基 紀 司
- (V-26)⑤ コンクリートのコンシステンシー測定と締め固めに関する実験的考察
大阪産大 正 山 路 文 夫
- (V-27)⑤ 化学分析によるまだ固まらないコンクリートの水セメント比の迅速測定法
都 立 大 正 学 〇黒 村 田 二 郎 登 起 雄

(休憩 10 分)

個人発表 (微小ひびわれ・その他)
14.40~15.55

- (V-28)⑤ 圧縮力によるセメントペースト中のマイクロクラック
山口大 正 学 〇川 吉 本 正 彰 史
- (V-29)⑤ プレコンクリートの微小ひびわれと物性およびその非破壊評価法
防衛大 正 〇加 藤 清 志 夫
- (V-30)⑤ 多相材料の初期欠陥からのき裂の発生と伝播
京 大 正 学 〇小 林 昭 一
- (V-31)⑤ プレコンクリートはりの曲げ疲労ひびわれの発生と伝播 (その 2)
防衛大 正 〇加 藤 清 志 夫
- (V-32)⑤ コンクリートのモデル化に関する研究
京 大 正 学 〇中 川 浩 二 一 次

▶理学部 1 階物理教室第 1 講義室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (太径鉄筋・継手)
9.00~10.30

- (V-33)⑤ 太径鉄筋 (D51) を用いた柱のねじり強さに関する実験 (第 1 報)
都 立 大 正 学 〇村 田 二 郎 光 信 允 次
- (V-34)⑤ 太径異形鉄筋 (D51) の定着強度に関する実験的研究
住友金属 正 〇白 士 堅 川 秀 潔
- (V-35)⑤ 太径異形鉄筋 (D51) の重ね継手に関する実験的研究
住友金属 正 〇白 士 堅 川 秀 潔
- (V-36)⑤ 太径異形鉄筋の重ね継手の力学的性状に関する基礎研究
電 研 正 〇岡 田 憲 次 郎
- (V-37)⑤ 太径鉄筋の継手について
東 大 正 学 〇岡 田 憲 次 郎
- (V-38)⑤ 異形鉄筋の重ね継手の破壊機構について
東北大 正 学 〇大 後 藤 幸 浩 正 司

(休憩 10 分)

個人発表 (ねじりモーメント)
14.40~15.55

- (V-76)⑤ ねじりを受けるプレストレストコンクリート矩形はりについて
立命館大 正 児島 孝之
- (V-77)⑤ 曲げねじりをうける鉄筋コンクリート部材の破壊機構
早大 正 松島 博
- (V-78)⑤ 純ねじりを受ける鉄筋コンクリート部材の破壊実験
日大 正 北村 勇一 輔美
- (V-79)⑤ 逆L型構造物隅角部のねじり応力についての考察
—光弾性実験— 神奈川大 正 戸塚 和幸 学男明
- (V-80)⑤ コンクリートラーメン隅角部の補強鉄筋に関する実験
的研究—ねじりモーメントが作用した場合—
オリエンタルC 正 津野 和幸 雄二

▶理学部 1 階物理教室第 2 講義室・10 月 22 日 (日)

個人発表 (コンクリートの耐久性)
9.00~10.30

- (V-81)⑤ 養生程度がコンクリートの耐久性に与える影響
北海道大 正 前川 静男 隆
- (V-82)⑤ 骨材の質によるコンクリートの耐久性に関する研究
東北電力 正 三浦 忠茂
- (V-83)⑤ コンクリートの凍結融解に関する二、三の実験
北見工大 正 鮎田 耕一
- (V-84)⑤ コンクリート構造物の凍害について
東北大 正 後藤 幸三 正徳直三
東北大 正 藤山 正昭
- (V-85)⑤ コンクリートの耐硫酸塩性促進試験に関する研究
鳥取大 正 西本 新英彦 誠郎次
- (V-86)⑤ 耐熱コンクリートの開発研究
東工大 正 長瀬 憲夫 義夫男
大成建設 正 長瀬 憲夫 義夫男
日本揮発油

(休憩 10 分)

個人発表 (海中コンクリート・その他)
10.40~11.55

- (V-87)⑤ 海岸コンクリート構造物の劣化について
運輸研 正 関 博
- (V-88)⑤ 海水淡水化装置用コンクリート毎体の開発
東京工試 正 藤野 欽二郎 一
- (V-89)⑤ 海水淡水化装置用コンクリート毎体の熱応力について
鹿島建設 正 野田 陽雄 一郎 昭彦 治
- (V-90)⑤ コンクリートの熱拡散率に関する二、三の考察
秋田大 正 徳田 弘美
- (V-91)⑤ 膨張セメントコンクリートの熱拡散率
秋田大 正 徳田 弘美 一

(休憩 65 分)

個人発表 (混和材料・その他)
13.00~14.45

- (V-92)⑤ コンクリートの強度発現におよぼす混和温度の影響
千葉工大 正 野口 豊輔 勝広
- (V-93)⑤ 各種膨張混和材を用いたコンクリートの膨張特性に関する研究
法政大 正 高野 介雄
- (V-94)⑤ アルミナセメントコンクリートにおける各種混和材の複合効果について
法政大 正 小鈴 林木 正正 九治

- (V-95)⑤ ポズラン材としての粉砕フライアッシュの性状
中国電力 正 藤原 洋一 一雄
- (V-96)⑤ エポキシ樹脂モルタルの耐酸、耐摩耗効果
北海道大 正 前川 川村 静 男武隆
- (V-97)⑤ ポリマーセメントモルタルの性質について
阪工大 正 見仁 玉枝 武三 保
- (V-98) (欠番)

▶工学部鉄鋼冶金学教室 2 階第 1 講義室・
10 月 20 日 (金)

個人発表 (アスファルト)
13.00~14.30

- (V-99)⑤ アスファルトコンクリートの温度応力について
鹿島建設 正 重松 和 男健
- (V-100)⑤ アスファルト合材の高温における力学的性質に関する研究
北大 正 上島 壯
- (V-101) アスファルト舗装の温度分布に関する室内実験
大林道路 正 高橋 哲 躬彦
- (V-102)⑤ ホットストレージによるアスファルトの老化的研究
—老化防止剤と試験法の検討—
東亜道路 正 笠原 靖正 彦
- (V-103) アスファルト混合物の強度特性に関する一考察
中央大 正 木 竜 雄
- (V-104) 三軸圧縮試験によるアスファルトコンクリートの性質
について
愛知工大 正 大建 義英 村夫

(休憩 10 分)

個人発表 (アスファルト)
14.40~15.40

- (V-105) 繊維を添加したアスファルト合材に関する一考察
阪市大 正 三山 眞優信 行
- (V-106)⑤ プラスチックを混入したアスファルト合材の性状について
名城大 正 中井 清稔 剛
- (V-107) アスファルトの E.V.T. に関する一考察
セントラルC 正 間 山原 正照 一雄
- (V-108)⑤ アスファルト舗装表面における Mud Curling 現象について
鹿島道路 正 遠藤 一紀 男郎

▶工学部鉄鋼冶金学教室 2 階第 1 講義室・
10 月 21 日 (土)

個人発表 (アスファルト・その他)
9.00~10.30

- (V-109) アスファルト合材の結固めに関する二、三の実験
室蘭工大 正 新田 泰野 卷野
- (V-110) アスファルトフェーシングの破壊に対する一考察
鹿島建設 正 重松 和 男健
- (V-111)⑤ アスファルト混合物の動的、静的試験の関連について
東工大 正 渡辺 隆政 人
- (V-112) アスファルト合材の動的応答に関する研究 (第 2 報)
北工大 正 笠原 照和 雄夫
- (V-113) アスファルト合材の破壊強さに関する研究—特に引張
強さについて— 北建設 正 高野 博一
- (V-114) 水濡コンクリートの圧縮強度について
西日本工大 正 田中 信昌 也文男

(休憩 10 分)

個人発表 (くい・矢板・その他)

10.40~11.55

- (V-115) 2,3の土木材料用語について
昭和地下 正 松 本 鍊 三
昭 和 地 下 正 松 本 鍊 三
- (V-116) ⑤ コンクリートくいの打撃時応力解析と各種定数の実測について
丸 東 九 工 大 正 学 〇 渡 邊 義 明 一
丸 東 九 工 大 正 学 〇 渡 邊 義 明 一
- (V-117) ⑤ コンクリートくいの衝撃応力波の特性がくいに与える影響について
立 命 館 大 正 〇 尼 崎 省 孝 外 世 樹
立 命 館 大 正 〇 尼 崎 省 孝 外 世 樹
- (V-118) ⑤ 鋼管矢板の打込み方法について
川 崎 製 鉄 正 〇 越 後 勇 吉 司 之
清 水 建 設 〇 前 末 田 延 宗 隆
- (V-119) ⑤ 都営地下鉄6号線古川下横断、鋼管矢板水平圧入工事 (アーマ-工法) 施工報告
東 京 都 北 本 正 司 徹 弘 司
西 松 建 設 〇 吉 石 田 倉 克

(休憩 65 分)

個人発表 (施工一般)

13.00~14.30

- (V-120) ⑤ 超高圧噴流による遮水壁の造成工法
法 政 大 正 〇 山 門 明 雄 彦 孝
新 技 術 開 発 三 信 建 設 〇 荒 鈴 木 重 和
- (V-121) ⑤ 道路舗装の Rutting 現象について
北 大 正 〇 菅 原 照 雄
- (V-122) ⑤ スリップフォーム工法におけるクラッキングロッドの座屈について
労 働 省 森 玉 宜 制 巳 三
武 蔵 工 大 正 〇 小 飛 鳥 建 設 正 〇 小 林 克 清
- (V-123) ⑤ 地下鉄駅シールドに関する二、三の実施例
帝 都 高 速 正 〇 渡 邊 健
- (V-124) 新東京国際空港の連続鉄筋によるエプロン舗装工事について
空 港 公 団 〇 正 〇 石 井 洋 孝 誠 夫
- (V-125) 軟岩の掘削強度測定法に関する実験的研究
京 大 正 〇 島 昭 治 郎 見 二
〇 岡 村 田 昭 治 郎 見 二
〇 学 村 田 昭 治 郎 見 二

(休憩 10 分)

個人発表 (施工一般・その他)

14.40~15.55

- (V-126) 硬岩盤掘削における溝の影響について
京 大 正 〇 島 昭 治 郎 見 一
京 阪 電 鉄 〇 山 村 本 昭 治 郎 見 一
- (V-127) ⑤ 肉厚の薄い部材を即時脱型する場合の配合と強度について
徳 島 大 正 〇 荒 木 謙 一 清 之
神 戸 市 〇 河 野 井 弘
- (V-128) ⑤ 軽量粗骨材の吸水がコンクリートの諸性質に及ぼす影響
広 島 大 正 〇 米 倉 兼 州 夫
- (V-129) 鋼構造土木施設の電気防蝕について
水 資 公 団 正 永 井 正
- (V-130) 工事積算システムプログラム作成における効率的な手法について
阪 神 高 速 正 〇 野 塚 幹 友 仁 剛 重
日 本 IBM. 正 〇 野 塚 幹 友 仁 剛 重

▶工学部鉄鋼冶金学教室 2 階第 1 講義室・

10月22日(日)

個人発表 (コンクリート部材の設計)

9.00~10.30

- (V-131) ⑤ 鉛直なひびわれを持つ鉄筋コンクリート梁の破壊実験
日 大 正 〇 原 北 田 勝 忠 勇 勝 輔
- (V-132) ⑤ 鉄筋コンクリート桁のひびわれに及ぼす桁高の影響について
北 大 正 〇 高 田 与 史 雄 之
- (V-133) ⑤ プレテンション桁端部の水平ひびわれ幅制御について
神 戸 大 正 〇 藤 井 井 村 木 泰 学 寿 毅
- (V-134) 7径間連続 PC 鉄道橋 (太田川橋りょう) の設計について
国 鉄 正 〇 宮 橋 高 岡 敏 男 之 寛
- (V-135) ⑤ アンボンド PC げたの曲げ特性に関する一考察
国 鉄 正 〇 宮 島 本 居 征 典 夫 彦
- (V-136) ⑤ Unbonded PC 桁に関する一実験
木 更 津 高 専 正 〇 小 池 川 晋 二

(休憩 10 分)

個人発表 (コンクリート部材の設計)

10.40~11.55

- (V-137) ⑤ PCR V に関する開発研究 (その1)
光弾性実験およびプラスチック模型実験
東 京 電 力 正 〇 神 野 美 陽 郎 一
鹿 島 建 設 〇 赤 井 哲 次 郎
- (V-138) ⑤ PCR V に関する開発研究 (その2)
コンクリート模型による諸実験
東 京 電 力 正 〇 工 藤 豊 典 利 二
鹿 島 建 設 〇 石 谷 善 隆
- (V-139) ⑤ PCR V に関する開発研究 (その3)
マルチキャビティ型 (PCR V) 模型内圧実験
1-プレストレス導入時および弾性時の挙動
鹿 島 建 設 正 〇 野 山 尻 陽 敏 忠 一 敏 彦
- (V-140) ⑤ PCR V に関する開発研究 (その4)
マルチキャビティ型 (PCR V) 模型内圧実験
2-過圧状態および破壊時の挙動
鹿 島 建 設 正 〇 内 藤 豊 章 之 夫
〇 竹 中 野 田 正 哲
- (V-141) ⑤ PCR V に関する開発研究 (その5)
材料特性に関する研究
鹿 島 建 設 正 〇 小 谷 一 三 彦
〇 阿 部 保

(休憩 65 分)

個人発表 (PCPV・PC ロッド)

- (V-142) ⑤ PCPV 模型実験について (その1)
電 源 開 発 正 〇 和 田 滋 郎 郎 郎 明
〇 大 西 大 中 西 外
- (V-143) ⑤ PCPV 模型実験について (その2)
電 源 開 発 正 〇 和 田 滋 郎 郎 郎 明
〇 大 西 大 中 西 外
- (V-144) ⑤ PC ロッド埋込み式コンクリート床版の実験的研究
名 大 正 〇 成 岡 昌 夫 敏 夫 之
首 都 高 速 〇 小 野 村 和 敏 夫 之
日 本 工 営 〇 小 野 村 和 敏 夫 之
PS 公 司 〇 三 輪 泰 之
- (V-145) ⑤ PC ロッド合成梁の力学的性状
東 工 大 正 〇 長 滝 重 義 司
〇 後 藤 謙 子
- (V-146) PC ロッドを用いたコンクリート連続合成はりについて
岐 阜 大 正 〇 大 浜 文 彦 夫 夫
愛 知 県 〇 小 笠 原 秀 夫 夫

土木学会投稿の手引き

●土木学会投稿の手引き特別小委員会・編集●

B5・40 ページ 350 円 (〒 70 円)

1. はじめに
2. 土木学会誌・土木学会論文報告集投稿要項解説
3. 土木学会投稿原稿の書き方
4. 欧文論文のまとめ
5. オフセット用原稿の書きかた、など、付録つき

祝 土木学会昭和47年度全国大会

株式会社 大林組

取締役社長 大林 芳郎

東京本社 東京都千代田区神田司町2ノ3 TEL東京(292)1111(大代表)
本店 大阪市東区京橋3ノ75 TEL大阪(941)0861(大代表)
支店 札幌・仙台・横浜・名古屋・神戸・岡山・広島・福岡・高松

鹿島建設株式会社

取締役会長 鹿島 守之助

取締役社長 渥美 健夫

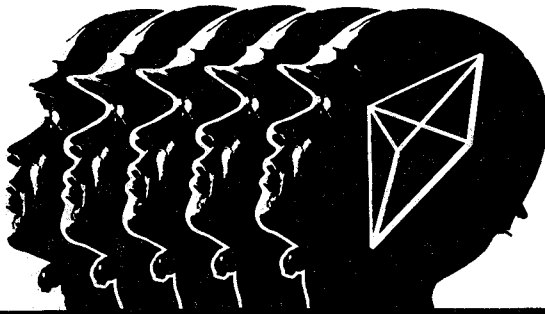
本社 東京都港区元赤坂1丁目2番7号 電話東京(404)大代3311
支店 札幌・仙台・横浜・名古屋・大阪・広島・四国・九州



清水建設

会長 吉川 清一
社長 野地 紀一

本社 東京都中央区宝町2-1-1 〒104
TEL.東京(535)4111
支店 名古屋・大阪・広島・高松・福岡
金沢・仙台・札幌



「科学」と「人の和」で
建設する

大成建設

取締役社長=南 幸治
①04 東京都中央区銀座2-5-11
電話=(03)567-1511(大代表)

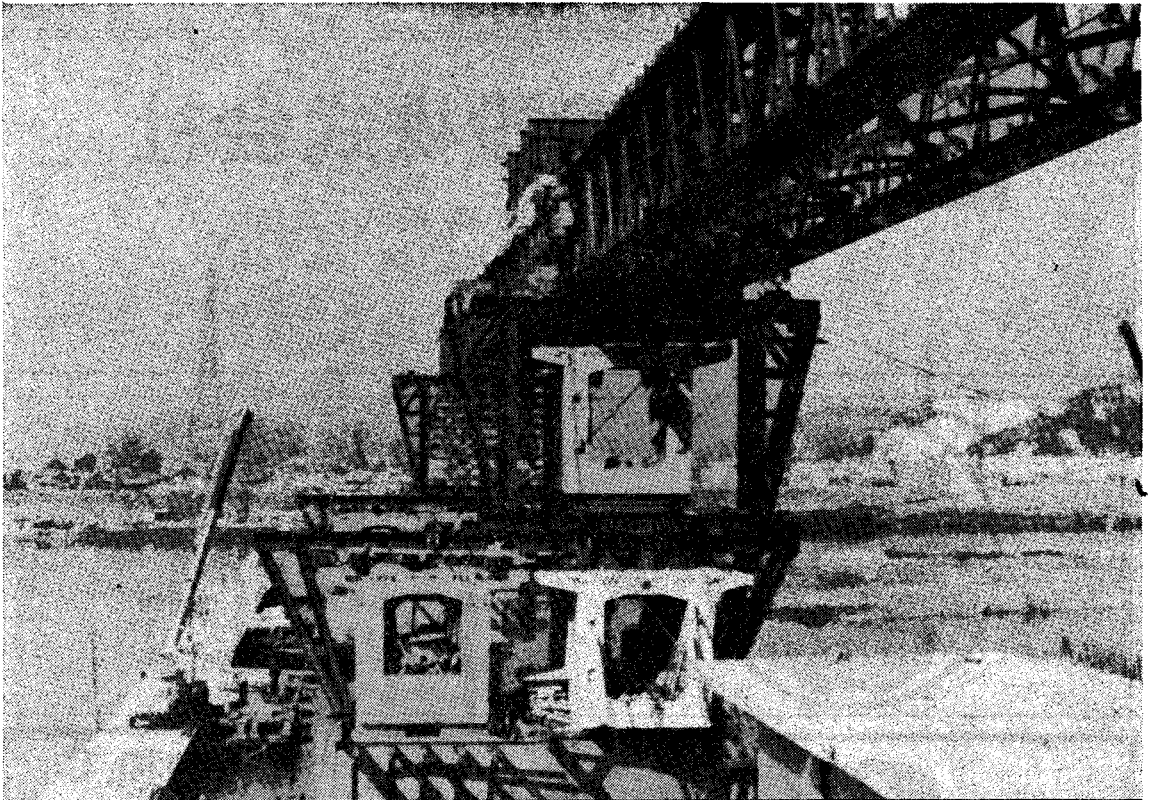
一般土木  浚渫・埋立

東洋建設株式會社

取締役社長 藤井 八郎

本社 大阪市東区高麗橋5丁目(興銀ビル) 電話大阪(202)代表3961
東京本部 東京都千代田区神田錦町3丁目7番地1(興和一橋ビル) 電話東京(291)代表5461
東京支店 北海道・東北・北陸・名古屋・大阪・中国・四国・九州 営業所千葉・横浜・沖縄
支店

住みよい国造りに活躍する 建設七社



熊谷組



佐藤工業



鉄建建設



飛島建設



西松建設



間組



前田建設

祝 土木学会昭和47年度全国大会

“橋、は川田の技術で

 川田工業株式会社

取締役社長 川田 忠雄

本社 富山・福野・4610 TEL 2101
 東京支社 文京・本駒込・3-29-7 TEL (942)0161
 大阪支社 西・土佐堀船・15 TEL (443)6051

OX JACKS リース

油圧各種ジャッキ電動、手動式・PC鋼線棒引張ジャッキ・土圧計・
 載荷試験及嵩上工事設計施工

オックス ジャッキ コンサルタント株式会社

東京都中央区新富1-2-10 電話 東京 (553) 3501 (代表)

- ◎ 薬液注入工事 (M・I、L・W工法、その他高分子系) (軟弱地盤の固結並
 びに漏勇水防止)
- ◎ レオパノールBAシートによる防水工事 (ずいどう橋梁其他) ◎ アスファルト防水工事 (地下鉄・地下室
 防水及び耐酸防蝕) (高架線・陸屋根)
- ◎ 直結軌道工事に伴うアスファルトセメントモルタル注入工事



日本総合防水株式会社

取締役社長 山崎 健一郎

本社 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の20 電話 (403) 0171 (代)
 大阪支店 大阪市東淀川区瑞光通り3の4 電話 (329) 1023 (代)
 名古屋営業所 名古屋市西区輪の内町3の36 (日置ビル) 電話 (571) 2428・9
 福岡営業所 福岡市中央区薬院1-16-23 電話 (74) 3107



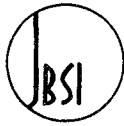
- 取扱業務 = 上水道・下水道・工業用水道・工業廃
 水処理・農業水利その他利水工事の
 調査・事業計画・実施設計・工事監督

日本上下水道設計株式会社

社長 工博 板倉 誠

東京都港区新橋3丁目11番8号 電話 (432) 4321代
 大阪事務所 大阪市北区神山町40番地 電話 (06) 312-2031
 北九州事務所 北九州市八幡区黒崎3-1-3 電話 (093) 631-3165
 名古屋出張所 名古屋市東区松山町2番地 電話 (052) 962-2421
 札幌出張所 札幌市中央区大通西4丁目 電話 (011) 231-0948
 広島出張所 広島市東千田町1-3-12 電話 (0822) 41-3158
 仙台出張所 仙台市中央3-2-1 電話 (022) 66-2821

祝 土木学会昭和47年度全国大会



株式会社 日本構造橋梁研究所

取締役社長 工学博士 田原保二
 取締役副社長 工学博士 猪股俊司
 取締役副社長 工学博士 久保義光
 所在地 東京都港区南青山5の12-4号(全業連ビル)
 TEL (400) 9101-5

主要営業種目
 橋梁・道路・建築
 コンサルタント
 試験研究
 設計
 調査
 測量
 施工管理

電気防蝕法

流電陽極方式
 アラノード

高濃度亜鉛塗料
 ゼッタール



鋼杭をさびから守る

建築基礎・橋梁基礎・棧橋等

調査—設計—施工

日本防蝕工業株式会社

本社 東京都千代田区丸の内1-6-4(交通公社ビル) 電話東京(211) 5641(代表)
 大阪事務所 大阪市西区江戸堀北通2-22 電話大阪(443)9271-5
 出張所 名古屋・四日市・広島・福岡・長崎・福山・札幌・仙台・千葉

創業50年! 橋づくりで社会に貢献する——



日本橋梁株式会社

本社・工場 大阪市淀川区長柄浜通1丁目1番地 TEL 06-358-1271 (代表)
 東京支店 東京都中央区日本橋通3丁目7番地 TEL 03-272-3671 (代表)
 九州営業所 福岡市中央区天神1丁目9番17号 TEL 092-74-5088 (代表)
 札幌営業所 札幌市中央区北3条西4丁目1番地 TEL 011-241-8457
 名古屋営業所 名古屋市中区新栄町7丁目3番地 TEL 052-936-2668

建設コンサルタント

橋梁、道路等建設工事の調査、設計施工管理
 構造解析、試験研究、電子計算プログラミング
 測量及地質調査業務

大日本コンサルタント株式会社

取締役社長 老田 務

本社 東京都千代田区神田佐久間町3-38(第五東ビル) 電話 03(862)9634
 技術部 埼玉県越谷市七左町5-1 電話0489(66) 5621
 支所 大阪・名古屋・富山・仙台

土木・建築・線路・電気各工事調査設計施工

不動産の売買・斡旋・管理

東鉄工業株式会社

取締役社長 根来幸次郎

本社 東京都新宿区市谷砂土原町2丁目7
 電話 東京 (268) 代表 4211
 支店 東京・横浜・千葉・水戸・宇都宮・高崎・仙台・建築

道路・水路・堤防・貯水池・各種舗装施工

世紀建設株式会社

取締役社長 大島秀信

本社 東京都港区芝公園2丁目9番3号
 電話 東京 (434) 3251 (大代表)
 支店 札幌・仙台・新潟・東京
 名古屋・大阪・広島・福岡
 技術研究所 相模原市鹿沼台2-17-14
 電話 0427(52) 1219

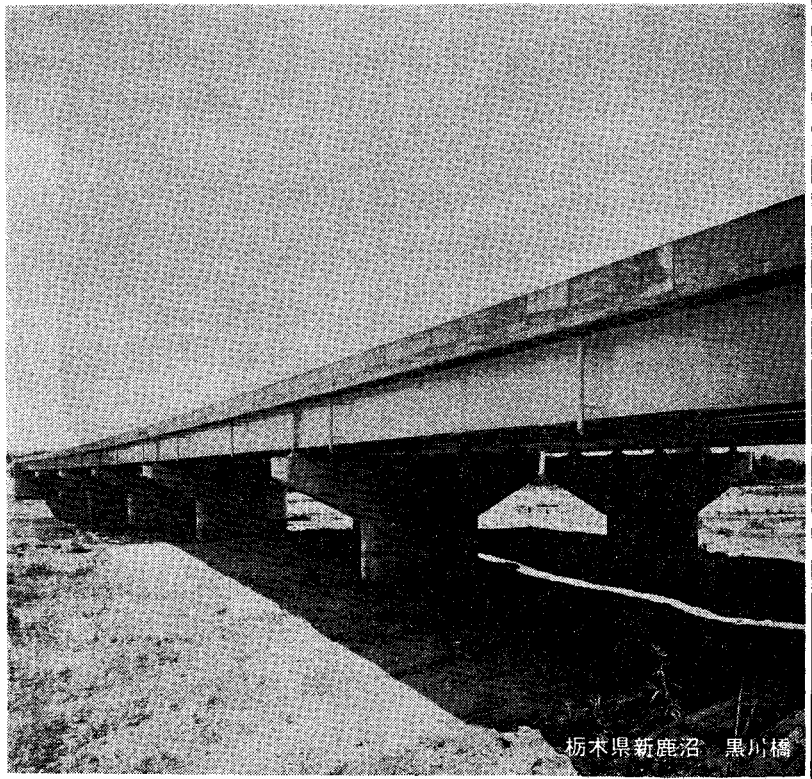
祝 土木学会昭和47年度全国大会



株式会社
宮地鉄工所

本社 東京都江東区新砂2-2-18 電話 645-1141 (大代表)
支社 大阪 工場 東京・松本 営業所 名古屋・札幌・福岡

橋梁・鉄骨



栃木県新鹿沼 黒川橋

土質調査, 土質試験及び土質力学解析, 地表地質踏査, 弾性波探査 電気探査, プレシオメータ測定, 振動測定, その他各種計測, 構造物, 基礎, 道路, 滑走路, 堰堤等の調査及設計, 施工管理, PSアンカー工法等土と基礎に関する総合コンサルタント



基礎地盤コンサルタント 株式会社

代表取締役 森 博

本社 東京都千代田区飯田橋2丁目4番5号(増田ビル) 電話(263)3611(代)
大阪支社 大阪市西区靱2丁目10 電話(443)4951(代)
福岡支社 福岡市西区大字原750-3 電話(83)2511(代)
出張所 札幌(261)8041・仙台(91)4729・名古屋(522)3171(代)・広島(31)4914

菱和の減勢ブロック

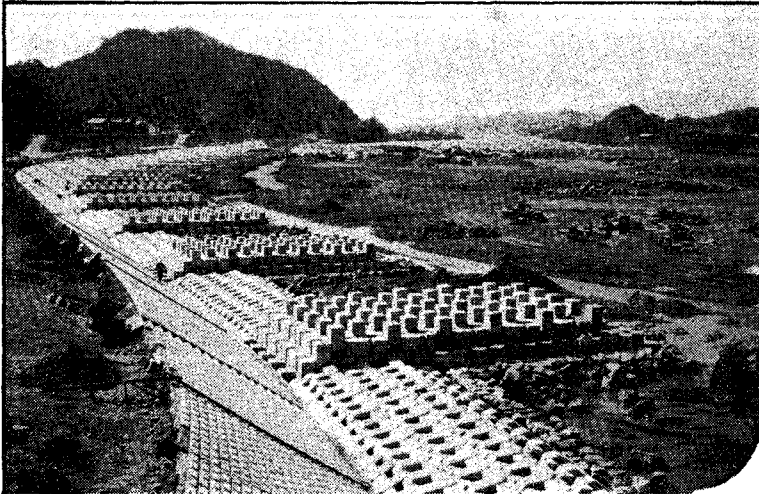
ホロースケヤー



菱和コンクリート工業株式会社

取締役社長 本社 東京都千代田区外神田4-5-4(亀松ビル) TEL03(255)5711代
支店 東京03(255)5793代・大阪06(313)3904代・福岡092(76)7414代
営業所 東北(福島)0245(35)1683代

祝 土木学会昭和47年度全国大会



**強い！
早い！
安い！**

美しく積み上げる
ことができる

ひびきなど防波護岸 2 TON

Asia Constructon Research Inst. 消波根固ブロック協会会員

株式会社 **アジア建設研究所**

本社 〒103 東京都中央区日本橋人形町2-5-4 昭和ワニスビル 電話(03)668-9503代表
北九州出張所 〒802 北九州市小倉区京町3丁目9番3号 三河ビル 電話(093)541-3675
代理店 北海道地区 〒060 伸栄工業株式会社
札幌市南一条西17丁目 同協ビル 電話(011)621-8406
九州・山口地区 〒750 大阿建設株式会社
下関市彦島江の浦4町 電話(0832)66-8331

消波根固ブロック

Gamma

EL

三基ブロック

本社を昭和47年6月より下記に移転致しました。
尚電話番号は従来通りです。



三基ブロック株式会社

本社 東京都港区芝5丁目34番6号 〒108 TEL 03(43)203111
(新田町ビル)
名古屋営業所 名古屋市中区栄3丁目22番25号 〒455 TEL 052(262)2726
新潟営業所 新潟市天神町1-3-7番70号 〒950 TEL 0252(47)7509
出張所 神奈川県・千葉県

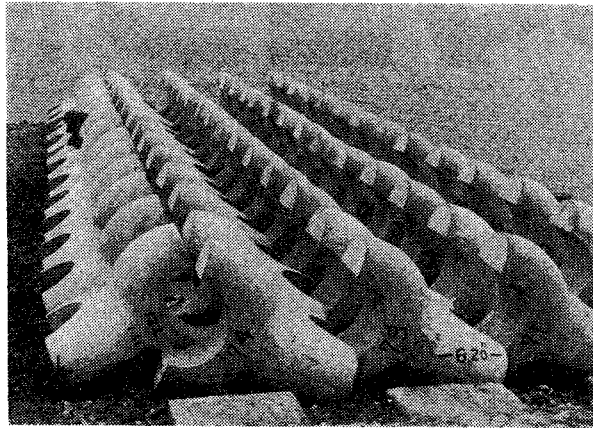
祝 土木学会昭和47年度全国大会

強化プラスチック(F.R.P.)製型枠使用による 消波ブロック「ジュゴン」

●ジュゴンの特徴

接地が三点で重心が低い
ため安定性がよい。曲面、
平面より構成されその組合
せで効果的な消波力が得ら
れる。従って碎波作用もよく
うち上げ波高も小さい

(ご一報次第資料贈呈)



●F.R.P.フォームの特徴

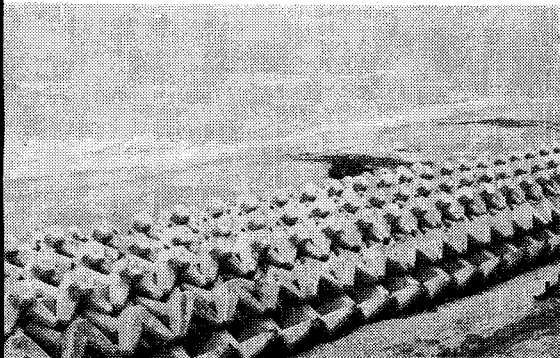
1. 重量が鉄の3分の1程度と**非常に軽い**
2. 耐錆、耐候性に富んでいる。
3. 熱伝導率が鉄に比して小さく、初期表面**クラックを減少**させる事が出来る。
4. コンクリートとのはく離性が良いため仕上り面がきれいで滑面となります。



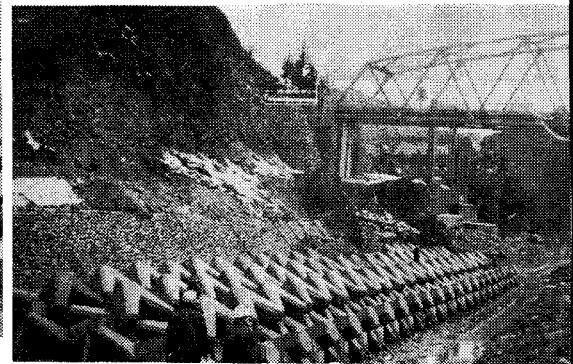
日本フオーム株式会社

東京都千代田区大手町1丁目6番1号大手町ビル安宅産業(株)内
TEL: (03) 217-3428 (大代)

消波根固 W.V (ダブル・ブイ) ブロック



愛知県豊橋海岸



富山県黒部川

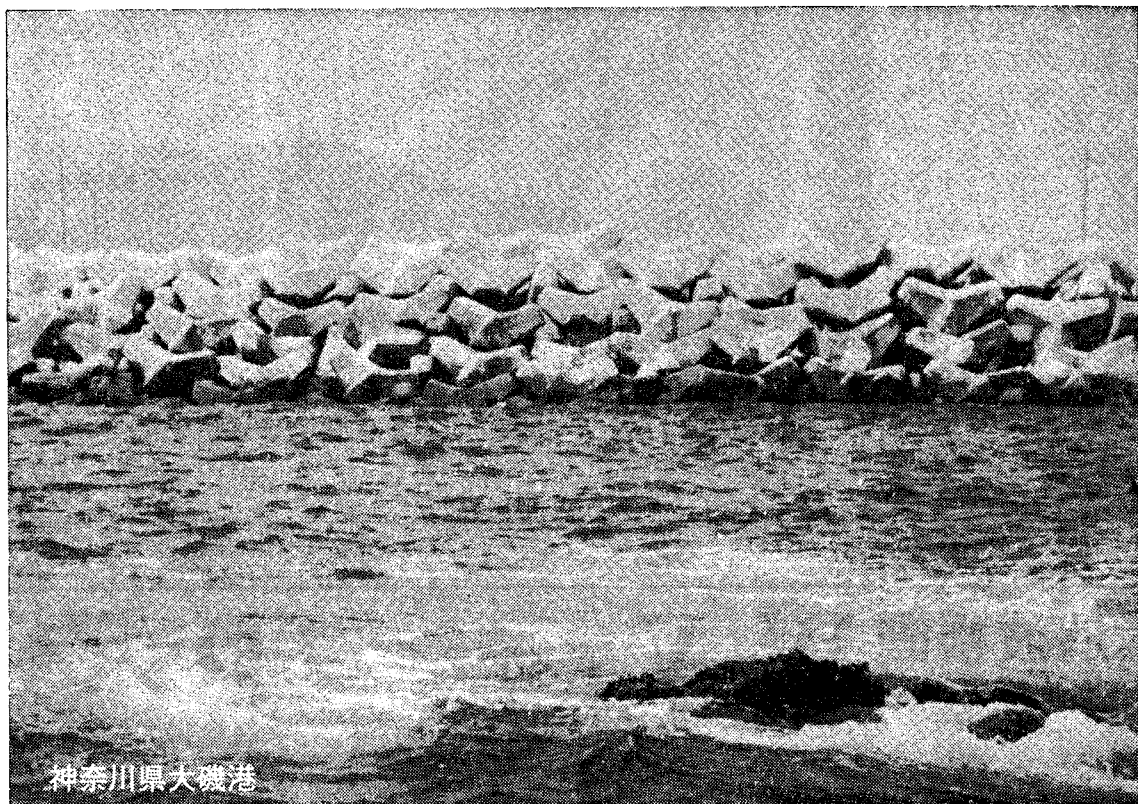
特長

1. 重心が低く、安定性がよい。前脚部が土砂、地盤に入ると安定性及び支持力が更に増大する。
2. 多脚突出型のため捨込工法に最適である。
3. 水流、波力のエネルギーの減勢効果が絶大である。
4. 工事目的に応じ空隙率を加減できる。
5. 型枠構造が相似型で簡単なため打設費用が軽減される。
6. 据付が容易である。

協成工業株式会社

本社 東京都千代田区有楽町1-5
有楽町ビル519号 TEL 212-2686
名古屋営業所 名古屋市中村区泥江町2-1
名駅前東海ビルTEL551-7146
新潟営業所 新潟市花園2-3-8
五洋建設(株)新潟営業所内 TEL 47-0911

* 東亜の消波ブロック ペンタゴン 1ton~25ton



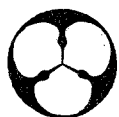
神奈川県大磯港

●主なる用途

1. 護岸
2. 水制、根固、床止
3. 防波堤、導流堤、突堤

●特長 ●空隙率が大きく消波効果大

- かみ合いがよく経済的断面をうる
- 砂地盤に設置した時も沈下が小
- 施工が容易でかつ安価に提供出来る



東亜港湾工業株式会社

本社	東京都千代田区四番町5番地	東京 262-5101
横浜支店	横浜市鶴見区安善町1丁目3番地	横浜 521-1701
大阪支店	大阪市西区靱本町1丁目50番地第2富士ビル	大阪 443-3061
下関支店	下関市大字松小田565番地	下関 46-1111
北海道支店	札幌市北一条西5丁目3番地北一条ビル	札幌 231-5166
名古屋支店	名古屋市中区岩井通2丁目25番地戸田ビル	名古屋 321-8471
シンガポール事務所	Chow House, 140 Robinson Road Singapore 1	
香港事務所	90 Waterloo Road, 2nd, floor Kowloon, Hong Kong	

消波根固ブロック協会

会長 山内 耕助

東京都港区芝琴平町1番地 虎門琴平会館ビル4階

協会会員 (五十音順)

- | | |
|-------------------------------|--|
| (株) アジア建設研究所
ガンマー・エルブロック | 代表取締役 徳永 視
本社 中央区日本橋人形町2-5-4 昭和ワニスビル7階 〒103 ☎03-668-9503 |
| 技 研 興 業 (株)
六脚ブロック | 取締役社長 角田 式美
本社 港区六本木5の2の4 鳥勝ビル 〒106 ☎03-403-1591 |
| 協 成 工 業 (株)
W・Vブロック | 取締役社長 藤野 淳介
本社 千代田区有楽町1-5 有楽町ビル5階519 〒100 ☎03-212-2685 |
| 共同コンクリート工業(株)
四方錐(X)ブロック | 取締役社長 長井 謙介
本社 和歌山市小松原通3-3 〒640 ☎0734-23-7161 |
| 三 基 ブ ロ ッ ク (株)
三基ブロック | 代表取締役 村上 喜千雄
本社 港区芝5-34-6 新田町ビル 〒108 ☎03-453-2031 |
| シ ョ ー ク 工 業 (株)
シニーク | 代表取締役 高森 康夫
本社 神戸市灘区浜辺通5-2-1神戸商工貿易センタービル708号 〒651 ☎078-251-4155 |
| 治 水 工 業 (株)
中空三角ブロック | 取締役社長 高森 正之
本社 大阪市北区太融寺町3-3 大阪合同ビル 〒530 ☎06-312-1878 |
| 東 亜 港 湾 工 業 (株)
ベントコン | 代表取締役 岡部 三郎
本社 千代田区四番町5 東亜ビル 〒102 ☎03-262-5101 |
| 東洋建設(株)ブロック部
合掌ブロック | 取締役社長 藤井 八郎
本社 大阪市西区江戸堀北通1-1-8 小谷ビル 〒550 ☎06-443-8971 |
| 日 建 工 学 (株)
三連ブロック | 取締役社長 行本 昌司
本社 新宿区西新宿1-1-8-2 新建ビル 〒160 ☎03-343-7231 |
| 日 本 ア ク モ ン (株)
アクモン | 取締役社長 金下 修三
本社 京都市中京区丸太町烏丸西入 金下ビル 〒604 ☎075-211-8414 |
| 日 本 コ ー ケ ン (株)
コーケン | 取締役社長 糸川 正実
本社 港区西新橋3-1-9-1-4 千代田会館 〒105 ☎03-434-3057 |
| 日 本 テ ト ラ ポ ッ ド (株)
テトラポッド | 取締役社長 江口 辰五郎
本社 港区新橋2-1-3 新橋富士ビル 〒105 ☎03-501-7681 |
| 三 井 不 動 産 (株)
三柱ブロック | 取締役社長 江戸 英雄
本社 中央区日本橋室町2-1-1 三井ビル 〒103 ☎03-241-2251 |
| 菱和コンクリート工業(株)
ホロースケヤー | 取締役社長 山内 耕助
本社 千代田区外神田4-5-4 亀松ビル 〒101 ☎03-255-5711 |

祝 土木学会昭和47年度全国大会

弾性系の動的安定

B.B.ポローチン著
近藤誠治・中田和夫共訳

B 5・402頁・5600円(〒170)

動的安定を系統的に取扱った最初の書である。3編22章からなり、初歩から最先端の研究まで、すべての要素にわたり詳述されている。この方面の研究にたずさわる学者・技術者に名著として推薦される。

土木用語辞典

(社)土木学会監修/編集委員会編/編集委員長 本間 仁

B 6・1446頁・5500円(〒170)

〈4大特色〉

1. 土木工学全般にわたって、語数10,000語を収録した。
2. 執筆関係者100余名の方々が、10年の歳月を費して完成した。
3. 収録土木工学用語には定義をつけた。
4. 収録土木工学用語に、それぞれ英、独、仏語の用語をつけた。

新編土木工学講座 (既刊13冊)

- | | | |
|----------------|-----------------|-------|
| 1. 土木応用数学 | 近藤・江崎著 | 1100円 |
| 3. 図学概論 | 改発・島村著 | 660円 |
| 5. 土木地学 | 横山・鈴鹿著 | 1100円 |
| 6. 測量(1) | 長谷川・笠松著 | 1160円 |
| 7. 測量(2) | 長谷川・笠松著 | 1200円 |
| 8. 土木材料学 | 近藤・谷本・岸本著 | 1100円 |
| 9. 構造力学(1) | 宮原・高端着 | 1100円 |
| 10. 構造力学(2) | 〃 | 1100円 |
| 11. 土質工学 | 岸田・中野著 | 1150円 |
| 12. 水理学 | 細井・杉山著 | 1370円 |
| 13. 鉄筋コンクリート工学 | 近藤・内海・岸本著 | 1260円 |
| 16. 港湾および海岸工学 | 菅野・寺西著
堀口・佐藤 | 1080円 |
| 18. 鉄道工学 | 宮原・雨宮著 | 870円 |

東京都文京区千石4-46-10
郵便番号112



コロナ社 振替東京 14844
電話 (03)941-3131(代)

文献目録

地震工学

編：金井 清

明治中期より昨年にいる、38種の国内学術刊行物に発表された地震工学関係の文献約4300タイトルのリスト。主題別配列のほか、著者索引、および項目索引として目的・方法・対象別に分類。

金井博士多年にわたる労作。必備の文献集限定部数市販いたします。

定価6,000円(共)

財団法人 学術文献普及会

152 東京都目黒区大岡山2 東京工大内 TEL(03)726-3117 振替東京819